

**2019 年度**  
**障害のある人を対象とした演劇ワークショップ**  
**検証報告書**

～福岡県立ももち文化センターによる社会包摂事業を対象に～

九州大学大学院芸術工学研究院長津研究室



## 目次

要約.....	4
<u>1. 概要.....</u>	<u>6</u>
1-1. 目的.....	6
1-2. 事例概要.....	6
<u>2. 検証方法の検討.....</u>	<u>9</u>
2-1. 前年度の検証結果からの検討.....	9
2-2. 参加型評価の導入とアレンジ.....	9
2-3. 研究スケジュール.....	10
<u>3. 事前準備～評価の設計.....</u>	<u>12</u>
3-1. 実施手順.....	12
3-2. 立てられた目標.....	14
<u>4. データの収集・分析.....</u>	<u>16</u>
<u>5. 結果.....</u>	<u>17</u>
5-1. アーティスト：多様な立場の人たちの意見をもとにした表現が生まれる.....	17
5-2. 障害のある参加者：ワークショップが非日常的でサードプレイスの場として機能する.....	34
5-3. 参加者の家族：今まで知らなかった障害当事者の姿が見られる.....	41
5-4. 文化施設職員：文化施設に当たり前に障害のある人が参加する環境が生まれる.....	48
<u>6. 考察.....</u>	<u>53</u>
6-1. ロジックモデルの再検討：全体でのWS振り返り会（2020/3/13）を経て.....	54

6-2. ロジックモデルの提案：次年度ワークショップ開催に向けて .....	61
6-3. 次年度の検証に向けて .....	63
<u>資料 .....</u>	<u>64</u>
1. ワークショップ記録 .....	65
2. アンケート結果と配布したアンケート .....	103
3. 告知関連資料 .....	129
<u>執筆者一覧 .....</u>	<u>133</u>



## 要約

本報告は、九州大学大学院芸術工学研究院長津研究室における「障がいのある人を対象とした演劇ワークショップの検証方法に関する研究」の報告書であり、「表現の面白さを体感するワークショップ」（2019年10月～2020年2月）について詳細な分析を行った。

前年度の検証を踏まえ今年度事業では、①本事業や検証に対してステークホルダーたちがどのような視点を求めているのかをあらかじめ把握しすりあわせることと、②具体的な現場で何が起きているのかをミクロな視点で追いかけていくことの2点を重要視することとし、参加型評価という考え方を導入し、ワークショップ実施前にあらかじめワークショップの達成目標について検討を行い、ワークショップ実施後にその達成目標が妥当であったか質的に検討を行うことを目指した。

事前に、ヒアリングと合議により、本事業に関係する人々の思いを伺い、本事業の目標のすり合わせを行った。その結果、本事業の最終目標は、「文化芸術を通じて、障害のある人やそれを支える人同士が新たな表現や関係を生み出す」と位置づけられた。また中間目標として、「文化施設が、多様な立場の人が演劇の手法で共に遊び・交流する場となる」という言葉が置かれた。そのうえで、「アーティスト」「障害のある参加者」「参加者の家族」「文化施設職員」という立場それぞれの達成目標について細分化して検討を行ない、暫定的なロジックモデルを作成した。

事後には、これらの細分化した達成目標がどのように実現されているかを検証するため、映像記録、フィールドノート、アンケート、ファシリテーターの振り返り記録などをもとにした分析を行うことで、今後の事業を実施していくうえでの目標の再検討の足掛かりをつくることを目指した。

目標の再検討にあたっては、2段階のプロセスを経た。1段階めには、ワークショップの各種記録をもとに観察者の視点から整理を行った。また2段階めには、本事業に関係する人々に再びお話を伺うことで、参加者の視点から整理を行った。これらを踏まえて作成したロジックモデルが次頁に記載のものである。

今年度は達成目標の精査を行なったが、次年度以降も事業が何らかの形で継続することを見越し、今後はこの目標がいかに達成されているかの評価指標の検討と、それらを踏まえた実際の評価を行うことを目指す。

最終目標：文化芸術を通じて、障害のある人やそれを支える人同士が新たな表現や関係を生み出す

中間目標：文化施設が、多様な立場の人が演劇の手法で共に遊び・交流する場となる

↑

	アーティスト	障害のある参加者	<u>障害当事者を支える支援者（家族・福祉施設職員等）</u>	文化施設職員
達成目標	ワークショップが、アーティストと参加者の共同創作の場となり、互いに創作する主体として関わ合う	参加者にとってワークショップが居場所になる	支援者が障害当事者の新たな側面を知ること、日常生活に変化が起こる	ももち文化センターが、障害当事者の表現したいことを実現できる施設になる
↑	即興的な表現が生まれ、みんなでもっと面白いものを探求できるようになる	参加者がワークショップを体験することで、心の変化したり、自己を発見したりする	ワークショップをきっかけに、障害当事者を支える人たち同士の新たな関係性が生まれる	社会包摂事業に関わる企画やワークショップが増える
↑	ワークショップが、安心して表現できる場になる	参加者が、他の参加者やアーティストとの関係性を深める	障害当事者の新たな側面に気づくことで、当事者との新たな関わりが生まれる	ワークショップに参加する人や、関心を寄せる人・組織が増える
↑	参加者の表現が尊重される	ワークショップの中で新たな出会いが生まれる	ワークショップの中で、今まで知らなかった障害当事者の姿を発見することができる	社会包摂に関わるももち文化センターの活動をブランド化し、外部に広める
↑初期	参加者に合った声かけやプログラムが実施される	ワークショップが安心して参加できる場になる	ワークショップに対する理解が促され、当事者のワークショップ参加をサポートできる体制が整えられる	文化施設職員が、社会包摂に関わるワークショップの内容や意義について関心を持ち、理解する

# 1. 概要

## 1-1. 目的

本報告は、九州大学大学院芸術工学研究院長津研究室における「障がいのある人を対象とした演劇ワークショップの検証方法に関する研究」の報告書である。2019年10月～2020年2月に福岡県福岡市で行われた演劇・ダンスワークショップを軸として、演劇ワークショップに関わる人々が何を期待し、それらがどのように実際に行われているのか、またそれらはどのように検証していくべきかという視点についての考察を行うものである。

なお本事例は2017（平成29）年度に同一主体により実施された特別支援学級における演劇コミュニケーション講座（研究報告書<sup>1</sup>ならびに研究論文<sup>2</sup>としてまとめた）と、2018（平成30）年度に同一主体により実施された福岡県立ももち文化センターや県内の特別支援学級で行われた演劇ワークショップ（研究報告書<sup>3</sup>ならびに研究論文<sup>4</sup>としてまとめた）の続編である。

## 1-2. 事例概要

本事業は、以下事例についての検証である。

### ○「表現の面白さを体感するワークショップ」（2019年10月～2020年2月）

本事業は、福岡県立ももち文化センターがコーディネートを行い、スペシャルオリンピックス日本・福岡<sup>5</sup>との協働で実施されたものである。前年度に実施された「スペシャルオリ

---

<sup>1</sup> 長津結一郎（監）『平成29年度特別支援学級における演劇コミュニケーション講座検証報告書』九州大学大学院芸術工学研究院長津研究室、2018年

<sup>2</sup> 長津結一郎、中山博晶、松井志穂「演劇ワークショップの社会包摂的側面への期待とその実際：特別支援学級における演劇ワークショップを事例に」、『芸術工学研究』第29号、2018年、pp.21-31

<sup>3</sup> 長津結一郎（監）『平成30年度 障害のある人を対象とした演劇ワークショップ 検証報告書 ～福岡県内A小学校「演劇コミュニケーション講座」と、「スペシャルオリンピックス日本・福岡 表現プログラム」を事例に～』九州大学大学院芸術工学研究院長津研究室、2019年

<sup>4</sup> 長津結一郎、中山博晶、藤原健司「障害のある人が表現活動に関わる場におけるファシリテーションの分析に向けた考察 —演劇・ダンスワークショップへのフィールドワークを通じて—」、『アートマネジメント研究』第20号、2020年、pp.XX-XX（採録決定）

<sup>5</sup> スペシャルオリンピックスとは、知的障がいのある人たちに、日常的なスポーツプログラムと、その成果の発表の場である競技会を、年間を通じて提供し社会参加を応援してい



ンピックス日本・福岡 表現プログラム 演劇&ダンスワークショップ」(2018年10月～2019年1月)の後継プログラムであり、スペシャルオリンピックスで活動するアスリートだけではなく、幅広い参加者を募るべく名称を変更した。ファシリテーターとして、昨年度から継続で、福岡県内で活動する演劇・ダンス分野のアーティストを招聘した。

以下は基本データである。

日程	①2019年10月18日(金) ②2019年11月8日(金) ③2019年11月22日(金) ④2019年12月13日(金) ⑤2019年12月27日(金) ⑥2020年1月10日(金) ⑦2020年1月13日(月・祝) ⑧2020年1月24日(金) ⑨2020年1月31日(金) ⑩2020年2月1日(土) ⑪2020年2月2日(日) ⑫2020年2月7日(金)
場所	福岡県立ももち文化センター小ホール *⑦パピオビールーム(福岡市千代音楽・演劇練習場)中練習室1 ⑧⑨⑩福岡県立ももち文化センター特別会議室 ⑪ももち文化センター大ホール
進行役	五味伸之(のぶお)[演出家] 古賀今日子(こがきよ)[俳優] 野中香織(そら)[ダンサー]

①～⑩までは身体表現ワークショップを行い、⑪に発表、⑫に全体の振り返りを行った。

---

る国際的なスポーツ組織である。日本では、1994年に活動が始まり、1996年に福岡地区組織としてスペシャルオリンピックス日本・福岡が設立された(2013年にNPO法人化)。今回の参加者はスペシャルオリンピックス日本・福岡で普段から活動する障害のある人(「アスリート」と呼ばれる)だけでなく、ひろく一般に参加者を募った。

発表の概要は以下のとおりである。

社会包摂に取り組むための普及啓発事業

PEOPLE ART PERFORMANCE 2020

～人とアートを巡る 100 通りアートプロジェクト～

日時：2020 年 2 月 2 日（日）13:30 開演

会場：福岡県立ももち文化センター 大ホール

出演：Perfect Dance、この指とまれ.co、SMILE PRESENTS、フリースクール玄海、ワレワレワークス、Rose Ballet、ミラクルスター、peece plant（ひまわりパーク六本松）、表現の面白さを体感するワークショップ

チケット：一般 2,000 円（当日 2,500 円）、学生 1,000 円（当日 1,500 円）

主催：福岡県立ももち文化センター、一般社団法人パラカダンス

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）、独立行政法人日本芸術文化振興会

なお本報告書に記載している参加者の呼称については、事後に公表の意思確認を行い、画像・呼称（ワークショップの際にそれぞれが自身につけていた「呼び名」）の使用許可をいただいているもののみを使用している。

## 2. 検証方法の検討

### 2-1. 前年度の検証結果からの検討

昨年度の検証報告書では、演劇・ダンスワークショップの実践を質的に分析し、「今後も継続してできるといい点」「今後検討の余地がある点」「検証の役割」についてそれぞれ考察を行った。今後も継続してできるといい点としては、ファシリテーターや参加者のあいのコミュニケーションの「ズレ」が包含された場であることや、ワークショップだけでなく発表の場を持つということを挙げた。今後検討の余地がある点としては、おもに小学校でのワークショップについてであるが、実施場所や実施曜日などをある程度固定化していくことを挙げた。また、関わるステークホルダーのそれぞれがこの企画に何を期待するのかをすり合わせ、それらを共有する場をもつことで、より信頼関係を醸成した形でワークショップを実施することの重要性を指摘した。そのうえで検証の立場は、具体的に現場で何が起きているのか、またファシリテーターが意図していたことと異なることがいかに起き、それらが場においてどのように受け止められているのかといったミクロな事象を捉える立場であることが重要であると指摘した。また、検証に対して主催者の求めている視点は何か、アーティストが求めている視点は何か、協働先が求めている視点は何か、という点を事前にすりあわせてうえで検証の計画を立てて実施することが求められる、とまとめていた。

これらの視点を踏まえ今年度の検証を行う際には、①本事業や検証に対してステークホルダーたちがどのような視点を求めているのかをあらかじめ把握しすりあわせることと、②具体的な現場で何が起きているのかをミクロな視点で追いかけていくことの2点を重要視することとした。

### 2-2. 参加型評価の導入とアレンジ

上述した視点を理論的背景をもとにしてさらに充実していくため、「参加型評価」という考え方<sup>6</sup>を導入することにした。

参加型評価とは、活動を提供する側だけでなく、活動を受ける側も含めた関係者が全員で評価のプロセスに参加することを通じて行われる評価のアプローチである。このプロセ

---

<sup>6</sup> 源由理子編著『参加型評価』晃洋書房、2016を参考にした。

スを踏むことで、活動の意義を多角的に理解することができるほか、活動に関わる一人ひとりの当事者としての意識を育てることもつながるとされている。評価方法の設計段階から関係者の意見を取り入れ、実際にデータを収集・分析したあと、その結果についても議論し合うというプロセスを踏む。従来、非営利活動において評価を行う意義は、説明責任をはたすという目的のほか、関わる人々の気づきを生み出し改善につながる、という目的もある。専門家による検証を行うことは客観性があり、外部評価として活動の意義を発信するのに役立てられることが多い。その一方で、参加型評価は、活動に関わる当事者が活動を振り返るための方法として用いられることで、関わる人々の気づきを生み出し改善につながることもある。

今回、前年度の検証から①本事業や検証に対してステークホルダーたちがどのような視点を求めているのかをあらかじめ把握しすりあわせるという点を重要視するにあたって、事前に視点のすり合わせを行うことを通じ、こうした活動の持つ意義を可視化していくことを目指すことにした。

参加型評価の具体的なプロセスとしては、事前準備、評価の設計、データの収集・分析、データの価値づけ・解釈、評価情報の報告・共有が挙げられる。このうち事前準備を除くすべてのプロセスにおいて、評価者だけではなく活動の関係者に関わってもらうことを前提としている。

### 2-3. 研究スケジュール

こうした考え方を踏まえ、今回の検証では以下のようなプロセスを取ることにした。

①事前準備	2019年6月	評価者による事前情報の整理
	2019年7月	ヒアリングの準備、打診
②評価の設計		関係者への事前ヒアリング(6名)
	2019年8月	
	2019年9月	関係者による合議で活動の目指すものを可視化
③データの収集・分析	2019年10月	ワークショップ実施期間中のデータ収集(映像記録、フィールドノート、アンケート、ファシリテーターの振り返り記録)
	2019年11月	
	2019年12月	
	2020年1月	
	2020年2月	

④データの価値づけ・解釈		収集したデータをもとにした分析と事前の目標設計に関する再検討
⑤評価情報の報告・共有	2020年3月	関係者による合議による事前の目標設計に関する再検討 それらの結果を踏まえた報告書の執筆

## 3. 事前準備～評価の設計

### 3-1. 実施手順

#### 3-1-1. ヒアリング

まずは評価者である長津が事前情報の整理を行うべく、過去の資料をまとめ、インタビュー項目を整理した。その後、関係者への個別インタビューを実施した。

インタビューには、進行役である五味伸之さん、古賀今日子さん、野中香織さん、スペシャル・オリンピックス日本・福岡から盛田美代子さん（参加者の母親）、福岡県立ももち文化センターからは館長の糸山裕子さん、仁田野麻美さんに応じていただいた。

インタビュー項目は以下の5つであったが、それ以外のエピソードや思いなどをお伺いすることも大切にし、半構造化インタビューの形式で行った。インタビューは1対1で行われ、それぞれ1時間半～2時間程度であった。

#### インタビュー項目

- (1) 今回のプログラムで想定している内容はどのようなものか。もしくは、どのようなものになるといいと考えているか。
- (2) そのプログラムは、誰にとって、どんな意味を持つと思うか。  
[例] ワークショップ参加者にとって/ワークショップ参加者の家族にとって/ファシリテーターにとって/文化施設職員にとって/そのほか
- (3) その意味が生まれることは、どんな大きな目的につながるか。
- (4) その目的を達成するために、身体表現ワークショップ以外の方法はあるか。あったとしたら、それと身体表現ワークショップとの違いは何か。
- (5) 今回検証を行うことは、どのような意義があると思うか。

インタビュー項目のうち(1)から(3)までは、後述するロジックモデルを構成していくうえで、事業の目標に関して個々人が考えることを伺うために設定した。(4)については、身体表現の特性を伺うことで、より本事業の特徴が浮き彫りになることを期待して設定した。(5)については本事業や検証そのものについてのご意見を伺うために設定した。

#### 3-1-2. ロジックモデルの作成と検討

インタビュー内容はテープ起こしを行い、修正版グラウンテッド・セオリー・アプローチ

に近い形でデータを切片化し、再構成を行った。その結果、ワークショップ事業に関わるアクターごとに分類することを通じて目的・目標の明確化がはかれると考え、暫定版のロジックモデルを作成した。

ロジックモデルとは、ある施策がその目的を達成するに至るまでの論理的な因果関係を明示したものであり、事業や組織が最終的に目指す変化や効果の実現に向けた事業の設計図であるとされている<sup>7</sup>。この考え方をを用いてロジックモデルを作成することで、どのように現象が起こることで、それがどのような効果につながり、それがどのような価値をもたらすかを図示した。

### 3-1-3. 合議によるロジックモデルの検討と修正

9月5日（木）に、インタビューに応じた関係者全員（うち、野中さんは予定が合わせられず欠席となり後日共有した）に加え、ももち文化センターの江上さんも加わり、今回の事業の目的について議論を行った。

まずは、上記で整理・抽出した資料に基づき、各アクターごとに生まれたら良いと思われる出来事やそこから生まれる効果などについて検討・吟味を行った。続けて、これらの上位概念となる中間目標と最終目標について議論を行った。

図1 9月5日（木）の評価ワークショップの様子



---

<sup>7</sup> [https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/01/gra\\_pro\\_soc\\_01.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/01/gra_pro_soc_01.pdf)

### 3-2. 立てられた目標

その結果、図3のような形でワークショップの達成目標をまとめることができた。

本事業の最終目標は、「文化芸術を通じて、障害のある人やそれを支える人同士が新たな表現や関係を生み出す」と位置づけられた。障害のある人だけでなく、それを支える周囲の人々（家族や文化施設職員、ファシリテーターも含まれる）同士が、新たに表現を生み出すとともに、新たなつながりを生み出すことを目指す、ということが確認された。

また中間目標として、「文化施設が、多様な立場の人が演劇の手法で共に遊び・交流する場となる」という言葉が置かれた。これは、演劇を学ぶのではなく、あくまで共に遊び交流するということを主眼に置きつつ、文化施設がこうしたことが生まれるための「場」になることをうたっている。

その下に、さまざまな現場で期待される出来事が位置付けられているが、それぞれのアクターにとっての目標として、それぞれ次のように位置付けられた。

- ◎アーティスト：「多様な立場の人たちの意見をもとにした表現が生まれる」
- ◎障害のある参加者：「ワークショップが非日常的でサードプレイスの場として機能する」
- ◎参加者の家族：「今まで知らなかった障害当事者の姿が見られる」
- ◎文化施設職員：「文化施設に当たり前に障害のある人が参加する環境が生まれる」

こうした目標を合議で整理することで、立場の違いを超えて、本事業が持つ特徴やめざすものが言語化され共有された。



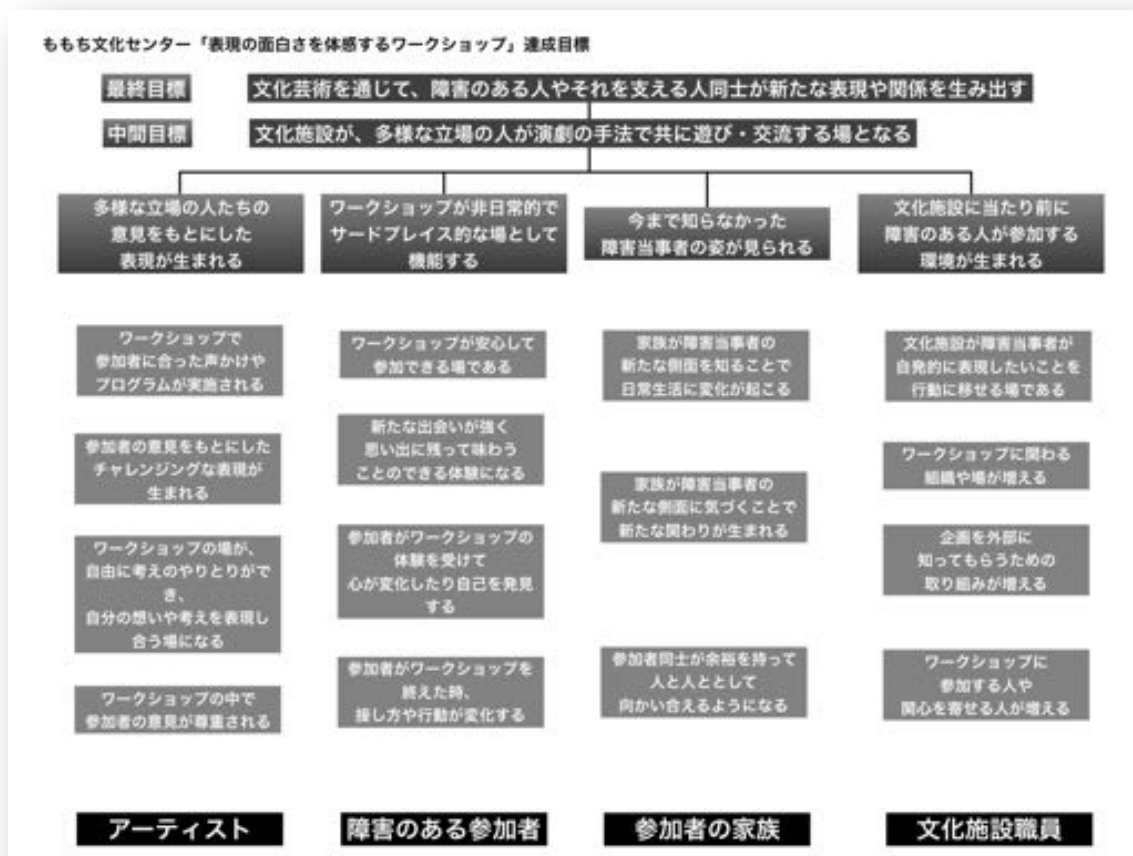
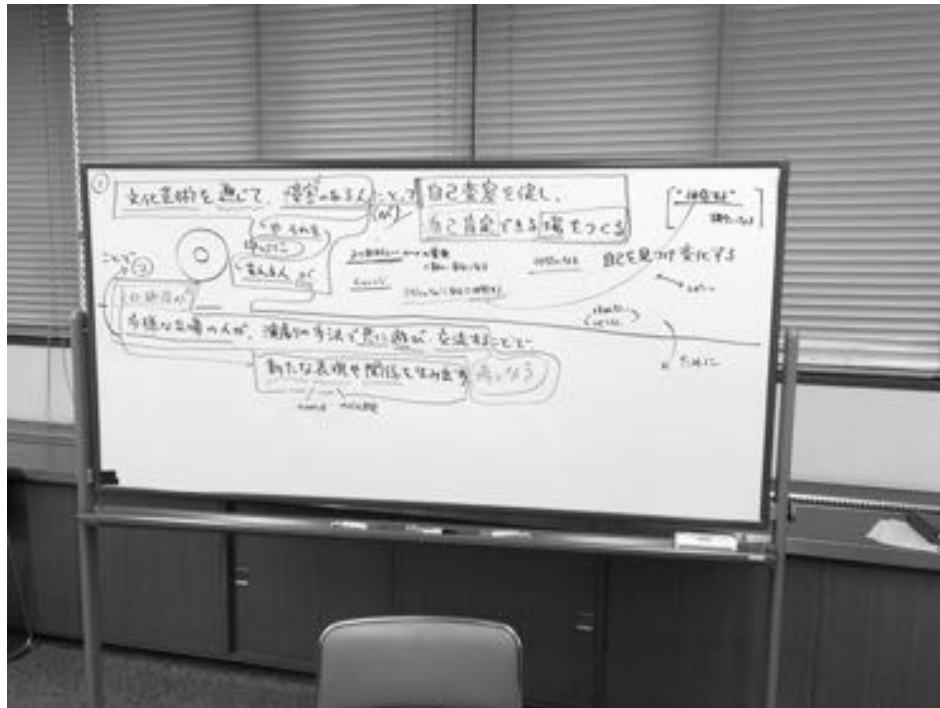


図2：(上) 目標設定の議論の際のホワイトボード 図3：(下) 作成した達成目標

## 4. データの収集・分析

2019年10月からワークショップが開始されたが、上述のように目標を設定したため、これらを事後に検証するためにどのような手法を用いてデータを分析するかを検討し、

- ①映像記録
- ②フィールドノート
- ③アンケート
- ④ファシリテーターの振り返り記録

の4点をデータとして収集することとした。

①については、毎回のワークショップを2地点から定点記録を行い保存した。

②については、毎回2～3名の記録者を立て、複数の目でワークショップで起こる事象を記録することで分析の足掛かりとした。

③については、参加者・ファシリテーター・見学者のそれぞれに対して、設定した目標に即した設問を立てて5段階評価をしていただいたほか、自由記述欄を設けた（アンケートについては資料を参照のこと）。

④については、記録者1名によりファシリテーターによる振り返りを記録した。

## 5. 結果

ももち文化センター「表現の面白さを体感するワークショップ（以下、WS）」全12回を初期・中期・後期に分け、それぞれの時期に起きたエピソードを、「各アクターがどのように場に参与し、また、その場に対してどのような評価を行っていたか」という観点から分析を行った。

### 5-1. アーティスト：多様な立場の人たちの意見をもとにした表現が生まれる

本項では、アーティストがWSの場にどのように参与し、その場に対してどのような評価を行っていたか、考察を行っていく。また、並行して、WSの中でどのようなプログラムが実施されていたのかも紹介していきたい。

#### 5-1-1. 初期・・・第2回WS（2019年11月8日）での「即興的なプロポーズ（出会い）」

第2回WSでは「出会い」をテーマにプログラムが構成されていた。以下で取り上げるのは、そのプログラムの一つである「即興的なプロポーズ」（19：46頃～）の場面である。

##### i) 導入

この場面では、「プロポーズする側」と「プロポーズされる側」の2つのグループに分かれ、即興的にプロポーズの場面をつくっていった。（下写真参照）。



手前は「プロポーズする側」、奥は「プロポーズされる側」になっており、「プロポーズされる側」の「のおお」は断っている。なお、「プロポーズする側」は自分の考えるプロポーズを行い、「プロポーズされる側」は「受け入れる/受け入れない」の判断を行う。

この場面の初め、ファシリテーター（アーティスト）である「のぶお」と「こがきよ」がお手本を見せた。

**【①即興的なプロポーズ (1)】**

部屋の両隅から「のぶお」と「こがきよ」が登場し、「こがきよ」は「のぶお」に右手を差し出しプロポーズをする。「のぶお」は「こがきよ」の右手をそっと握りながら、顔を横に振る。すると、会場からクスクスと笑い声が聞こえる。「のぶお」は両腕で「×」をつくり、「こがきよ」は悲しそうな表情を両手で覆い、それぞれ部屋の隅へと移動していった。<sup>8</sup>

そして、この場面でのお手本が終わると、「のぶお」は続けて、以下のようにプログラムの内容を説明した。

**【①即興的なプロポーズ (2)】**

会場から笑い声が聞こえる中、「のぶお」は、「プロポーズをされる人は、こっちのプロポーズする人のやり方によって、オッケーしてもいいし、断ってもいいです。でも、断り方にもいろいろあるよね。」と言って、立ち上がる。そして、『『ピシッ』もあるよね』と言いながら、相手の顔をピンタする素振りを見せる。すると、会場から苦笑いに近い声が起こる。

続けて「のぶお」は、「さっきみたいに、『うんうん、うんうん、ありがとう、ありがとう、バイバイ』っていうふうに、なあなあにする人もいるよね。他にも、どういうのがあるかな。『うん、OK』って言うておいて、指輪だけもらって、質屋売りますとかね。」と言い、プロポーズの断り方の例を体を使って説明する。そして、「こちらの人が何かしらプロポーズをします。そちらの人は、やって来た時に、プロポーズを『オッケー』でも『ダメー』でも、何かしら、相手のやっているものをよく見て、『この人のプロポーズの仕方だったら、私結婚してもいい』ってなったら、結婚してください。オッケーですか？じゃあ、順番を決めてください」と言って、参加者に順番を決めてもらうように促す。<sup>9</sup>

<sup>8</sup> 映像書き起こし（2019年11月8日）

<sup>9</sup> 映像書き起こし（2019年11月8日）

このプログラムでは、他と同様に、最初に「のぶお」と「こがきよ」がお手本を見せた。そして、お手本後、「のぶお」は「プロポーズする人のやり方によって、オッケーしてもいいし、断ってもいい」と参加者にこのプログラムの楽しみ方を提示し、具体的な例を体で表現しながら説明を行った。

この場面のように、アーティストはプログラムを始める前、実際に体を使って、いくつかの具体例を提示しながら説明を行っている。これは、参加者がプログラムの内容を理解し、そして楽しむことができるための工夫として積極的に取り組まれているようであった。したがって、アーティストのWSの場に対する働きかけにおいて、「参加者がプログラムの内容を理解すること」や、「参加者がプログラムの内容を楽しむこと」などに価値が置かれていることが推察される。

また、この「即興的なプロポーズ」の場面では、参加者に「プロポーズを断る／断らない」という選択肢があり、また、断り方にもバリエーションがあることが提示された。このことから、このプログラムの内容において、「参加者の自由な考えや表現を大切にする」という価値が重視されていることが推察される。

## ii) 体験

では、実際に、このプログラムの中で、どのような事象が生じたのか。以下では、このプログラムの中で、初めてプロポーズに対して「OK」がもたらえた場面を取り上げてみたい。

### 【①即興的なプロポーズ (3)】

「のぶお」が「では、3番目」と言うと、「プロポーズする側」から「かずき」が、「プロポーズされる側」から「ちあき」がそれぞれ部屋の中央に出てくる。2人が対面すると、まず「かずき」が座り込み、そのまま正座の状態、立っている「ちあき」を一瞥する。すると、次の瞬間、「かずき」は自分の頭を地面につけ、土下座をする。「かずき」の行動に会場から笑い声が出る。

「ちあき」は、土下座をする「かずき」を見て、すぐに座り込み、「かずき」に顔をあげるように促す。「かずき」は恐る恐る顔を上げる。すると、笑顔の「ちあき」は、2、3秒ほどの間をとって、両腕で大きな丸をつくる。その瞬間、「こがきよ」が「わっ」と高い声で歓声を上げ、WSを見学していた保護者席からも「おおー」という声が出る。

「ちあき」が手を差し出し、「かずき」も「ちあき」に応じるように、「ちあき」の

手を握る。お互いに握手をし、その状態のまま立ち上がると、手を振りながらそれぞれ部屋の隅へと走っていった。<sup>10</sup>

この場面の前に行われた2つの「即興的なプロポーズ」は、どちらも「プロポーズをされる側」がプロポーズを断っていた。ところが、上述のように、「ちあき」は「かずき」のプロポーズを受け入れる。これは、このプログラムの中で初めてプロポーズが成功したことを意味していた。

そして、この場面の後に、「こがきよ」と「のぶお」は2人に以下のような感想を述べる。

#### 【①即興的なプロポーズ (4)】

「こがきよ」は「かずき」を拍手で迎えると、「のぶお」の方に体を向けながら、「嬉しくなるね」と言う。「のぶお」は「もー、良かったやん」と、「かずき」に向かって言う。続けて、「のぶお」は「やっぱオッケーもらったときって、みんな『ファッ』ってなるね。」と言い、体がすこし浮く動作をする。「こがきよ」も「嬉しくなるね」と返す。

「のぶお」は「ちあき」に向かって、「ちあきも、決め手はどこだったんですか。第一印象から決めてました？」と尋ねると、「ちあき」は「いや、この時の雰囲気か」と言って、土下座をする素振りを見せる。続けて「ちあき」は「全力だった」と言う。それに対して、「こがきよ」は「そっか、そっか」と言い、「のぶお」は「はあ…素晴らしい」と言いながら、小さく拍手をする。<sup>11</sup>

この場面では、まず参加者である「かずき」が、自分で考えたプロポーズを行っていた。そして、「ちあき」は、その「かずき」のプロポーズを見て、即興的に「オッケー」と判断していた。また、アーティストは、即興的な2人の場面に対して、「嬉しくなるね」「素晴らしい」といった感想を述べており、2人のつくる「即興的なプロポーズ」の場面を楽しんでいたように思われる。

ここから、この場面の中では、「参加者の考えをもとにした表現が生まれた」ことや、「その『表現』がアーティストの心を動かした」ことが明らかになった。そして、こうした出来事に対して、アーティストは積極的な意味を見出していたように思われる。

<sup>10</sup> 映像書き起こし (2019年11月8日)

<sup>11</sup> 映像書き起こし (2019年11月8日)

### iii) 振り返り

さて、「即興的なプロポーズ」を行った第2回WS後のアーティストだけの振り返りの場で、「のぶお」は以下のように話していた。

#### 【②第2回WS後の振り返り録】

（前アンケートに）「小学生でもわかる言葉で」って意見あった。その結果、わかんないところはわかんなくてよくなって。ルールとか一緒に楽しめるところはわかったほうがいくなってやったことがすごくいい方向にいったなど。言葉だけじゃなくて一緒にやってみることが安心感につながるんだらうなって。今日の空気はその小さい積み重ねが効いてたんじゃないかな。緊張がなかったのも。すごく楽しかった。<sup>12</sup>

ここで「のぶお」が語るように、前回の第1回WS後にとったアンケートの中に、WSを見学していた家族から「声かけを小学生がわかるくらいに伝えてほしい」というコメントがあった。それに対して、「のぶお」は、「わかんないところはわかんなくてよくなって、ルールとか一緒に楽しめるところはわかったほうがいくなってやったことが、すごくいい方向にいったな」と話す。

ここから、この場面でのファシリテーションの軸が、参加者がプログラム内容を「分かる／分からない」という点よりも、参加者がプログラム内容を一緒に「楽しめる／楽しめない」という点に重きが置かれていたことが推察される。また、参加者が「安心感」をもって参加することにも重点が置かれており、参加者が「安心して」「楽しめる」ようなアーティストの働きかけが行われていたように思われる。

### iv) 小括

初期の段階で析出されたアーティストの評価指標について整理する。

まず、i) 導入では、①「参加者がプログラム内容を理解すること」、②「参加者がプログラム内容を楽しむこと」、③「参加者の自由な考えや表現を大切にすること」などが、アーティストの中で大事にされていた。ii) 体験では、④「参加者の考えをもとにした表現が生まれ」、⑤「参加者の表現がアーティストの心を動かす」といったことが起きていた。そ

---

<sup>12</sup> 振り返り録（2019年11月8日）

して、このことに対してアーティストは積極的な意味を見出していたようである。また、iii) 振り返りでは、⑥「参加者がプログラム内容を楽しむこと」や、⑦「参加者が安心して WS の場に参加できること」に重点が置かれていたことが明らかになった。また、プログラム内容を全て理解できなくても、「楽しめる」ことの方がより重要であったことも語られていた。

以上から、アーティストは、参加者が「安心して」「楽しむことができる」WS の場を希求するとともに、「参加者の自由な考えをもとにした表現が生まれること」や、「参加者の表現がアーティストに影響を与えること」を大事に扱っていたことが推察された。

さて、こうした点は、事前インタビューをもとに作成された「達成目標」とも重なった。例えば、参加者の「達成目標」の中には「ワークショップが安心して参加できる場である」といった点が挙げられており、今回析出された評価指標とも重なる。

他方で、「多様な立場の人たちの意見をもとにした表現が生まれる」という大きな「達成目標」と重ねると、今回の場面の中で、参加者の「意見」をもとにした表現が生まれていたか、どうかは明瞭ではない。というのも、今回取り上げた「即興的なプロポーズ」では、参加者同士が“即興的に”表現を生みだしており、「特定の何かに対する言語的な表明」（意見）をもとにした表現として掬いとれるかどうかは判別が難しいように思われる。むしろ、参加者による即興的な「考え（発想）」をもとにした「表現」が生まれていたと解する方が適切ではないだろうか。

#### 5-1-2. 中期・・・第8回 WS（2020年1月24日）での『修行』シーンづくり

第8回 WS では、それまでの WS でやってきた内容を振り返り、各回で起きたエピソードを繋いで、一つの物語をつくるということを行った。以下で取り上げるのは、その物語の中の「修行」のシーン（19：16 頃～）をつくる場面である。

この「修行」のシーンでは、「かずき」、「かおり」、「ゆり」の3人が登場し、1人がお茶をたて、そして、他の2人はそのお茶を受け取り、飲むという表現を行う。このシーンに登場しない他の参加者は、周りに座って、そのシーンを見学している。

#### 【③「修行」シーンづくり（1）】

「かおり」は、「のぶお」から白布を受け取ると、その白布を丸めて、抹茶茶碗に見立て、手でお茶をたてる素振りを見せる。そして、その白布（抹茶茶碗）を、正座する「かずき」の前に置く。「かずき」は、その白布（抹茶茶碗）を受け取り持ち上



げて、「かおり」に1度軽くお辞儀をする。「かおり」も「かずき」に合わせてお辞儀をする。

「かずき」は、白布（抹茶茶碗）を見つめて、2, 3度時計回りに回す。そして、白布（抹茶茶碗）を右手でトントンと軽く仕草をする。「のぶお」は「かずき」に「じゃあ、ゆりちゃんに渡してくださいね」と言うと、「かずき」は、白布（抹茶



茶碗)の中に、右手で何かをふりかけるような仕草をする。そして、「かずき」は、背後にいた「ちあき」に、その白布（抹茶茶碗）を渡そうとする。「のぶお」は「ちあきじゃない、ゆりちゃん」と言い、「かずき」は、「ゆり」の方に体を向け、白布（抹茶茶碗）を渡す。<sup>13</sup>

この後、「のぶお」は「修行」のシーンを止める。そして、このシーンに対する感想を共有する時間へと移った。

### 【③「修行」シーンづくり (2)】

「のぶお」がシーンを止めると、部屋の中から小さな拍手が起こる。「のぶお」は「どんなシーンに見えました？」と全体に問いかける。「こがきよ」が、左隣にいる「たいせい」に「どうだった？」と尋ねると、「たいせい」は小声で「うーん、なんか粉いれて、最初粉いれて」と言い、「こがきよ」は応答するように「粉をいれたみたいだった」と全体に向けて発言する。「のぶお」は、「あっ、粉を。かずきが」と返答する。

「こがきよ」は「魔法。お茶に魔法をかけたみたいだった。」と言うと、「かずき」は笑って、頭を大きく下げ、笑いをこらえる仕草をする。続けて、「こがきよ」は「たいせい」や「かずき」に「してたよね」と言い、「のぶお」は「ああ、面白いね」と応答する。(中略)「のぶお」が「かずき」に「かずき、お茶に粉いれてた？」と尋ね

<sup>13</sup> 映像書き起こし (2020年1月24日)

ると、「かずき」は5, 6秒間をおいて、「えっとね・・・うん、魔法かな」と答える。  
「のぶお」は「魔法かけたんやね、お茶にね」と応答し、「こがきよ」は「ああ」と感嘆の声をあげた。<sup>14</sup>

この場面では、各参加者が白布を「抹茶茶碗」に見立て、「修行」のシーンを即興的に演じていた。この時の即興的な表現は参加者個人のアイデアに依るものであるが、さらに、その様子を見ていた参加者が表現に対して“解釈”を加えることで、表現に新たな意味が付与されていた。例えば、「かずき」は、白布（抹茶茶碗）の中に、右手で何かをふりかけるような仕草をしていた。そして、その後の感想共有の時間で、「たいせい」や「こがきよ」から「『粉』や『魔法』を入れた」という解釈が加えられ、さらに「かずき」も「魔法かな」と答えることで、「手で何かをふりかける仕草」（表現）は、「魔法を入れる表現」へと変わった。

その後、「のぶお」は「かずき」の「魔法を入れる表現」にヒントを得て、物語の繋ぎを考案する。

### 【③「修行」シーンづくり (3)】

「のぶお」は「かずき」に体を向けて「さっき、かずきが、お茶に粉入れて、魔法入れたじゃない？そんな感じで入れていいから。それで魔法入れたら、そのままゆりちゃんに渡して」と言う。続けて、「のぶお」は「ゆり」に体を向け、「そしたら、ゆりちゃん、魔法のお茶を飲んだら、魔法使いになれるっていう。そしたら、なんか一発シュンってやったら、魔法のしもべのちあきがやってくる」と、体を使いながら説明をする。<sup>15</sup>

このようにアーティストは、「参加者の自由な考えをもとにした表現が生まれる」ことを大事にするとともに、その表現に対する参加者の感想を拾い、一つの「物語」へと繋げた。

アーティストの事前インタビューから、「参加者の意見をもとにしたチャレンジングな表現が生まれる」・「ワークショップの中で参加者の意見が尊重される」といった評価指標が析出されていたことを踏まえると、今回取り上げたようなアーティストの働きかけは、そうした「参加者の声」を大切にされた行為として捉えられる。

<sup>14</sup> 映像書き起こし (2020年1月24日)

<sup>15</sup> 映像書き起こし (2020年1月24日)

ただし、この場面では、単に一人の「声」や「意見」が採用されていたわけではなかった。例えば、「かずき」の「何かを振りかける仕草」が「粉や魔法かける表現」として意味づけられ、そして、実際に「魔法をかける表現」として物語の中に組み込まれていったように、この場では、複数の声や意見が積み重なることで、一つの「表現」がつくられたように思われる。すなわち、〈参加者－アーティスト〉・〈参加者－参加者〉の「共同」による「表現」が生まれていたといえるのではないだろうか。

### 5-1-3. 後期 (1)・・・第9回WS (2020年1月31日)での『『夜景探検隊』・『たまご』のシーンづくり』

第9回WSでは、第8回WSの続きで、参加者とアーティスト共同で物語をつくっていた。以下で取り上げるのは、物語の中の「夜景探検隊」・「たまご」のシーンを作っているときの、アーティストと参加者のやり取りである。

まず、「夜景探検隊」のシーンでは、妖精(役)の「ちあき」が、森の中で何かを探す「たいせい」に一目惚れして、ラブレターを送るという場面になっている。なお、このシーンは、第6回WSで行った「たいせい」と「ちあき」の即興劇がもとになっている。

このシーンは、妖精の「ちあき」が「私も恋したいなあ」とつぶやくところから始まる。「ちあき」の眩しが終わるとすぐに、ライトを左耳にかけた「たいせい」が登場して、森の中で何かを探す演技をして、座り込み、地図のような何かをもつ仕草をする。妖精の「ちあき」は、その「たいせい」の様子を見て、「かっこいい」と言い、手紙を書く。そして、その手紙を「たいせい」に投げて渡す。以下は、このシーンを止めて、「のぶお」が「ちあき」や「たいせい」に演出を加えていく場面(19:12頃～)になる。

#### 【④「夜景探検隊」のシーンづくり】

「のぶお」は「たいせい」の方に体を向けて、「ここで、たいせい出てくるじゃん。で、出てきて、もう手紙をもらってるところになるんだけど、今、後ろでちあきが一目惚れを『わおーん』とかって言って、その後、その手紙をね、なんとか書いて。シュッと入れるところあった方がいいかな。なんか、探検してるところ、最初登場するところ、ここに来てから、(ライトを)つけるんじゃないくて、こう、出てくるところから、カチって(ライトを)つけて。こう、キョロキョロ、なんか探してるんだと思う。ちなみに、夜景探検隊って何を探してるんですか?」と「たいせい」に尋ねる。会場から笑い声起き、こがきよは「ここにきて」と、右隣にいる「はる」に話す。

「たいせい」は、「のぶお」に聞こえる声で「なんかいないかな」と言い、「のぶお」は「あっ、何かいないかなと思って、あそこ来てるんだ」と応答する。続けて、「のぶお」は「じゃあ、みんなは、ひっそりしてて、隠れてるとか、っていう過ごしてる場所。じゃあ、ちょっと、ごめんなさい」と言って、「たいせい」に部屋の壁に移動するように手で促す。「たいせい」は促されるように立ち上がり、部屋の壁に移動する。そして、「のぶお」は「たいせい」に「なんか喋れる？『なんかいないかなあ』」と尋ねると、「たいせい」は「『誰かないかなあ』」と応答する。「のぶお」は「あっ、『誰かない』『誰かないかなあ』」と呼応する。<sup>16</sup>

この場面では、「のぶお」が「たいせい」に「何を探してるんですか？」と応答を繰り返す中で、「たいせい」自身の「何かを探す」という表現が、「誰かを探している」という表現へと深められていった。

また、この後のシーンづくりでも、上述の場面と同様に、参加者とアーティストが応答する中で、表現の意味が深められていくという過程が存在した。以下で取り上げるのは、「たまご」のシーンづくりの場面である。このシーンは、先の「夜景探検隊」の中で、「たいせい」と「ちあき」のカップルが誕生した後のお話になる。

「たいせい」・「ちあき」のカップルが誕生し、その様子を見ていた周りは、各々白布をもって、音楽に合わせてお祝いのダンスを始める。そして、みんなで踊り終わると、「おめでとう」という掛け声とともに白布を宙に舞い上げ、「たいせい」・「ちあき」・「はる」以外の人たちは、そのまま部屋の隅に移動する。音楽が鳴り終わり、部屋の中央に「はる」が座りこむ。

その後、「たいせい」と「ちあき」は、白布を「はる」に被せていく。白布で覆われる「はる」は次第に白い「たまご」のような形になっていく。そして、「たいせい」と「ちあき」は手をつなぎ、「たまご」のようになった「はる」の周りを歩く。

「たいせい」・「ちあき」はゆっくりと歩いているが、次第に「たいせい」の腰が曲がり、年老いていく表現をする。「ちあき」は妖精（役）のため姿勢は変わらず、「たいせい」の歩調に合わせて歩く。そして、「たいせい」が「ちあき」から少しずつ離れていき、部屋の隅へと消えていく。残った「ちあき」は、「たまご」のそばを離れず、座り込んでいる。

その後、魔法使い（役）の「ゆり」が登場して、「たまご」の傍にいる「ちあき」に、「（「た

---

<sup>16</sup> 映像書き起こし（2020年1月31日）

まご」から離れて)一緒に行くかい?」と尋ねる。「ちあき」は、「ゆり」の誘いにはのらず、そのまま「たまご」のそばに居続けることを選択する。

以下は、「のぶお」が、このシーンを止めて、「ちあき」に演出を加えていく場面(19:45頃～)になる。

#### 【⑤「たまご」のシーンづくり】

シーンを止めた「のぶお」が、「ちあき」に「まだ、この時はまだ(ゆりの魔法の絨毯に)乗りたくないいやね」と尋ね、「ちあき」のそばに寄る。続けて、「のぶお」は、「ちなみに、なぜ乗りたくないんですか?」と、右手でマイクを持つような仕草で「ちあき」に



尋ねる。すると、「ちあき」は、「たまごがあるから」と返答する。「のぶお」は「ああ、なるほどね。・・・たまごをどうしたいんですか。」と聞くと、「ちあき」は「たまごを守りたい」と答える。その答えを聞いた「のぶお」は立ち上がると、「たまご」に近づき、「じゃあ、『一緒に行く?』って言われた後に、こう、守って」と言って、両腕を広げて、両手で「たまご」に軽く触れる仕草をする。「ちあき」はこの「のぶお」の演出に頷いて答える。

「のぶお」は、元いた位置に戻り、「のぶおも、きっと、ちあきがここにいるのは、たまごを守りたいからなんだろうなって、あの、思っていました。」と話す。<sup>17</sup>

このように、WS後期では、アーティストと参加者が応答する中で、表現の意味を深掘りしたり、共有したりするコミュニケーションが生まれていた。とくに、初めにアーティストが参加者に「表現」の意味を尋ねることで、次に参加者が質問に応答することで、「表現」の意味を共同で確認していくという場面が起きていたように思われる。

また、WS中期では「表現」の意味が「生成」されていたことと比較すると、WS後期では「表現」の意味が「確認」と、さらなる表現の「発展」の段階へと移っていったと言えよ

---

<sup>17</sup> 映像書き起こし(2020年1月31日)

う。WS 中期・後期共に、参加者のアイデアを大事にし、参加者の意見をもとにした「表現」を希求する点は同じように思われるが、中期から後期に至る間に、共同「確認」というフェーズが加えられているようである。

5-1-4. 後期 (2)・・・第 10 回 WS (2020 年 2 月 1 日) での「魔法使い」のシーンづくり  
最終調整中に起きたアーティストと参加者のやり取りを取り上げる。

この日、参加者は衣装となる黒服を着用し、各々銀色の耐熱シートを好きな形に切り取って身につけていた。そして、これまでの WS でつくってきた「物語」を実際にやってみて、「のぶお」が演出を加えるということを繰り返し行った。

以下の場面は、「物語」冒頭の「魔法使い」のシーンになる。このシーンでは、魔法使い(役)の「ゆり」が、妖精(役)の「ちあき」を召喚して、子どもを抱えて逃げる「はる」を助ける場面になる。

「はる」を追いかけるのは、「かずき」と「かおり」の 2 人である。2 人は子どもが欲しい夫婦という設定で、子どもを抱える「はる」を見つけると、「子どもくれー」と言いながら「はる」を追いかけまわす。それに対して、「はる」は 2 人から逃げる。魔法使いの「ゆり」はその様子を見て、妖精「ちあき」に魔法をかけ、2 人から「はる」を助けるように命じる。すると、「ちあき」は、「はる」を追いかける「かずき」を蹴り、「はる」を助ける。「かずき」はその場で倒れこみ、「かおり」はその「かずき」の様子に慌てふためく。

「のぶお」は、一連の「魔法使い」のシーンを止め、演出を加え始める。

#### 【⑥「魔法使い」のシーンづくり】

「のぶお」が、全体に向かって「はいー」と言いながら、音楽を止める。続けて、「のぶお」は「ちあき」や「はる」に、この場面の後どう動くか、演出をつけていく。「ちあき」と「はる」は「のぶお」の説明に頷いて応答する。

そして、「のぶお」は、「かずき」に体を向けて、『倒された人にも家族がいるんだな』

っていうふうに、ここで、ちあきが気づくっていう手紙を書いているから、かずき、やられるやん？ やられた後、『うーっ』って、地面に、こう、のたうち回るみたいな』



と言い、「かずき」も「うん」と応答しながら、頷いている。その応答を聞きながら、「のぶお」は『『うーっ、苦しい、やられる、わーっ』みたいな。この音楽に合わせて『わー』みたいな』と言いながら、体で苦しんでいる姿を表現する。「かずき」は「のぶお」の説明に終始頷いている。<sup>18</sup>

この後、もう一度「魔法使い」のシーンをやることになる。演出を受けた「かずき」は、「ちあき」に蹴られると、地面に倒れて、苦しんでいる表現を行う。

そして、再度、「のぶお」はこのシーンを止めて、演出を加えていく。

#### 【⑥「魔法使い」のシーンづくり】

「のぶお」が「ちあき」の手紙を読み上げ終わると、「で、こうなったら、光はすーって暗くなって、ここまで来た時に。ちあきは、ここでなんかじーって見ててもいいし、なんか、こう、葛藤？この手紙のこの葛藤をしてもいい」と、「ちあき」に話しかける。

そして、「のぶお」は、倒れている「かずき」に近寄り、「かずき、倒れるのいい感じ」と声をかける。「こがきよ」や他の参加者から笑い声が出る。続けて、「のぶお」は、「いい感じ、こうやって。なんか、せっかくやけん、顔も見えた方がいいけん、こうなって、転がったりしてみてもいいかも。」と言いながら、地面に転がり始める。

「かずき」は「のぶお」の動きに合わせて、「わー」と言いながら、地面を転がっている。<sup>19</sup>

こうした「のぶお」と「かずき」の一連のやり取りは、「のぶお」と「かずき」が、〈アーティスト参加者〉の関係性から、〈演出家－演者（俳優）〉の関係性へと移行しつつあることを象徴しているように思われる。「のぶお」が「かずき」に対して「のたうち回る」という演出を加え、その演出に対して「かずき」は自分なりの「表現」で応答する。そして、その「かずき」の表現に対し、「のぶお」は「いい感じ」と言って、さらに演出を加えていく。こうした循環的なコミュニケーションが生まれることで、2人の関係性は次第に〈演出家－演者（俳優）〉へと変容していったように思われる。なお、こうしたやり取りは、「のぶお」と「かずき」の2人の関係性に限ったことではない。例えば、上述の場面で、「のぶお」が

<sup>18</sup> 映像書き起こし（2020年2月1日）

<sup>19</sup> 映像書き起こし（2020年2月1日）

「ちあき」に対しても具体的な「演出」や「演技指導」を行っているように、後期 WS では〈演出家－演者（俳優）〉という関係性に見える応答のシーンが生まれていた。

では、WS 初期に見られた〈アーティスト－参加者〉の関係性と、このシーンでの〈演出家－演者（俳優）〉の関係性の差異はどこにあるのだろうか。この点を考察するうえで、筆者はコミュニケーション方法の差異に注目する必要があると考える。

この WS 全体を通して、アーティストは、参加者の「声」や「意見」を尊重し、彼らの「声」や「意見」をもとにした表現をつくることを大事にしてきた。そのため、アーティストは参加者に対して、「声」や「意見」を引き出すような働きかけ（具体的には、参加者自身が自由に考えた表現をしてもらおうプログラム内容の企画や、「〇〇（参加者）はどう感じた？」といった問いかけ等）を行ってきたように思われる。

一方、〈演出家－演者（俳優）〉の関係性では、アーティストは参加者に対して、「表現」をアップデートするような働きかけ－具体的には、「のぶお」が「かずき」に対して「のたうち回る」演出を加える等－を行っていた。そのため、コミュニケーションの内容は、「表現」に対する抽象的な意味づけよりも、「表現」の具体的な動作・仕草が主であった。

さて、こうした働きかけは、一見すると参加者の「声」や「意見」を尊重する方向性とは反対のように思われる。というのも、〈演出－演者（俳優）〉の関係性が、〈指示する人（演出）－指示される人（演者）〉といった非対称な関係性に映るからである。

しかし、「のぶお」は「かずき」や「ちあき」などの参加者に対して、一挙手一投足まで事細かに動き方を指示するという働きかけを行っていたわけではなかった。むしろ、「のぶお」は、参加者に対して「表現」の「イメージ」を伝え、それに対して参加者も自分なりの解釈と方法で「表現」を行っていた。また、WS 全体を通してつくられた「物語」は、各回の参加者の即興的な演技がもとになっており、演出家が「物語」を全て構成していたわけではなかった。こうした点を踏まえると、単に〈指示する人（演出）－指示される人（演者）〉の関係性で捉えることは難しいように思われる。むしろ、〈演出家－演者（俳優）〉という関係性を、お互いに「表現」をつくり出す主体として関わり合っているという意味で捉えることの方が妥当ではないだろうか。

#### 5-1-5. まとめ：アンケートの記述を含めてロジックを検討・提案

ここまで、WS 全 12 回を初期・中期・後期に分け、それぞれの時期に起きたエピソードを抽出し分析をすることで、アーティストが WS の場に対してどのように参与し、また、WS の場をどのように「評価」していたのか、考察を行ってきた。そして、ここまでに、アーティストが大事にしたいこと（評価指標）として、「参加者がプログラム内容を楽しむこと」「参加者が安心して WS の場に参加できること」「アーティストと参加者が共同で表現



を生み出す」等が出された（下表参照）。

WS 初期	<p>「参加者がプログラム内容を理解すること」</p> <p>「参加者がプログラム内容を楽しむこと」</p> <p>「参加者が安心して WS の場に参加できること」</p> <p>「(アーティストが) 参加者の自由な考えや表現を大切にすること」</p> <p>「参加者の考え (声) をもとにした表現が生まれること」</p> <p>「参加者の表現がアーティストの心を動かすこと」</p>
WS 中期	<p>(上記の点に加えて)</p> <p>「〈参加者－アーティスト〉・〈参加者－参加者〉の『共同』による『表現』が生まれること」</p> <p>「〈参加者－アーティスト〉の『共同』で『表現』の意味内容を考えること」</p>
WS 後期	<p>(上記の点に加えて)</p> <p>「〈参加者－アーティスト〉の『共同』で『表現』の意味内容を確認すること」</p> <p>「参加者とアーティストが、お互いに『表現』をつくり出す主体として関わり合うこと」</p>

(表 アーティストの評価指標)

なお、事前に作成されたアーティストの達成目標には、「多様な立場の人たちの意見をもとにした表現が生まれる」「ワークショップで参加者に合った声かけやプログラムが実施される」「参加者の意見をもとにしたチャレンジングな表現が生まれる」「ワークショップの場が、自由に考えのやり取りができ、自分の想いや考えを表現し合う場になる」「ワークショップの中で参加者の意見が尊重される」といった点が挙げられていた。このことを踏まえたうえで、以下3点に分けて考察したい。

1 点目は、事前作成の達成目標との共通点についてである。事前作成では、「参加者の意見をもとにしたチャレンジングな表現が生まれる」「ワークショップの中で参加者の意見が尊重される」といった点が挙げられており、先の表に挙げた「(アーティストが) 参加者の自由な考えや表現を大切にすること」や「参加者の考え (声) をもとにした表現が生まれること」と重なる。すなわち、どちらも「参加者」の「声」や「意見」、「表現」を大事に考えられていた。ここから、WS の場がアーティスト優先で進行しないように、そして、参加者の「声」や「意見」を中心に進行できるように意識されていることが考えられる。

2点目は、事前作成の達成目標との差異についてである。事前作成の達成目標では、参加者とアーティストが「共同」という観点が不足していたように思われる。この観点は、参加者の「声」・「意見」を大事にするということを前提にしている。そして、その前提のうえで、アーティストは、参加者の「声」に応答し、新たな意味を付与する、—具体的には、「『夜景探検隊〜』のシーンづくり」での「のぶお」と参加者の応答—といった働きかけを行っていた。このように、〈アーティスト—参加者〉の「共同性」が、WS の場では生まれしており、WS 評価の視点として重要のように思われる。

3点目は、WS 全 12 回を初期・中期・後期で分けて考えたとき、その評価の視点がそれぞれ異なっていることについてである。今回、WS 全 12 回を初期・中期・後期と段階的に分けて分析を行った。その結果、WS 初期の頃は、参加者個人が WS に安心して参加できることやワークの内容を楽しむことが重視されていたのに対し、WS 中期・後期では、アーティストと参加者の共同創作により重きが置かれる、といった評価の視点の差異が生まれていた。

以上を踏まえたうえで、WS におけるアーティストの達成目標（評価指標）について、修正版ロジックモデルを提案する。

	事前作成の達成目標	修正版の達成目標
大きな目標	多様な立場の人たちの意見をもとにした表現が生まれる	多様な立場の人たちの声や意見をもとにした表現が生まれる
小さな目標	ワークショップで参加者に合った声かけやプログラムが実施される	(アーティストが) 参加者に合った声かけやプログラムを実施する
	参加者の意見をもとにしたチャレンジングな表現が生まれる	参加者の声や意見をもとにした表現が生まれる
	ワークショップの場が、自由に考えのやり取りができ、自分の想いや考えを表現し合う場になる	ワークショップが、アーティストと参加者の共同創作の場となり、お互いに創作する主体として関わり合う
	ワークショップの中で参加者の意見が尊重される	ワークショップの中で参加者の声や意見が尊重される

修正版では、アーティストと参加者が「共同創作」することを一つの達成目標として捉え、事前作成版の小さな目標「ワークショップの場が、自由に考えのやり取りができ、自分の想いや考えを表現し合う場になる」を修正している。また細かな修正として、参加者の意見だ

けでなく、「声」という言葉を加筆している。これは素朴な感想や想いを指しており、「意見」という言葉だけでは掬い取れない部分を補っている。

## 5-2. 障害のある参加者：ワークショップが非日常的でサードプレイスの場として機能する

本稿では、障害のある参加者が WS の場にどのように参与し、その場に対してどのような評価を行っていたか、考察を行っていく。なお、取り上げるエピソードは、WS のプログラム外の日常的なコミュニケーションの場面からも抽出している。

### 5-2-1. 初期・・・第4回 WS（2019年12月13日）での「みんなでヲタ芸」

第4回 WS では、「出会いと別れ」をテーマに、白色の布を使っての表現にチャレンジした。以下で取り上げるのは、白布を使って「オタ芸」を参加者全員で踊った場面である。

この場面は、白布を使っての表現の中で、参加者の「たいせい」が、頭に鉢巻のように白布を巻いて「アイドルのヲタ芸をする人」の真似をしたところから始まる（右写真参照）。第4回 WS の一つのプログラムとして、全員が白布を使っての即興的な表現に挑戦する中、白布を



頭に鉢巻のように巻いて登場した「たいせい」は、「のぶお」や「こがきよ」と即興的に何かの場面をつくる。そして、一通り全員が何らかの表現を行った後、それぞれの「表現」がどのように見えたか、全体で振り返りを行っていた。

#### 【⑦みんなでヲタ芸】

「のぶお」が、座っている「たいせい」に「鉢巻巻いてる人がいたね」と言うと、「こがきよ」は笑いながら「焼き鳥屋の大将」と言う。続けて、「のぶお」は「たいせい」に、「たいせいは焼き鳥屋の大将だったんですか」と尋ねると、「たいせい」は首を横に振り、「違う」と答える。「のぶお」は「マラソン（ランナー）？」と尋ねるが、「たいせい」は小声で、「アイドルに興味がある人が」と言いながら、左手で何かを振る動作をする。「のぶお」は「アイドルに興味ある人がばーって振り回すやつ？」と聞き返すと、誰かが小声で「ヲタ芸」とつぶやく。そのつぶやきに、「たいせい」は頭を縦に振り、「こがきよ」や「のぶお」も「あーっ、ヲタ芸か」と声を出す。そ

して、「のぶお」はホワイトボードに「ヲタ芸」と書いた。<sup>20</sup>

そして、この後、全員で白布を頭に巻いて、「ヲタ芸」に挑戦することになる。

#### 【⑦みんなでオタ芸】

「のぶお」が「ちょっと今日、そのためじゃないけど、ライト持ってきてて」と言いながら、参加者全員に1本ずつペンライトを配っていく。「はる」は、「のぶお」がペンライトを配るところを横目に見ながら、ペンライトをもつフリをして、腕を回す。「ちあき」も笑いながら、「はる」の動きを真似て、腕を回す。「かおり」は「オタ芸」と言いながら、笑っている。

「のぶお」はペンライトを配り終わると、「ちあき」が立ち上がり、オタ芸をするように、ペンライトをもって腕を回す。周りには、その「ちあき」の様子を見ながら、笑っている。「のぶお」が、「よし、じゃあヲタ芸しようか」と言うと、全員立ち上がる。

「のぶお」から白布が参加者全員に配られ、参加者はその白布を頭に鉢巻のように巻く。全員で白布を頭に巻き終わると、

「のぶお」は音楽をかけて踊り始める。すると「ちあき」が腕を大きく回す。「のぶお」は「ちあきの真似しよう」と言い、全員「ちあき」の動きに合わせて動く。<sup>21</sup>



この場面は、「たいせい」が白布を頭に巻いて「ヲタ芸」のフリをしたところから始まり、「のぶお」が「たいせい」の表現を共有することで、最終的に「ちあき」を筆頭に全員でオタ芸をするに至った。そして、終始楽しげな雰囲気ですべて「ヲタ芸」に取り組んでいたが、この回のWS後のアンケートに、「たいせい」は「ヲタ芸まさかするとは思わなかったけどとても楽しかった」と書いており、また、「はる」も「オタ芸、始めて取り組んだ！！みんなでやると楽しい。」と書いていた。

<sup>20</sup> 映像書き起こし（2019年12月13日）

<sup>21</sup> 映像書き起こし（2019年12月13日）

ここから、WS の場において、「自分の発信した考えや表現が周りから認められる」ことや、「表現を一緒に楽しむ」といったことが、参加者にとって印象深かったことが推察される。「ヲタ芸」といった非日常的な体験を、アーティストも参加者も一緒になって「表現」として楽しむことが、参加者目線からの WS 評価の視点において重要のように思われる。

#### 5-2-2. 中期・・・第7回 WS（2020年1月13日）での、「指を切った『ちあき』」

第7回 WS では、それまでの WS でやってきた内容を振り返り、各々思いついた言葉を繋いで、手紙を書くというワークを行った。以下で取り上げるのは、その手紙を書くワークの前に、参加者の「ちあき」が紙で指を切ってしまうという場面である。

##### 【⑧指を切った「ちあき」】

「こがきょ」が模造紙を出してきて、「こがきょ」・「のぶお」・「かおり」・「ちあき」でその模造紙を広げる。すると、「ちあき」が模造紙から手を放して、右手を気にする素振りを見せる。「ちあき」の左隣にいた「かおり」は、「ちあき」の様子に気づき、「手を見せて」と声をかける。その「かおり」の声に「こがきょ」が反応し、「ちあき」に向かって「切れた？」と驚いた表情で尋ねる。



「のぶお」も「あーっ」と大きな声を出して「絆創膏ありますか？」と、職員の仁田野さんや「そら」に尋ねる。「そら」が走って、鞆の中から絆創膏を取り出す。その間、「かおり」は「ちあき」の手を握り、何か声をかけている。そして、「かおり」は「ありがとうございます。」と言いながら、「そら」から絆創膏を受け取り、「ちあき」の指に貼ろうとする。「ちあき」は、「いつも切ってもほったらかし」と言うと、「かおり」はいつもより高めの声でゆっくりと「だめですよ」と話しながら、絆創膏を「ちあき」の指に貼る。「ちあき」は、「かおり」の普段とは違う話し方に「ふふっ」と笑いながら、絆創膏を貼ってもらっている。<sup>22</sup>

<sup>22</sup> 映像書き起こし（2020年1月13日）

この場面はワーク前の出来事であったが、参加者同士の関係性を象徴していたように思われる。ここで登場する「かおり」は昨年度の WS には参加しておらず、今年度からの参加になる。一方、指を切った「ちあき」は昨年度から WS に参加している。そのため、2人は今年度の WS が初対面であり、WS 初期の頃、お互いに会話をするという場面はほとんど見受けられなかった。ところが、WS 中期になると、とくに「かおり」が WS 時間外に他の参加者に話しかけたり、冗談を言ったりするという場面が目立つようになっていた。

そして、「ちあき」が指を切るというハプニングが起きたとき、「かおり」は「ちあき」の手を握り、冗談っぽく声をかけるといったコミュニケーションを図った。ファシリテーターの「のぶお」や「こがきよ」、「そら」も、指を切った「ちあき」を心配し、絆創膏などの対応にあたっていたが、参加者の「かおり」が同じく参加者の「ちあき」の対応をするということの意味は大きいように思われる。すなわち、この WS の中で、参加者同士の「交流」が生まれ、そして、WS のワーク外の場面においても、参加者同士で助けたり、自然なコミュニケーションが生まれていたりしたことが伺えるのである。

### 5-2-3. 後期 (1)・・・第 10 回 WS (2020 年 2 月 1 日) での『ゆり』の衣装

第 10 回 WS では、次の日の本番発表に向けた練習を行っていた。ここでは、リハーサル前の最終調整中に起きた参加者同士のやり取りを取り上げる。

この日、参加者は衣装となる黒服を着用し、各々銀色の耐熱シートを好きな形に切り取って身につけて、練習場に来ることになっていた。集合時間になり、まだ到着していない「ゆり」や「かずき」を他の参加者・ファシリテーターで待っていると、そこにシートを星の形に切り取って黒服に貼り付けた「ゆり」が登場する。

#### 【⑨「ゆり」の衣装】

(ももち文化センター職員の) 仁田野さんが練習室に入ってきて、「ゆりちゃんが来ました」と、参加者全体に言う。「ゆり」が部屋の中に入ってくると、「ゆり」の衣装に星(銀色の耐熱シートを切り貼りして作成)が貼ってあることを見つけた「はる」は、「ゆりちゃん、星ついとる。かわいい」と笑顔で話しかける。「はる」の左隣にいた「かおり」も、「ゆり」に「あっ、ほんとだ、かわいい」と笑顔で声をかける。



「のぶお」は「背中もいっぱいつけてる」と言うと、「ゆり」は背中を「かおり」や「はる」にも見せる。「はる」は「あっ、ほんとだ」と言い、「のぶお」は「すごい」と言う。「かおり」も「すごい、器用やね」と、「ゆり」のことを褒めている。<sup>23</sup>

この場面はワーク前の出来事であったが、参加者同士のコミュニケーションの幅が広がった瞬間でもあったように思われる。WS初期は、アーティストや、アーティストが組み立てるプログラムを介して参加者同士の「交流」が生まれ、WS中期には、アーティストやプログラムを介さずとも自然なコミュニケーションが生まれていた。そして、WS後期に至り、お互いの「表現」を褒めるというコミュニケーションが生まれた。「ゆり」が衣装に星をつけるという「表現」に対する、「はる」や「かおり」の反応が、そのことを象徴しているように思われる。

なお、衣装に星をつけるというアイデアを実践したのは「ゆり」だけであるが、他の参加者も各自のアイデアをもとにした衣装を作ってきていた。例えば、「はる」は、パンダの耳を、銀色の耐熱シートを切り取って作成し、頭にかけていた。そして、そうした一つ一つの「表現」に対して、ファシリテーターだけが反応するのではなく、参加者同士で楽しんだり、共有したり、褒めたりといった瞬間が生まれていた。つまり、このWSの場が、徐々に、参加者同士で、それぞれの「表現」を尊重する空間へと変わってきたことが推察される。

#### 5-2-4. 後期 (2)・・・第11回WS (2020年2月2日)の「本番終了後のアンケート」

第11回WSでは、それまでのWSで創作し、練習してきた「物語」を観客の前で披露した。具体的には、「PEOPLE ART PERFORMANCE 2020」(福岡県立ももち文化センター・一般社団法人パラカダンス主催)に「表現の面白さを体感するワークショップ」という団体として出演し、他の7団体と混ざって公演を行った。

以下で取り上げるのは、本番が終わった後にとった参加者のアンケートである。一部抜粋して記したい。

#### 【⑩本番終了後のアンケート (一部抜粋)】

「動きが気持ち悪い」私の頭の中にずっと貼りついて離れない言葉です。高校時代に

<sup>23</sup> 映像書き起こし (2020年2月1日)



3年間、一挙一投足にいたるまで監視され、少しでもおかしいことをすればそれをマネして言いふらして笑われる。そんないじめを受けていました。その影響で仕事もままならなくなり10年たってもいまだに苦しんでいます。このワークショップで舞台に立つたびに「本当は気持ち悪くないんじゃないか?」「大丈夫なんじゃないか?」と考えられるようになり、まだ仕事に復帰できてないものの、少しずつ前に進めている気がします。去年は思われなかったけど、今年は自分も「この舞台で、1人でジャグリングをしてみたい」と思えるようにまで回復しています。ぜひ、なくならないで欲しいワークショップだと思います。<sup>24</sup>

全12回のWSを通して、アーティストは参加者の「表現」を尊重してきた。そして、次第に参加者の間でもお互いの「表現」を楽しみ、尊重するという空気が生まれていた。その空気の中で、過去にトラウマを抱えた参加者が、「表現」を通して自己を回復していく。この記述に表れているように、「表現」を尊重し、一緒に楽しむという出来事の積み重ねが、参加者自身の前向きな変化に寄与していたように思われる。

#### 5-2-5. まとめ：ロジックモデルの検討・提案

ここまで、WS全12回を初期・中期・後期に分け、それぞれの時期に起きたエピソードを抽出し分析をすることで、参加者がWSの場に対してどのように参与し、また、WSの場をどのように「評価」していたと考えられるか、考察を行ってきた。そして、ここまでに、参加者の視点から大事だと考えられること（評価指標）として、「自分の発信した考えや表現が周りから認められること」「表現と一緒に楽しむこと」等が出てきた（下表参照）。

WS 初期	「表現を楽しむこと」 「表現と一緒に楽しむこと」 「自分の発信した考えや表現が周りから認められること」 「(アーティストやワーク内容を介して) 交流が生まれること」
WS 中期	(上記の点に加えて) 「参加者同士の交流が生まれること」
WS 後期	(上記の点に加えて)

<sup>24</sup> ワークショップ後アンケート（2020年2月2日）

	「参加者同士で表現を楽しむこと」 「参加者同士で表現を尊重すること」
WS 全体	「表現を通して自己を回復すること」

(表 参加者視点の評価指標)

なお、事前に作成された参加者の達成目標には、「ワークショップが非日常的でサードプレイスの場として機能する」「ワークショップが安心して参加できる場である」「新たな出会いが強く思い出に残って味わうことのできる体験になる」「参加者がワークショップの体験を受けて心が変化したり自己を発見する」「参加者がワークショップを終えたとき、接し方や行動が変化する」といった点が挙げられていた。このことを踏まえたうえで、以下で2点指摘したい。

1点目は、事前作成の達成目標との共通点についてである。事前作成では「新たな出会いが強く思い出に残って味わうことのできる体験になる」「参加者がワークショップの体験を受けて心が変化したり自己を発見する」といった点が挙げられており、先述の「表現と一緒に楽しむこと」「参加者同士の交流が生まれること」、「表現を通して自己を回復すること」と重なるように思われる。このことは、換言すれば、WSの場で新たな「出会い」が生まれることと、そのWSの内容が「楽しい」こと、そして、WSを通して参加者自身が「変化」していくという視点が重要であると考えられるように思われる。

2点目は、事前作成の達成目標との違いについてである。今回の分析から、「参加者同士の交流」や、「参加者同士で表現を尊重する」といった場面が生起していたことを確認してきた。そして、このことは、参加者自らが他の参加者との関係性を深め、「(参加者自らが)お互いの意見や表現を尊重し合う空気」をつくっていったことと繋がるように思われる。なお、事前作成の達成目標の中では、「アーティスト」の達成目標として「ワークショップの中で参加者の意見が尊重される」が挙げられており、「参加者」の達成目標の中には含まれていなかった。

以上を踏まえたうえで、WSにおける参加者の達成目標(評価指標)について、修正版ロジックモデルを提案する。

	事前作成の達成目標	修正版の達成目標
大きな目標	ワークショップが非日常的でサードプレイスの場として機能する	ワークショップが居場所として機能する
小さな目標	ワークショップが安心して参加でき	(参加者にとって)ワークショップ

る場である	が安心して参加できる場になる
新たな出会いが強く思い出に残って 味わうことのできる体験になる	(参加者にとって) ワークショップ が、新たな出会いの場となり、楽し い体験を共有することができる
参加者がワークショップの体験を受 けて心が変化したり自己を発見する	参加者が、ワークショップでの体験 を通して自己を回復したり、再発見 する
参加者がワークショップを終えたとき、 接し方や行動が変化する	参加者が、他の参加者やアーティスト との関係性を深め、相手の表現を 尊重する

まず、大きな目標に関して、「非日常的でサードプレイスのな場」という文言を修正し、「居場所」を加筆している。確かに参加者にとってワークショップという場が、日常生活とは離れた非日常的な体験ができる場として捉えられるが、ここまで取り上げてきたように、ワークショップのプログラム外においても参加者の関わりが深まる出来事が誕生していた。それは例えば、プログラム外の些細なコミュニケーションの場面—具体的には、「指を切った『ちあき』や『ゆり』の衣装」の場面における参加者同士のコミュニケーション—に象徴される。こうしたコミュニケーションは、ワークショップの中の「表現」を通じたコミュニケーションや関わり合いとは異なり、より日常的なもののように考えられるため、「非日常的」という言葉を修正した。

また、「小さな目標」に関して、「参加者がワークショップを終えたとき、接し方や行動が変化する」という文言を大幅修正し、「参加者が、他の参加者やアーティストとの関係性を深め、相手の表現を尊重する」という書き方にかえている。これは、「参加者の行動が変化する」といった時の「変化する」内容の詳細を、今回の分析から加筆したものである。

### 5-3. 参加者の家族：今まで知らなかった障害当事者の姿が見られる

本項では、参加者の家族がWSの場をどのように評価していたか考察を行っていく。

参加者の家族は、WS中、会場の隅に設置された見学者席に座り、参加者の様子を見守っていた。そのため、参加者の家族がWSのプログラムに参加するということではなく、WSが終わるとアンケートを記入し、参加者と共に帰っていった。また、参加者の家族全員が必ず全てのWSに参加するわけではなく、基本的に3、4名の方が入れ替わりで見学していた。

そこで、以下では参加者の家族のアンケート回答や、第11回WSの本番終了後の振り返

りで語られた感想を中心に、「WS の場にどのように参与し、また、その場に対してどのような評価を行っていたか」検討する。

### 5-3-1. 参加者にとっての「分かりやすさ」・・・「WS 終了後のアンケート」

参加者の家族が WS を評価する際、その指標の一つに「WS の内容が参加者にとって理解できる（できない）」が挙げられるよう思われる。例えば、ある参加者の家族は、第 1 回 WS（2020 年 10 月 18 日）の「WS 終了後アンケート」に以下のような記載をしていた。

#### 【⑪第 1 回 WS 終了後のアンケート（一部抜粋）】

（「2. 参加者に合った声かけやプログラムが実施されていたと思えますか」という問いに対して）

声かけを小学生がわかるくらいに伝えてほしい<sup>25</sup>

また、第 6 回 WS（2020 年 1 月 10 日）や第 7 回 WS（2020 年 1 月 13 日）の「WS 終了後アンケート」にも、内容の「分かりやすさ」に関わって以下のような記載があった。

#### 【⑫第 6 回 WS 終了後のアンケート（一部抜粋）】

セリフがあるとわかりやすいし、ふしぎな感じで良かった。<sup>26</sup>

#### 【⑬第 7 回 WS 終了後のアンケート（一部抜粋）】

なんとなくまとまってきて良かったです。話ができると、自分の役割とかわかりやすくなると思うので、これからは楽しみです。<sup>27</sup>

このように、参加者の家族が「参加者の WS 内容の理解」や「WS の中で創作される物語」に関わる「（ワーク内容や働きかけの）分かりやすさ」に価値を置いていたことがわかる。そして、「話ができると、自分の役割とかわかりやすくなると思うので、これからは楽しみです。」という語りに象徴されるように、「分かる」という段階を前提にすることで、「WS を楽しむことができる」という段階に移行できると考えられている。

---

<sup>25</sup> ワークショップ後アンケート（2019 年 10 月 18 日）

<sup>26</sup> ワークショップ後アンケート（2020 年 1 月 10 日）

<sup>27</sup> ワークショップ後アンケート（2020 年 1 月 13 日）

ただし、先述したように、WS のファシリテーターを務めた「のぶお」は、第 2 回 WS 終了後の振り返りで「わかんないところはわかんなくてよくって、ルールとか一緒に楽しめるところはわかったほうがいいなってやったことが、すごくいい方向にいったな」と語っていた。そのため、WS の「分かりやすさ」を基準に評価を行うということについては、アクターによって見解が分かれるように思われる。

### 5-3-2. 家族と参加者の関係への影響・・・「本番終了後の振り返り」等

事前作成の「達成目標」には、「家族が障害当事者の新たな側面に気づくことで新たな関わりが生まれる」ということが挙げられていた。このことに関わって、第 11 回 WS（2020 年 2 月 2 日）に参加者の家族が、家の中での様子を伝える場面があった。

第 11 回 WS では、それまでの WS で創作し、練習してきた「物語」を観客の前で披露した。そして、本番終了後、出演者たちは楽屋に戻り、簡単な振り返りを行った。この時、WS 参加者の家族から、以下のような感想が述べられた。

#### 【⑭第 11 回 WS 終了後の振り返り談】

妻が、この WS をしたいっていったときに、「えっと、じゃあこの子どうしよう。」っていうのが話になりました。仕事を私もしてる中でなかなか、「うーん」って考えて、まあ、人に預けたりなんたり最初の方はしてたんですけども。実は、娘がすごく気に入ってまして。先日なんかは（娘が）「のぶおさんがやれって言ったらやるでしょ」みたいな。（中略）

妻もとても、あの、いろいろありながら、するのかな、なんていってうふうに思ったりしながらですね、こんな形で素晴らしい形でできあがるのは、私も非常に感動的です。<sup>28</sup>

この振り返り談で出てくる「妻」はこの WS の参加者の 1 人で、未就学児の娘さんが 1 人いる。そして、この参加者の旦那さんは娘さんを連れて WS の見学に訪れていた。なお、娘さんは、他の WS 参加者から可愛がられており、WS 時間外に遊んでいる様子なども確認されている。

この語りから、参加者の家族が家の中でも WS のことを話題にしていることや、WS に参

---

<sup>28</sup> 映像書き起こし（2020 年 2 月 2 日）

加するうえで家族のサポートがあったことが推察される。WSに参加するうえでの、家族の理解やサポートの必要性について再認識させられたように思われる。

また、他の参加者の家族からは以下のような感想がアンケートに綴られた。

【⑮第11回WS終了後のアンケート（一部抜粋）】

毎回金ようびでつかれてるはずなのに、楽しそうに通ってました。

（中略）私は本番当日しか参加できていませんが、日頃からよく友李 chan からお話を聞いてます。これからもどうぞよろしくお願いします。<sup>29</sup>

今回のWS検証では、WS中の参加者と、参加者の家族の様子を観察していたため、家中の様子までうかがい知ることがほとんどなかった。ところが、こうしたアンケートの記述から、家の中でWSを楽しむにしている参加者の様子や、その参加者の様子を見守る家族の姿は想起されるように思われる。参加者とその家族との間で具体的にどのような「新たな関わりが生まれた」かまでは明らかではないが、一定程度、WSに参加したことの影響が家中に及ぼしているといえるのではないだろうか。

### 5-3-3. まとめ：ロジックモデルの検討・提案

ここまで参加者の家族がWSの場をどのように評価し、また、WSによって参加者とその家族との間にどのような関わりが生まれたか分析を行った。そして、参加者の家族の視点から大事だと考えられること（評価指標）として、「WSの分かりやすさ」「WS参加に対する理解」「WS参加者へのサポート」等が出てきたように思われる（下表参照）。

WSへの評価の視点	「小学生がわかるくらいの声かけ」 「(参加者にとって) WSの内容が分かりやすい」 「(参加者にとって) WSが楽しそう」
参加者の家族にとって大事なこと	「WSに対する理解」 「参加者へのサポート」 「参加者の様子を見守る」

---

<sup>29</sup> ワークショップ後アンケート（2020年2月2日）

なお、事前に作成された参加者の家族の達成目標には、「今まで知らなかった障害当事者の姿が見られる」「家族が障害当事者の新たな側面を知ることによって日常生活に変化が起こる」「家族が障害当事者の新たな側面に気づくことで新たな関わりが生まれる」「参加者同士が余裕を持って人と人として向かい合えるようになる」といった点が挙げられていた。このことを踏まえたうえで、以下で3点指摘したい。

1点目は、事前作成の達成目標との共通点についてである。事前作成では「家族が障害当事者の新たな側面を知ることによって日常生活に変化が起こる」「家族が障害当事者の新たな側面に気づくことで新たな関わりが生まれる」といった点が挙げられていたが、実際に「新たな関わり」は家の中で見受けられたように思われる。例えば、先述のアンケートの中には「毎回金ようびでつかれてるはずなのに、楽しそうに通ってました。私は本番当日しか参加できていませんが、日頃からよく友李 chan からお話を聞いてます。」といった記述からも、そのことが推測される。WSを媒介に、家族の中で新たな交流や関わりが生まれているようである。

2点目は、事前作成の達成目標では触れられていなかった、WSに参加するうえでの「家族の理解」についてである。例えば【⑩第11回WS終了後の振り返り談】の中では、WSに参加するうえで、子どもの世話や預かり方法について話し合いが行われたことが語られた。結果的に、子どもを連れてWS見学をするという方法をとることでその課題を乗り越えたが、その方法を取ることができない場合（例えば、仕事で子どもと同伴することができない場合等）は、WSへの参加のハードルは上がると考えられる。したがって、WSに対する「家族の理解」が必要になってくるように思われる。また、当事者が安心して参加できるように「サポート」する体制を、当事者の家族と話し合いながら整えていくことも、WS参加の前提条件として必須になってくるように思われる。

3点目は、「参加者－参加者の家族」の関係性だけでは掬い取れないような「新たな関わり」についてである。具体的には、障害当事者の家族同士の繋がりや、あるいは、アーティストと家族との関係構築、そして、WSに参加していない当事者・家族などである。今回の検証では上述のような「新たな関わり」が生まれる場面は見受けられなかったが、第11回WS後の振り返りの中で、ある参加者の家族から、今後の課題として言及される場面があった。

**【⑩第11回WS終了後の振り返り談】**

本当にみんな生き生きしてて見てる方もすごく楽しかったし。「あれっ、ここ、こうじゃなかったかな」とか思いながら見たりしてるんですけど。でも、なんかその意外

性ってというか、そういうのがすごく楽しくって。なんかもうすごく毎回楽しみです。今日は本当にあの、他の\*\*もすごく楽しかったので、あの本当に最後楽しかったなあっていう風に思いました。また、みなさんに広めていけたらなっていうのをすごく、私の中の課題としてありますけど、またこれからもよろしく願います。<sup>30</sup>

このように、参加者の家族が WS 外の人たちに発信していくという方向性が、今後の課題として位置づけられていた点は押さえておく必要があるように思われる。

以上を踏まえたうえで、WS における参加者の家族の達成目標（評価指標）について、修正版ロジックモデルを提案する。

	事前作成の達成目標	修正版の達成目標
大きな目標	今まで知らなかった障害当事者の姿が見られる	家族が障害当事者の新たな側面を知ることによって日常生活に変化が起こる
小さな目標	家族が障害当事者の新たな側面を知ることによって日常生活に変化が起こる	家族の WS に対する理解を促し、家族と共に当事者をサポートできる体制を整える
	家族が障害当事者の新たな側面に気づくことで新たな関わりが生まれる	今まで知らなかった障害当事者の姿（新たな側面）を知ることができる
	参加者同士が余裕を持って人と人として向かい合えるようになる	家族が障害当事者の新たな側面に気づくことで新たな関わりが生まれる
		家族が WS の外部に発信するようになる

まず、大きな目標と小さな目標の入替えを行っている。具体的には、事前作成では小さな目標であった「家族が障害当事者の新たな側面を知ることによって日常生活に変化が起こる」を大きな目標に変更し、代わって事前作成では大きな目標であった「今まで知らなかった障害当事者の姿が見られる」を小さな目標に変更している。これは、両目標の包含関係を修正する必要があると判断したためである。

次に、今回の検証で起きていた「家族の理解・サポート」を、小さな目標の一つに挙げた。

<sup>30</sup> 映像書き起こし（2020年2月2日）



これは、障害当事者の WS の参加を保障するうえで、家族の「理解」と「サポート」が前提条件となっていたことが確認されたためである。WS の企画側はこうした家族の理解・サポートを得ることができる体制をつくる必要があるように思われる。

また、最後の振り返りで、WS の活動を広めていくことが、その課題として認識されていた。参加者の家族も、WS に関わる当事者として参与する方向性が確認されたため、小さな目標の一つに「家族が WS の外部に発信するようになる」という項目を挙げた。

#### 5-4. 文化施設職員：文化施設に当たり前に障害のある人が参加する環境が生まれる

本項では、文化施設職員が WS の場に対してどのように参与し、その場をどのように評価していたといえるか、考察を行っていく。ただし、これまで分析した各アクターとは異なり、文化施設職員は WS に直接的に参与していたわけではなかった。むしろ、WS 開催する前の事前準備（WS 参加者募集の広報等）や、WS の当日受付、会場確保等が主な関わり方であったように思われる。このことを踏まえたうえで、文化施設職員の評価指標について考察を行っていききたい。

##### 5-4-1. WS の外部への「発信」

今回の WS 参加者募集の案内は、ももち文化センターの業務内容として行われた。事前作成の達成目標の中に「企画を外部に知ってもらうための取り組みが増える」といった項目が挙げられているように、WS の外部への発信・宣伝は重要な役割として把握されている。

では、実際、その「発信」はどのように行われたのだろうか。「WS の参加者募集」に限ってみると、今回初参加が 2 名で、その他 6 名（内 1 名は途中から不参加）は前年度の WS から引き続きの参加になる。また、初参加の 2 名はそれぞれ「関係者からの紹介」「チラシ（南区図書館）」<sup>31</sup>をきっかけに WS に参加している。WS の適正人数は定められていないが、前年度初参加の人数が 12 名いたことを踏まえると、今年度初参加の人数が 2 名であることは若干少ないように思われる。

この外部への「発信」に関わって、ももち文化センター職員の仁田野さんは、WS 前の事前インタビューで以下のような回答をしていた。

##### 【⑰仁田野さんへの事前インタビュー（2019年7月26日）】

あんまりちょっとまだ勉強不足っていうのが 1 番あるんですけど、あんまり状況が分かってないんですよ、外側の。どこにどう情報を届けたらどういう人たちに届くのかっていう理解が全くよく分かんなくて、今手当たり次第にここにチラシを送ってみたりとか、多分でもそういうことじゃないと思うんですよ。チラシ見たから来るかっていったらそうじゃないと思うし、何かそのアプローチの仕方みたいなのは考えないといけないなと思ってるんですけど。<sup>32</sup>

<sup>31</sup> WS の申し込み状況は逐次メールで、ももち文化センターからファシリテーター・検証チームに情報共有が行われていた。

<sup>32</sup> 仁田野さんへの事前インタビュー（2019年7月26日）

ここでは WS のターゲット層へのアプローチ方法に課題を抱えていることが語られていた。確かに、今回の WS 初参加のうち 1 名は、図書館でチラシを手にとったことをきっかけに参加申込をしているが、その他の参加者が「関係者からの紹介」や、「前年度からの継続」であることを踏まえると、アプローチの仕方には課題が残るように思われる。また、ターゲット層をどのように設定するか、といった点にも課題が残る。仁田野さんが「どこにどう情報を届けたらどういう人たちに届くのかという理解が全くよく分かんなくて」と語るように、アプローチの対象となる層がどこにいるのか、あるいはアプローチすべき対象とは誰かといった点が定まっていない。これは、アプローチの対象となる福祉現場にいる人たち（障がいを抱えた当事者、障がい者支援に関心のある層）が、文化施設職員にとって普段関わりが少ないことに起因するよう思われる。今後、アプローチ方法を考えていくうえで、他領域の現場との交流や情報共有等が必要になってくるのではないだろうか。

#### 5-4-2. 文化施設職員の力量形成について・・・「事前インタビュー（2019年7月26日）」

事前作成の達成目標の中には「ワークショップに参加する人や関心を寄せる人が増える」「ワークショップに関わる組織や場が増える」といった WS に関わる場と人数を「増やす」ことに主眼が置かれていた。先述したように、こうした WS の場と人数を増やす取り組みは今後の課題として残っている。他方で、場や人数を増やす取り組みを行っていくうえで、文化施設職員が WS のコーディネーターとしての力量を上げていくことも課題の一つとして認識されていた。事前インタビューの中で、ももち文化センター館長の糸山さんは以下のように話す。

##### 【⑱糸山さんへの事前インタビュー（2019年7月26日）】

「文化施設の職員なのよ、あなたたち」っていうベースが JTB<sup>33</sup>になって初めて揺らされてる今状態だと思うので、ここは続けるしかないと思ってるんですね。急に人間変わんないから。<sup>34</sup>

##### 【⑱糸山さんへの事前インタビュー（2019年7月26日）】

職員がほぼはっきりいったら皆さんそういうこと（\*芸術による社会包摂事業など）

<sup>33</sup> 福岡県立ももち文化センター指定管理者の代表団体。

<sup>34</sup> 糸山さんへの事前インタビュー（2019年7月26日）

好きになってもらう。(中略) AMCF の職員は 1 人ずつそういう、これが当たり前だ  
なっているふうになってもらおうとはしています。<sup>35</sup>

ここでは、ももち文化センターの職員に、「文化施設の職員」としての意識を高めてもら  
い、事業として行う WS に関心を持ってもらいたいという期待が語られていた。文化施設  
が「社会包摂事業」に取り組むうえでは、施設職員の意識改革が必要と考えられているよう  
である。

#### 5-4-3. まとめ：アンケートの記述を含めてロジックを検討・提案

ここまで文化施設職員が、WS の場に対してどのように関与することが求められるか、事  
前インタビュー等を用いて考察を行ってきた。そして、文化施設職員にとって大事だと考え  
られること（評価指標）として、「外部に知ってもらうための取り組みを行う」「福祉現場に  
いる人たちとの情報共有」「文化施設職員の意識改革」等が出てきたように思われる（下表  
参照）。

文化施設職員にとって 大事なこと	「外部に知ってもらうための取り組みを行う」 「福祉現場にいる人たちとの交流・情報共有」 「文化施設職員の意識改革」 「芸術文化による社会包摂事業に対する理解」
---------------------	--

なお、事前に作成された文化施設職員の達成目標には、「文化施設に当たり前に障害のあ  
る人が参加する環境が生まれる」「文化施設が障害当事者が自発的に表現したいことを行動  
に移せる場である」「ワークショップに関わる組織や場が増える」「企画を外部に知ってもら  
うための取り組みが増える」「ワークショップに参加する人や関心を寄せる人が増える」と  
いった点が挙げられていた。このことを踏まえたうえで、以下で 2 点指摘したい。

1 点目は、事前作成の達成目標における具体性の欠如についてである。事前作成の達成目  
標の中には、「ワークショップに関わる組織や場が増える」「企画を外部に知ってもらうた  
めの取り組みが増える」とあったが、具体的に「増える」というのはどの程度のことを指して  
いるのか、あるいは「企画を外部に知ってもらうための取り組み」が具体的にどのようなも

---

<sup>35</sup> 糸山さんへの事前インタビュー（2019 年 7 月 26 日）

のを指すのか、十分に検討できていなかったように思われる。特に今回の WS 検証の中では、文化施設職員の動きが見えづらい部分もあったが、昨年度と今年度の参加人数の比較を行うと、上述の達成目標が十全に達成されたとは言い難いように思われる。

また、「増やす」ためのロジックも欠如しているように思われる。例えば、「ワークショップに参加する人や関心を寄せる人が増える」ためには、何をやる必要があるのか、ただ外部に知ってもらうために発信するとしても、どの外部に発信する必要があるのか、といった点のロジックは、明瞭であったとは言い難い。事前インタビューの中で出てきたように「どこにどう情報を届けたいか」ということの意味が今後必要になってくるように思われる。

2点目は、事前作成の達成目標では触れられていなかった「文化施設職員の意識改革」についてである。事前作成の達成目標には、文化施設職員の役割が明記されていたように思われるが、他方で文化施設職員が役割を遂行するうえでの意識や力量については言及されていなかった。施設職員が WS の内容やその意義を理解することも今後の課題として残るのではないだろうか。

以上を踏まえたうえで、WS における文化施設職員の達成目標（評価指標）について、修正版ロジックモデルを提案する。

	事前作成の達成目標	修正版の達成目標
大きな目標	文化施設に当たり前に障害のある人が参加する環境が生まれる	文化施設に障害のある人が参加できる環境が生まれる
小さな目標	文化施設が障害当事者が自発的に表現したいことを行動に移せる場である	文化施設が、障害当事者が表現したいことを行動に移せる場である
	ワークショップに関わる組織や場が増える	文化施設職員が、ワークショップの内容や意義について関心を持ち、理解する
	企画を外部に知ってもらうための取り組みが増える	企画を外部に知ってもらうために、外部との交流や繋がりを生み出す
	ワークショップに参加する人や関心を寄せる人が増える	ワークショップに参加する人や関心を寄せる人が増える

文化施設職員の達成目標に関しては、小さな目標について大幅な修正を行い、ワークショ

ップに対する理解の必要性や、外部との繋がりについて明記した。これは、糸山さんや仁田野さんの事前インタビューの中から、現段階の文化施設側の課題として認識されていることを付け加えている。来年度以降の事業改善に向けて、上述のロジックモデルの修正を提案したい。

## 6. 考察

ここまで「アーティスト」「障害のある参加者」「参加者の家族」「文化施設職員」のロジックモデルの検討・修正提案を行った。下記は、これまでの達成目標をまとめたものである。

アーティスト	障害のある参加者	参加者の家族	文化施設職員
多様な立場の人たちの声や意見をもとにした表現が生まれる	ワークショップが居場所として機能する	家族が障害当事者の新たな側面を知ることによって日常生活に変化が起こる	文化施設に障害のある人が参加できる環境が生まれる
(アーティストが)参加者に合った声かけやプログラムを実施する	(参加者にとって)ワークショップが安心して参加できる場になる	家族のWSに対する理解を促し、家族と共に当事者をサポートできる体制を整える	文化施設が、障害当事者が表現したいことを行動に移せる場である
参加社の声や意見をもとにした表現が生まれる	(参加者にとって)ワークショップが新たな出会いの場となり、楽しい体験を共有することができる	今まで知らなかった障害当事者の姿(新たな側面)を知ることができる	文化施設職員が、ワークショップの内容や意義について関心を持ち、理解する
ワークショップが、アーティストと参加者の共同創作の場となり、お互いに創作する主体として関わり合う	参加者が、ワークショップでの体験を通して自己を回復したり、再発見する	家族が障害当事者の新たな側面に気づくことで新たな関わりが生まれる	企画を外部に知ってもらうために、外部との交流や繋がりを生み出す
ワークショップの中で参加者の意見や声が尊重される	参加者が、他の参加者やアーティストとの関係性を深め、相手の表現を尊重する	家族がWSの外部に発信するようになる	ワークショップに参加する人や関心を寄せる人が増える

ただし、これは WS の外側で観察した結果から作成したものである。そのため、WS に実際に参加していた「アーティスト」や「参加者」「参加者の家族」の意見を反映させることはできていない。「参加型評価」において重要なのは、活動に関わる当事者が評価のプロセスに参加して、活動を振り返り、改善へと繋げることにある。

そこで、WS 全 12 回の終了後、「ファシリテーター」・「ももち文化センター職員」含めた関係者で、WS 検証のための振り返りを行った。その概要は次に記すとおりである。

日時 : 2020 年 3 月 13 日 (金) 13 時~16 時 30 分

場所 : ももちパレス本館 2 階会議室

参加者 : 13 名 (以下、敬称略)

ファシリテーター / 五味、古賀、野中

参加者の家族 + 関係者 / 盛田 + 大学生 2 名

ももち文化センター / 糸山、仁田野、江上

検証チーム / 田村、中山、大和、長津

内容 : 13:00 スタート

- ・イントロダクション (検証の目的や今回の検証方法の共有)
- ・事前に作った達成目標をもとにして、個人で振り返り
- ・全 12 回の振り返り
- ・3 つの特徴的なシーンの映像を見て振り返り & ディスカッション

14:25 ごろ (休憩)

14:35 再開

- ・グループワークで、今期の目標の再検討
- ・最終目標と中間目標の点検
- ・今年の検証全体の振り返り

16:30 終了

#### 6-1. ロジックモデルの再検討 : 全体での WS 振り返り会 (2020/3/13) を経て

WS 振り返りの会では、実際の WS の映像を全員で確認し、その場でどういったコミュニケーションが起きていたのか、そのコミュニケーションに対してどう感じた / 感じていたかが語られた。また、休憩を取った後、WS が開かれる前に作成したロジックモデルの検討を、ワールドカフェ形式で行った。その結果、次のようなポスターが作成された。





i) アーティスト

事前作成では、大きな目標として「多様な立場の人たちの意見をもとにした表現が生まれる」が、小さな目標として「ワークショップで参加者に合った声かけやプログラムが実施される」・「参加者の意見をもとにしたチャレンジングな表現が生まれる」・「ワークショップの場が自由に考えのやりとりができ自分の想いや考えを表現し合う場になる」・「ワークショップの中で参加者の意見が尊重される」が掲げられていた。そして、振り返りの中では、4つのテーマ「意見」・「表現」「ワークショップ現場」・「環境」について話し合いが行われた。

まず、大きな目標でも小さな目標でも記載されている「意見」という言葉に対して、疑問の声が挙がった。具体的には、「意見」という言葉が「強い意識がないと言えない言葉」のように感じ、些細な「つぶやき」や「振る舞い」が包含されていないことが課題として認識された。そこで、「アイデア」「行動」「行い」「発言」など、他の語で代用できないか提案が行われた。

次に、小さな目標の中の「チャレンジングな表現」という文言に疑問が投げられた。というのも、何を基準に「チャレンジング」とするのか、あるいは、「チャレンジングな表現が生まれる」ことを目的に据えたときに、「(チャレンジングな表現が)できていないということ」を前提に考えているのではないか」といった声が挙がった。

3つ目の「ワークショップ現場」というテーマに関しては、今回のワークショップが、「ステップ」(例:「〇〇ができたから、次は××をしよう!」)という考えをやめ、「即興的に」できる内容を中心に据えていたことが良かった、という意見が出た。というのも、「即興的な表現が生まれることで、「できる／できない」「正解／不正解」といった基準でやらなくなり、「もっと面白いものを自発的にみんなが出していけるような場になった」と思われるからである。

最後に、「環境」というテーマに関して、ワークショップの場が「安心していろいろできること」や、「本番があることで緊張感があったこと」などが、今回のワークショップの良かった点として挙げられていた。

このように、アーティストの評価指標をもとに、それぞれの言葉の妥当性を中心に検討が行われた。そして、ここで出た意見をもとに、下記のようなロジックモデルの作成を行った。

	事前作成の達成目標	修正版の達成目標
大きな目標	多様な立場の人たちの意見をもとにした表現が生まれる	多様な立場の人たちによる自由な表現が生まれる

小さな目標	ワークショップで参加者に合った声かけやプログラムが実施される	ワークショップで参加者に合った声かけやプログラムを実施される
	参加者の意見をもとにしたチャレンジングな表現が生まれる	即興的な表現が生まれ、みんなでもっと面白いものを探求できるようになる
	ワークショップの場が、自由に考えのやり取りができ、自分の想いや考えを表現し合う場になる	ワークショップが、安心して表現できる場になる
	ワークショップの中で参加者の意見が尊重される	ワークショップの中で参加者の表現が尊重される

## ii) 参加者

事前作成では、大きな目標として「ワークショップが非日常的でサードプレイスの場として機能する」が、小さな目標として「ワークショップが安心して参加できる場」・「新たな出会いが強く思い出に残って味わうことのできる体験になる」・「参加者がワークショップの体験を受けて心が変化したり自己を発見する」・「参加者がワークショップを終えたとき、接し方や行動が変化する」が掲げられていた。そして、振り返りの中では、具体的に評価検証が可能かという観点から、それぞれの項目について検討が行われていた。

まず、大きな目標については特に問題ないという意見が多く、その他の4項目について検討が行われた。まず、1つ目の「ワークショップが安心して参加できる場である」については、「客観的に評価しやすい」・「割と見える」といった意見が出ており、文言の修正は特に検討されなかった。2つ目の「新たな出会いが強く思い出に残って味わうことのできる体験になる」については、昨年度から引き続き参加した人も多かったため、「新たな出会い」と呼びうるような「出会い」が少なかったことや、「出会い」が思い出として強く残っているか、どうかは参加者によって異なる為、言い回しを変更する必要があるのではといった意見が出た。3つ目の「参加者がワークショップの体験を受けて心が変化したり自己を発見する」については、「自己を発見する」という部分の評価が難しいという意見が出ていた。また、4つ目の「参加者がワークショップを終えたとき、接し方や行動が変化する」についても、「行動が変化する」という部分に疑問の声が挙がり、ワークショップの中での話か、それとも、日常生活に及ぶ範囲での話なのか、不明瞭であると指摘された。

こうした意見を踏まえたうえで、参加者の「変化」を、「ワークショップ当日の中での変化」・「ワークショップを行った半年を通しての変化」・「本番を終えた後の変化」に分けて、評価することが提案された。

このように参加者の評価指標をもとに、それぞれの項目の具体的な評価が可能かどうかを視野に入れた検討が行われた。そして、ここで出た意見をもとに、下記のようなロジックモデルの作成を行った。

	事前作成の達成目標	修正版の達成目標
大きな目標	ワークショップが非日常的でサードプレイスの場として機能する	ワークショップが非日常的でサードプレイスの場として機能する
小さな目標	ワークショップが安心して参加できる場である	ワークショップが安心して参加できる場である
	新たな出会いが強く思い出に残って味わうことのできる体験になる	新たな出会いが生まれ、思い出に残る体験ができる
	参加者がワークショップの体験を受けて心が変化したり自己を発見する	参加者がワークショップを体験することで、心が変化したり自己を発見する
	参加者がワークショップを終えたとき、接し方や行動が変化する	参加者がワークショップの本番を終えて、接し方や行動が変化する

### iii) 参加者の家族

事前作成では、大きな目標として「今まで知らなかった障害当事者の姿が見られる」が、小さな目標として「家族が障害当事者の新たな側面を知ることによって日常生活に変化が起こる」・「家族が障害当事者の新たな側面に気づくことで、新たな関わりが生まれる」・「参加者同士が余裕を持って人と人として向かい合えるようになる」が掲げられていた。そして、振り返りの中では、それぞれの項目の文言の妥当性や、新たな項目を増やすことを視野に検討が行われた。

まず、大きな目標「今まで知らなかった障害当事者の姿が見られる」と小さな目標「家族が障害当事者の新たな側面を知ることによって日常生活に変化が起こる」を、それぞれ入れ替えることが提案された。これは、「家族が～変化が起こる」が、「今まで知らなかった～見られる」を包含しているといった意見が出たためである。次に、小さな目標「参加者同士が余裕を持って人と人として向かい合えるようになる」について、「人と人として」という言葉が相応しくないのではないか、あるいは「人と人として」という状態が前提になっていないことを意味するのか、といった疑問の声が挙がり、文言を修正する形で調整が図られた。また、新たな項目として「家族と当事者の関係性以外の『関係性』（アーティストと家族、家族と家族など）が変化したり、つくられたりする」ことを加えることが提案された。

このように、参加者の家族の評価指標をもとに、それぞれの項目について検討が行われた。そして、ここで出た意見をもとに、下記のようなロジックモデルの作成を行った。

	事前作成の達成目標	修正版の達成目標
大きな目標	今まで知らなかった障害当事者の姿が見られる	家族が障害当事者の新たな側面を知ることで日常生活に変化が起こる
小さな目標	家族が障害当事者の新たな側面を知ることで日常生活に変化が起こる	今まで知らなかった障害当事者の姿が見られる
	家族が障害当事者の新たな側面に気づくことで新たな関わりが生まれる	家族が障害当事者の新たな側面に気づくことで新たな関わりが生まれる
	参加者同士が余裕を持って人と人と向き合い合えるようになる	家族が、当事者以外の人たちとも新たな関係性が生まれる

#### iv) 文化施設職員

事前作成では、大きな目標として「文化施設に当たり前に障害のある人が参加する環境が生まれる」が、小さな目標として「文化施設が、障害当事者が自発的に表現したいことを行動に移せる場である」・「ワークショップに関わる組織や場が増える」・「企画を外部に知ってもらうための取り組みが増える」・「ワークショップに参加する人や関心を寄せる人が増える」が掲げられていた。そして、振り返りの中では、文言として「増える」という言葉が多用されていることに疑問の声が挙がり、このワークショップ事業のブランド化をめざす方向で、目標を修正する必要があるのではないかといった意見が出ていた。特に、この点について、ももち文化センターの職員である江上さんは「このももち文化センターという所に行けば、このような面白いワークショップをやっているというようなブランド化をまず目指し、そこにももちを目指して来てくれる人が増えると、いろんなところでこういう企画をやっている、結果的に場が増えるというようなものが理想的な流れなのではないかというようなお話になりました」と説明した。

そして、このような意見をもとに、下記のようなロジックモデルの作成を行った。

	事前作成の達成目標	修正版の達成目標
大きな目標	文化施設に当たり前に障害のある人が参加する環境が生まれる	ももち文化センターに、障害のある人が参加できる環境が生まれる
小さな目標	文化施設が障害当事者が自発的に表現	ももち文化センターが、障害当事者の

	したいことを行動に移せる場である	表現したいことを実現できる施設になる
	ワークショップに関わる組織や場が増える	ももち文化センターの社会包摂に関わる取り組みを、ブランド化する
	企画を外部に知ってもらうための取り組みが増える	ワークショップに参加する人や関心を寄せる人が増える
	ワークショップに参加する人や関心を寄せる人が増える	社会包摂事業に関わるワークショップの場が増える

#### v) まとめ

ここまで WS 検証のための振り返り会での議論から、各アクターのロジックモデルの作成を行ってきた。下記は、そのロジックモデルを整理したものである。

アーティスト	障害のある参加者	参加者の家族	文化施設職員
多様な立場の人たちによる自由な表現が生まれる	ワークショップが非日常的でサードプレイスの場として機能する	家族が障害当事者の新たな側面を知ることによって日常生活に変化が起こる	ももち文化センターに、障害のある人が参加できる環境が生まれる
ワークショップで参加者に合った声かけやプログラムが実施される	ワークショップが安心して参加できる場である	今まで知らなかった障害当事者の姿が見られる	ももち文化センターが、障害当事者の表現したいことを実現できる施設になる
即興的な表現が生まれ、みんなでもっと面白いものを探求できるようになる	新たな出会いが生まれ、思い出に残る体験ができる	家族が障害当事者の新たな側面に気づくことで新たな関わりが生まれる	ももち文化センターの社会包摂に関わる取り組みを、ブランド化する
ワークショップが、安心して表現できる場になる	参加者がワークショップを体験することで、心が変化したり自己を発見する	家族が、当事者以外の人たちとも新たな関係性が生まれる	ワークショップに参加する人や関心を寄せる人が増える

ワークショップの中で参加者の表現が尊重される	参加者がワークショップの本番を終えて、接し方や行動が変化する		社会包摂事業に関わるワークショップの場が増える
------------------------	--------------------------------	--	-------------------------

#### ロジックモデルⅡ：3月13日でのWS検証振り返りの会を経て

全体的に、事前作成のロジックモデルと大きく異なるわけではないが、言葉遣いの妥当性—例えば、「意見をもとにした表現」や「人と人として向き合える」など—に異議が唱えられたため、議論の中で出てきたより適切な言葉に変更している。また、文化施設職員のロジックモデルについては、振り返りの会での議論で「(ワークショップの場や広報等を)ただ増やせばいいのか」と疑問が投げかけられており、この点を反映させた形でロジックモデルの修正を試みている。

#### 6-2. ロジックモデルの提案：次年度ワークショップ開催に向けて

さて、このロジックモデルⅡと、先述のロジックモデルⅠとを相互参照し、次年度のロジックモデルを以下のように提案したい。なお、下線部分はロジックモデルⅡと比較した際、大きく異なっている部分になる。

	アーティスト	障害のある参加者	<u>障害当事者を支える支援者(家族・福祉施設職員等)</u>	文化施設職員
達成目標	<u>ワークショップが、アーティストと参加者の共同創作の場となり、互いに創作する主体として関わり合う</u>	参加者にとってワークショップが居場所になる	<u>支援者が障害当事者の新たな側面を知ることで、日常生活に変化が起こる</u>	<u>ももち文化センターが、障害当事者の表現したいことを実現できる施設になる</u>
↑	即興的な表現が生まれ、みんなでもっと面白いものを	参加者がワークショップを体験することで、心に変化	ワークショップをきっかけに、障害当事者を支える人	社会包摂事業に関わる企画やワークショップが増える

	探求できるようになる	したり、自己を発見したりする	たち同士の新たな関係性が生まれる	
↑	ワークショップが、安心して表現できる場になる	参加者が、他の参加者やアーティストとの関係性を深める	障害当事者の新たな側面に気づくことで、当事者との新たな関わりが生まれる	ワークショップに参加する人や、関心を寄せる人・組織が増える
↑	参加者の表現が尊重される	ワークショップの中で新たな出会いが生まれる	ワークショップの中で、今まで知らなかった障害当事者の姿を発見することができる	社会包摂に関わるももち文化センターの活動をブランド化し、外部に広める
↑ 初期	参加者に合った声かけやプログラムが実施される	ワークショップが安心して参加できる場になる	<u>ワークショップに対する理解が促され、当事者のワークショップ参加をサポートできる体制が整えられる</u>	<u>文化施設職員が、社会包摂に関わるワークショップの内容や意義について関心を持ち、理解する</u>

### ロジックモデルⅢ：次年度版の提案

まず、アーティストに関しては、「ワークショップが、アーティストと参加者の共同創作の場となり、互いに創作する主体として関わり合う」を大きな達成目標に掲げた。これは、ロジックモデルⅠとⅡ共通して「表現」に関わる文言が並んでいたことを反映させた形になっている。なお、ロジックモデルⅡでの「多様な立場の人たちによる自由な表現が生まれる」と、「即興的な表現が生まれ、みんなでもっと面白いものを探求できるようになる」は、内容が被っていると判断したため、後者の表現に統一した。

次に、障害のある参加者に関しては、「参加者にとってワークショップが居場所になる」を大きな達成目標に掲げた。これは、ロジックモデルⅠを反映させた形になっている。事前作成では、「ワークショップが非日常的でサードプレイスのな場として機能する」という文言であったが、参加者にとってワークショップの場が「日常」になりつつも、職場や家族とは異なる社会空間にもなっており、その意味で「居場所」という言葉がより適切と判断し、



文言の変更を行った。また、ロジックモデルⅡでは記載した「思い出に残る体験ができる」や「参加者がワークショップの本番を終えて、接し方や行動が変化する」は、他の文言と内容が被っていることや、その文言を使用することの適切さ、検証方法の困難さから削除・修正を行った。

次に、「障害当事者を支える支援者（家族・福祉施設職員等）」に関しては、ロジックモデルⅠとⅡでは一つのカテゴリーであった「参加者の家族」そのものを変更している。これは、障害当事者がワークショップに参加するうえでのハードルを下げるためには、家族だけでなく、福祉施設職員やワークショップの場を企画する文化施設職員など、障害当事者を支える人たちの支援や理解が必要だと考えられるため、「家族」に限定せず、「障害当事者を支える支援者（家族・福祉施設職員等）」としてカテゴリーを作成した。

最後に、文化施設職員に関しては、「ももち文化センターが、障害当事者の表現したいことを実現できる施設になる」を達成目標に掲げた。ロジックモデルⅡでは、「ももち文化センターに、障害のある人が参加できる環境が生まれる」と「ももち文化センターが、障害当事者の表現したいことを実現できる施設になる」といった2つの文言を記載したが、それぞれ内容が被っていると判断したため、ロジックモデルⅢで削除・修正を行った。また、ロジックモデルⅡでは触れられていなかった「文化施設職員が、社会包摂に関わるワークショップの内容や意義について関心を持ち、理解する」という文言を挿入している。これは、ロジックモデルⅠを反映させた形になっている。

### 6-3. 次年度の検証に向けて

今年度は達成目標の精査を行なったが、次年度以降も事業が何らかの形で継続することを見越し、今後はこの目標がいかに達成されているかの評価指標の検討と、それらを踏まえた実際の評価を行うことを目指す。

なお、今年度は予備的に参加者・家族・スタッフなどにアンケートを取り、ワークショップ直後に感想を伺う形式をとった。その結果については資料に掲載する。次年度以降より具体的に評価指標の検討を行う際の予備資料として用いる予定である。

資料

## 1. ワークショップ記録

次ページ以降に掲載する。

もち文化センター 表現の面白さを体感するワークショップ 進行記録  
第1回

日程	2019/10/18
時間	19:02~20:18
会場	もち文化センター小ホール

座組み

メイン進行	五味伸之
アシスタント	古賀今日子、野中香織
アシスタント(記録)	田村さえ
もち文化センター	糸山裕子
検証	長津結一郎、中山博晶
インターン	大和真彩子

参加者	8名
	ちあき、ちひろ、はるな、ゆり、こうすけ、かおり、かずき、たいせい
見学者	3名

Time	全体の流れ	記録
18:30	たいせい来る	たいせいが落ち着いた様子で、部屋を歩き回っている
18:35	そら来る	
18:41		こがきよが、たいせいに「(この半年で)変わったことあった?」と声をかける。
18:48		のぶおが、小型スピーカーに音楽プレーヤーを接続し、音楽をかけ始める。(※なお、WS中は小型スピーカーから音楽が流れている) こがきよ「たいせいの身体がやわらかい!」
18:49	ちあき、ちひろ来る	ちあき、ちひろが入ってくると、こがきよが「久しぶりー」と声をかける。ちあきは「久しぶりです」と応答している。ちあき・ちひろはお揃いのネイルの話などしている。メールが来ないかな、と待ってた話。
18:54	こうすけ来る	
18:57	ゆり来る	ちひろがのぶおにサンテグジュペリの話などを話しかけている。ちひろが「宮沢賢治が自己犠牲的だと思ったけど、けっこう自分の欲求に素直で」と言うと、のぶおは「なんか、銀河鉄道がテレビで・・・」と話している。
18:59	かおり来る	こがきよ、かおりに近づいてあいさつ。
19:01		ゆりちゃんが、ちあきの隣に座り、「久しぶり」とあいさつをする。
19:02	糸山さんあいさつ	趣旨説明。承諾書、アンケートの話。
19:03	のぶおあいさつ	のぶお「こんばんは」「演劇をのぶおはしている」「みんなで大きな株**星の王子様つくった**」
19:04		のぶおが、こうすけに「温泉行きたいって言ったの覚えてますか」と尋ねると、こうすけは「はい」と答える。
19:05	自己紹介	のぶお「ワクワクして、来ました」、ちひろ「(WSが今日であることを)忘れてて、お昼にカレンダー見て、あー!って」、ちあき「(久しぶりにWSに来て)ストレッチしなくなって」、ゆり「今日来て、緊張してて」、たいせい「久しぶり」、こうすけ「よろしくお願いします。もりたこうすけです。よろしくお願いします。」、そら「毎回は来れない、楽しく」、こがきよ「楽しみにしてた」、かおり「かおりです。前、見学していて楽しそうだった」
19:10	かずき登場	かずきに対して、「久しぶりー」と声がかわる のぶお「半年ぶり?」かずき「何年ぶりかですね」で一同ウケる
19:11	呼吸を合わせる	のぶおと同じ動きを参加者が真似る。同じポーズを取るワーク。
19:12		のぶおがあぐらをかき、左右に揺れ始める。時々寝転がり、深呼吸をする。細かく呼吸を分けると、こうすけは、のぶおのように細かく吸ったり、吐いたりせず、じつとのぶおを見つめている。のぶおが「一杯吸って、吐いて」とやると、こうすけは息を吸うときに、手を上に挙げる。こうすけの様子を見ていたのぶおは「こうすけのこれ(手を挙げるしぐさ)面白いので、みんなで」と言って、他の人たちも手を挙げながら吸ったり吐いたりを繰り返す。ちあき、指示の前に一足早く立ち上がる
19:15	はるな来る	そらが、はるなに「こんにちはー」と言いながら、近寄る。「今息を吸ったりはいたりしてました」

19:16	大きなゴム導入	のぶお、「去年最初にやろうとしていたことです、体をつかってうごく」と話す。そらが白の大きな布ゴムを持ってくると、かずきが「何だろう」と反応する。かずきの笑顔が増す。隣のこうすけも同じく。そら、ゴムを他の参加者に渡しながら「のびることで、何でもできると思います」と言っている。ゴムをゆりが持つと、ゴムを参加者たちで伸ばし始める。そらは「足を使ってもいい」と言うと、かずきが笑いながら「足も」と反応している様子である。ちあきは、ゴムをギター？に見立てて演奏するよう？に、ゴムを手ではじいている。ゆりは、その様子を笑いながら見つめる。首はしないでくださいとそらの注意、スタート前から自然に動き始める
19:19	音楽スタート	映画「007」のBGMが流れ、参加者たちが思い思いにゴムを動かす。かおりが、ゴムから手が離れ、ゴムを持っている集団から少し離れる。(その様子に気づいたのか)そらが、かおりをゴムの輪の中に入れる。たいせい、輪の周りを一人で歩き回る。のぶお、「手とかいっぱい使って」と声かけ。そら「最後解けないように入り組んでみよう」ちひろと自分で巻き込まれに行く。たいせい、終了直前に輪に飛び込んだ。そら「去年、手をつないでやったの覚えてる？」
19:22	大きなゴム終了	コガキョ「たいせいがスパイみたいだった」のぶお「ちひろ、指がかわいい」
19:24	輪郭のスケッチ	2人組になるように指示される。のぶおは「ゴムは、科学技術で作られたもの。科学技術でつくっていない石っていいよねと思っている」と言いながら、WSの導入を始める。のぶお「画家は石のかたまりと思って、かたまりを見ている。どこからみたらいいかを考える。みんなも見てみて？」みんな立ち上がる。かずき、皆が立ち上がる中座り続ける。
19:27	サンプル	のぶおとかがきよが、参加者の前で試しにやってみる。かがきよが地面に寝そべる。その様子を見ながら、のぶお「相手の輪郭線を紙に書いてみます」と言い、紙にかがきよの様子を書いていく。「こっちからみたかがきよ石」と、のぶおが書き終えると、他の参加者に、描いた絵を見せる。「この角度から見たかがきよは、絵にするとこんな感じ」といった旨のことを他の参加者に伝える。のぶおの絵を見てもらうために、のぶおの背後に他の参加者を誘導するが、かずきは立ち上がらない。のぶおが「かずき、見てみて」と言って、のぶおの背後に来るように促す。かずきは立ち上がり、のぶおの背後から、絵とかがきよの様子を見る。「2人組で、神をわたします」
19:30	ワークスタート	ペアは、こうすけ・ちひろ、はるな・ゆり、たいせい・かずき、ちあき・そら、かおり・かがきよ。 ちあきとそらのペアは、最初にちあきが、そらを見て、絵を描く。ちあきは、「えっ、難しい」と言いながら、手で視界を狭め、そらを観察する。ペンを迷うゆり。かずきニコニコして寝そべる。ちひろ、こうすけにたくさん話しかける。たいせいに「動いちゃダメだよー！」とかずき。かおり、描きながら「難しい」と声を漏らす。はるなさん「芸術的になってる！」ゆり、はるかと目を合わせ笑いながら描く。 ちあき、そらを書き終える。ちあきは「できましたー」と言うと、そらは「はい」と反応する。役割を交代し、今度はちあきがポーズを作る。ちあきは胡坐をかいて座るが、形をすぐには作らない。そらは「きつくしてもいいよー。筋トレになるから」とちあきに声をかける。ちあきはポーズを決め、静止する。そらが「それ？」と尋ねると、ちあきはうなずいた。 はるなさん「できました」ふふふふと笑う
19:33	色ぬりの指示	のぶお「できた人は輪郭に色を塗って、その人のムードを表す。好きなもので書いていく」という。はるな・ゆりが時間がかかっているがそれ以外は絵を描き終え、色を塗り始める。はるなとゆりにはのぶおが介入し、3分ほど遅れて塗り絵に合流。 先にそらが塗はじめ、続いてちあきも色を決め、塗り始める。たいせい、みんなを見つめる。色を決めてから色鉛筆を取りに行ってる。他の参加者同士で、円になり、色を塗っている。一言も出ない時間が数秒続くこともある。
19:40	見せ合う指示	のぶおから「完全に塗り終わったらとなりの人と見せ合いっ子して」の指示。ちあき、そらにすぐに見せる。かずきとちひろは隣り合いふたりとも終わっているが見せ合いはしない。そらが絵をちあきに見せる。ちあきは笑いながら「すごーい」と言う。こうすけが、のぶおに「(クレヨン？)皮向いていい？」と尋ねると、のぶおは「いいよー」と返事をする。そのやり取りを聞いた他の参加者が「皮」に反応する。(皮膚の皮をむくことと誤解？少し笑いが起きていたように思われる)ゆり、変わらず夢中で色ぬり

19:43	切る指示	<p>そらが、奥の振り返りなどに使用する部屋からハサミを複数持ってくる。その様子にこがきよは「ありがとう」と言っている。はさみを受け取った参加者は、はさみで切り始める。こがきよとそらの紙切り屋さん話にちあきも加わる。のぶお「カッティングして、その人の人形を作って」と指示。</p> <p>こうすけが、絵を塗り終えた様子。青一色になっている。歓声。かずきが「できた」と言うと、周りから「すごーい」という声。かずき「馬みたいになった！」また、のぶおは「鳥みたい」とコメントしている。はるなにのぶお「すごきれいですねー」とコメント。ゆりは、3色を同時で塗っており、その様子にこがきよとそらが「すごーい」と声をかけている。ちあきは難しい切り口に挑戦。こうすけはふたたび丁寧に切る。</p>	
19:49		<p>のぶおが、作った人形が何に見えるか考えるよう促す。「どういう向きにしたら何に見えるか？」 ゆりは絵を塗り終える。その様子にのぶおが「最後の大事なだ、これ(塗った絵)を切るんだ」と言う。</p>	
19:50	人形遊び導入	2グループに分かれる。そして、お話を考えるように参加者に促す。のぶお「どういう向きにしたら何に見えるか」	
		<p>のぶおグループ(そら・ちあき・はるな・ゆり)</p>	<p>こがきよグループ(こうすけ・ちひろ・たいせい・かずき・かおり)</p>
19:51		<p>ゆり、はるな、のぶお、ちあき、そらがいる。1人ずつどんなポーズで、どんなものを書いたか共有する。そらが誰かがつくった人形を見ながら、子どもを抱いているみたいと言う。ちあき「飛び蹴りすると思う」</p>	<p>こがきよチームはこがきよとちひろでアイデアを出し合う。こがきよ「これが湖で」ちひろ「私も思った」こがきよ「ビート板に乗って亀が・・・エビフライが泳いでいる、食べ物」亀がサボテン食べて、馬がきて・・・」かおりも前のめりで加わっている。目を合わせてこがきよと笑っている。こがきよの「サボテン食べてちくつとしたら、この水で冷してあげよう！」にかずきが人形も使って派手に反応する。コガキョ「エビフライ食べてください！」たいせい、チクチクに合わせて声が出た。</p>
19:57	場面づくり	<p>のぶおが全体に向かって「あおと5分で発表」と言う。こがきよチームの様子を見たのぶおは「それ、からだでもできる」と尋ねる。からだを使って、発表をすることに。のぶおは誰かの人形を見ながら「たばこ吸ってるみたい」と言う。ちあきも何かを発言し、それに対してそらが「あー、未然に防いでいるんだ」と応答する。ゆり「からまるようになってた」そら「惑星があつまってる」ちあき「もうサワムラーにしか見えない！」そら「細胞！」立ち上がり、動きながら作品をつくっていく。ちあきがのぶおを「しゃーっ」と言いながら、蹴っている。ちあきが「ていやー！」と風邪菌ののぶおにキック。風邪菌を撃退する話ができつつある。のぶおは「(俺が)風邪菌になるじゃん」と言っている</p>	<p>のぶおは「それ、からだでもできる」と尋ねられこがきよが「なるほど、せっかくだからやってみるか」、と反応。さぼてん、神様、馬の出でくる話。</p> <p>かずきの馬がパカパカいってる。決めポーズはたいせいが他の二人(ちひろ、こがきよ)と違っている。こがきよがまとめに入り、たいせいに指示。たいせいがサボテンになりきっている。</p>
20:05	発表(のぶおチーム)	はるなさん、ずっと笑っている？	
20:06		赤ちゃんを守りたかったという説明。感想が出ず。	

20:08	発表(こがきよチーム)		かずき、笑いながら、手を上下に動かす。こうすけは無言で立ち上がる。途中、こがきよが、こうすけに小声で「かなえてやろう」と言っている。こうすけはかずきの近くに行くが、元の位置に戻る。再度、こがきよがこうすけに小声で「かなえてやろう」と言う。すると、こうすけは「かなえてやろう」と言う。
20:09			ちひろ「みんながアドリブしていた」ちあき「私ビート板だったの」というと「えー」という声があがる。
20:12	おわりのあいさつ	のぶお「お疲れ様でしたー。今日は石でお話をつくりました、何をやるのかはこれからきめます。話し合っ出てきたものが作品づくりをしたい。ゆっくり、おしゃべりしながら」	
20:13	ひとり一言	ひとり一言感想を共有する。ちあき「半年ぶり、思った以上にむちゃ楽しかった」そら「同じことやったはずなのに全然ちがった」コガキョ「いろんな人がいろんなことを言って最後には見え方によって話が変わっていった」たいせい「舞台俳優」かずき「みんなでやれておもしろかった」こうすけ「おもしろかったです」ちひろ「難しいことを考えることが普段は多い。直感のまま自由にやれて楽で楽しかった」かおり「(笑って)楽しかった」はるな「人に石を見立てて、形に見立てて、面白かった」	
20:17	次回アナウンス	アンケートの説明が糸山さんから行われる	
20:18	ひとり一言感想を共有する。	「お疲れ様でした」	

ももち文化センター 表現の面白さを体感するワークショップ 進行記録  
第2回

日程	2019/11/8
時間	19:00～20:12
会場	ももち文化センター小ホール

座組み

メイン進行	五味伸之
アシスタント	古賀今日子
アシスタント(記録)	田村さえ
ももち文化センター	糸山裕子、仁田野麻美
検証	長津結一郎、中山博晶
インターン	大和真彩子

参加者	7名
	ちあき、はるな、ゆり、こうすけ、かおり、かずき、たいせい
見学者	3名

Time	全体の流れ	記録
18:31	こうすけ+母来る	
18:38	かおり+母来る	こがきよがすぐ話しかけに行く。かおりが、こがきよにプレゼントをする。こうすけが「それ何ですか」と尋ねると、こがきよは「もらった」「クッピーラムネ」と答える。こうすけは「ラムネ」と返す。こうすけとかおり、のんびりしている。こがきよ、かおりに今日のプログラムについて紹介。
18:45	ちあきくる	こがきよとかおりが話をしていると、ちあきが入ってくる。ピンクのメッシュを入れているちあきの髪を見たこがきよは「かわいいー」と言っている。それに対してちあきは「いいでしょ」と返す。誰かから「何かあったの」と聞かれると、ちあきは「特に何も無い」と返す。こがきよは「パフォーマンス(する人みたい)」といった旨のことを話す。
18:48		のぶおと、見学席(入り口から見て右の壁沿いの席)に座っていたこうすけの母が会話を始める。のぶおが挨拶をすると、こうすけの母が「そのTシャツは」と言って、のぶおのシャツを指さす。
18:49		かおりとちあきが2人で話し始める。ちあき「**ちひろは少しお腹が痛いとか言って」と、かおりに言っている。
18:51	かずき+母、かおり来る	かずき、母に「ここで脱ぐの」といわれて「イヤ」といっている。かおり、おそろおそろ入ってくる。
18:52	たいせい来る	のぶおが、見学席に座っていた3人の保護者に、「(見てると)一緒にやるのと違いますよ」と話しかけている。女子(かおり・はるな・ちあき)がずっとおしゃべりしている。
18:56		のぶおが無言でからだを動かしている(ヨガっぽい)。会場が静かになる(誰も言葉を発さない状態)。
18:59	ゆり+母来る	
19:00	あいさつ	のぶお「おはようございます。」「演劇は『おはようございます』ってあいさつする」「これ前、言ったよね」といったことを参加者に話す。ゆりが「うん」という。すると、こがきよが博多座の公演で小松さんからあいさつで怒られたこと、パンツ一丁のエピソードを、のぶおが話始める。かずき笑う。また、この話は10月23日西日本新聞に掲載されたとのこと。
19:03	トラトラジャンケン①の紹介	のぶお「みなさんトラトラってご存知？」と参加者に尋ねる。お座敷遊びとのこと。昔のじゃんけん遊びであることが紹介される。演劇は関係性、強い人と弱い人というような対比、という説明。トラに勝てるのはヤリ、ヤリに勝てるのはおばあちゃん。
19:04		音楽を流して説明をすると、こーすけが親指を立てグーとやる
19:05		こうすけが呼ばれ、こがきよとこうすけで参加者を前にデモンストレーションを行う。こうすけ、こがきよのマネをする。
19:06	トラトラジャンケン①	2人組をつくり、トラトラじゃんけんを行う。「二人組をつくろう」の呼びかけにこーすけはあくび、かずきとたいせいはよそ見。ちあき・こうすけ、かずき・ゆり、かおり・はるな、こがきよ・たいせい、というチームになってやってみる。



19:08	トトラジャンケン②	たいせいはルールをわかった様子でにやにやしている。こがきよ「私負けたー」。かおり、はる、にこにこ。ゆり・かずきもにこにこ。ちあき、一回転する。
19:09	ルールのアップデート	のぶおが「とらより強いものは？」と投げかける。かおり「くま」。熊より強いのは？ちあき「鉄砲」。それより強いのは？ときくとたいせいが「音」とつぶやく。こがきよがそれに反応し、「おもしろいね！」と言う。「くま」・「ピストル」・「しーっ」の3つの動作で、先のじゃんけんを行う。ペア交代。ちあき・ゆり、たいせい・かおり、はるな・かずき、たいせい・のぶお。
19:11	くまくまジャンケン	こうすけ、のぶおを「くま」で睨みつけ、キラーン！と。きまつてる。こがきよ「たいせいがしーってして、静かに逃げ出した」かおり、ゆり、かずきはあまり動けていない。
19:14	歩くワーク	のぶお「演劇って出会いが大事。今日は誰かと誰かが出会う。やってみよう」といった話をした後、会場の隅々を参加者で歩くワークを行うように促す。
19:15		ゆり、ちあきについていく。たいせいは、かかとをつげずに歩いている。すれ違わずま目線をあわせる→おじぎ。みんなお辞儀は得意。握手したくてみんな真ん中に集まる。こーすけ、積極的に空いている場所に進んでいく。ゆりちゃんは、ちあきの後ろ1メートルぐらい距離を開けてピタッとついていっている。ちあきは一瞬ゆりの顔を見たりしている。のぶお「イカダだと沈んでしまう」
19:17		のぶお「空いている場所があったら指差して」という。のぶお「全体を埋めるのは難しい。人と人の目線をあわせよう」という。他の参加者と視線を合わせるワークを始める。ゆりちゃんは、ちあきから離れ、他の参加者とも視線を合わせ始める。みんな場を埋めるため、離れざま握手する。こーすけ、のぶおに握手でフェイントをかける。かずきの笑顔も増えてきた。たいせいは猫背になりながら、歩き回る。ゆり、片足をあげてバランスポーズ。のぶお「握手してるよりしていない方が出会ってる感じ。結果握れなくても。」
19:21	体に集中した動き	のぶお、「体のどこか一部分に集中して、からだを動かす」ワークの指示。ちあき、ひとりで色んなパターンを試す
19:22	(胸)	
19:23	(お尻)	たいせいは腰を少し曲げ、前に進む。他の参加者(こうすけ除く)は、お尻に集中すると、後進するが、たいせいは前進していた。
19:24	(耳)	たいせいは耳に集中すると、顔をしかめて、両耳を両手でふさぐしぐさをする。かおり、身体をかたむけている。ゆりだけ耳そのものではなく下半身すり足で集中を表現している
19:25	(自由)	のぶお「何か自分で1箇所決めて、集中して歩く」と指示。たいせいは、手を肩に触れるしぐさをする。ちあきは腕をよく動かしている。集中して動いている。
19:26	発表①	チーム分け。まずかおり・こがきよ・はる・かずき。のぶおが「どうぞ」というと、はるとこがきよが同じタイミングで動き始める。かずきとかおりはその様子を見て、動き始める。
19:27		のぶお「ゆりちゃんどうだった」と聞くと、ゆり「空見てる感じ。かおりとかずき似てる」ちあき「意外とわかんない、こがきよがこっちみてた」。のぶお「こうすけ気になったのがある？」と尋ねると、こうすけは「こがきよ」と答える。たいせい「夜、夜景、さがしものをしてる感じ」とコメント。
19:28	親子連れが会場に入り、見学者席に座る	
19:29	発表②	のぶお・たいせい・こうすけ・ゆり・ちあき。たいせいは、まばたきをしながら、肩を触る仕草。こうすけは両手をうご寿司でいたり、動きを変化させながら歩いている。のぶおは舌を出している。
19:30		こがきよ「止めるの忘れるぐらい面白かった」と答えている。こがきよ「ちがうばしよ、ゆりちゃんが頭の中に連れられて歩いてるように見えた、考えてることも体の一部なのかな」と。のぶおがゆりちゃんに「考え事しよったと？」と聞くと、ゆりちゃんは「しとった」と答える。かずき「のぶおかな、面白かった」。かおり「ちあきがどんどんって」ちあき「えっわかんないです」はる「たいせいの目がざらざらしてた」こがきよ「こうすけとたいせいが寒いとこにいるみたいだった」こうすけ、言葉で言わずに歯を見せる。のぶおが「あっ、歯か」というと、こうすけうなずく(?)

19:34	すれ違いワークの説明	のぶおの指示。「今回のテーマは出会い。こっちとあっちで、真ん中で過ごす時間をつくる」と。言葉を使わず、対面から歩いてくる人と出会うワーク。握手やハグなど、出会いでは様々なことが起きる、と説明。	
19:36	サンプル(のぶお、かずき)		
19:38	すれ違いスタート	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. のぶおとちあき。ぎこちなく始まる。2人は握手をして別れる。</li> <li>2. たいせいとかおり。かおり、照れて止まる。2人の様子に、こがきよは「駆け引き」、のぶおは「面白かったです」とコメントしている。</li> <li>3. ゆりとはるのペア。2人とも笑いながら、手を振りあう、握手、くるくる回る、別れ際に手を振る。</li> <li>4. こーすけとちあき、ちあきは携帯を持つふり。歩きスマホ。</li> <li>5. たいせいとこがきよのペア。たいせい名刺を渡す仕草？のぶおが「会社員の名刺交換みたい」とコメントする。こがきよ「最初武士と思った」たいせい「ひとつの名刺をまちがえて出すところだった」</li> <li>6. かずきとゆり、はずかしそう。ゆり「考え事してた」のぶお「女スパイみたいだった」</li> </ol>	
19:45	プロポーズの説明	のぶお「真ん中で出会う、いろいろな人がいた。人と人が出会う、劇的な出会いってなんだろう？」と聞くと、はるは「最大級・・・ひとめぼれ」という。する人とされる人に分かれる説明。「プロポーズといえば？」の問いかけにちあき、指輪を差し出すポーズを勢いよく示す。こがきよ「バラ」のぶお「サプライズ」	
19:46	サンプル(こがきよ、のぶお)	こがきよとのぶお。断り方もいろいろ。	
19:48	プロポーズの相談	男子が3人(こうすけ、のぶお、かずき)。こうすけが一番に行きことが決まり、かずきとおのぶおがじゃんけん。2番目にかずきが行くことが決まった。のぶお「好きだって気持ちを伝えて！」。すると、こうすけが「プロポーズの仕方、教えてください」と、のぶおに言う。	女子たち、どんなプロポーズがいいか会議。ゆり、理想のプロポーズを語る。ゆり「かつこういのがいい」はる「イメージがある、理想があるんだろうね」ゆり「いこうかなー、うーん、いきます！」
19:50	プロポーズスタート	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こうすけーゆり。こうすけは座り込み、左手を大きく上げる。ゆりちゃんは、ごめんなさいと言って逃げるように走るが、いったん止まって、立っている。しばらく残って「あれ？」(*このときのゆりちゃんは、こうすけが来るのを待っているように見える)。ゆりちゃんが振り返ると、こうすけは既に座っていた。</li> <li>2. 正座のぶおー正座はる。はるは考える仕草ののち、おじぎ。なんども頭を下げる。のぶお「考えている姿勢で絶対断られるなと思った」こがきよ「大人の女性だね」</li> <li>3. かずきとちあき。土下座。ちあき、笑顔で、かずきの肩をたたき、腕で丸をつくる。二人は帰りに軽いスキップをする。こがきよ「OKもらったらみんな嬉しくなるね」ちあき「雰囲気は全力感あった」</li> <li>4? こうすけ、はる。こうすけがもう立とうと待ち構えている。はるが指輪を後ろに持つ。こうすけが先手をうつ。ちあき、ドキドキ、かおり「パカ！」かおり「なんじゃこりやー！！」</li> <li>5. ゆりとこがきよ。土下座、にじりよるおじぎ。ゆり「はずかしい〜」</li> <li>6. はるとたいせい。出す側じゃないのに先に出しちゃうたいせー。はるがたいせーの手に指輪をしてあげる。</li> <li>7. かおりとゆり。のぶお「ひとめぼれのままプロポーズ？」</li> </ol>	
19:57		のぶお「ただ真ん中で出会うだけなのね」	
19:58		一通り終わり、のぶおが「ベストカップル賞」というと、こがきよは「最初のかずき」を推薦する。	
20:00	家族ですれちがう相談	いまいるグループで家族になってすれ違い相談をする。こがきよ・たいせい・はる・かおりが相談。こがきよが「子どもが1人」「じゃあ私犬やる。子どもね」とはるに言っている。こがきよ「旦那の取り合い？」こがきよ「トイプー飼ってるっておしゃれ」たいせい「こどもとか、ペット」	のぶお・ゆり・こうすけ・ちあき・かずきで相談。ゆりが「お姉ちゃんがやりたい」こうすけ「・・・おかあさん」かずき「・・・わかんない」
20:03	家族ですれちがう	2つの家族ですれ違い、真ん中に集まる。	

20:05	円になり振り返り	のぶお「今回は出会うこと、集中してやってみました」「これも演劇。こんな風にプロポーズをするっていう即興劇」
20:06		1人ずつ感想を述べる。こがき「ドキドキした、失敗してもあっ！ってなったり、成功したらうれしくて心が動くえんげきだった」はる「いろんなみでドキドキかおり「どきどき」こうすけ「男らしかったです。」ゆり「こがきさんすごい演技で。ドキドキして。」ちあき「体で表現するのむずかしい」はる「色々な意味でドキドキしました」かおり「ジェスチャーがどきどきした」みんな「いつもより(円が)近いね」かずき、声を出して笑う。ちあき「言葉使わないのって難しいなって悩んだ、伝わったと思う」
20:11	次回予告	のぶお「即興またやれたら面白いね」
20:12	終了、アンケート	全員「ありがとうございました」

ももち文化センター 表現の面白さを体感するワークショップ 進行記録  
第3回

日程	2019/11/22
時間	19:00～20:08
会場	ももち文化センター小ホール

座組み

メイン進行	五味伸之
アシスタント	野中香織(そら)
アシスタント(記録)	田村さえ
ももち文化センター	糸山裕子、仁田野麻美
検証	長津結一郎
インターン	大和真彩子

参加者	6名
	ちあき、ゆり、こうすけ、かおり、かずき、たいせい
見学者	3名

Time	全体の流れ	記録
18:30	かおり来る	
18:46	ちあき来る	そら、ちあき、かおりで、ちあきが持ってきたと思われる黄、ピンク、赤の布のようなものを投げたりして、はしゃいで遊んでいる。
18:48	たいせい来る	
18:49	ゆり+母来る	ゆり、遊びに加わる。そらが抜ける。
18:50		たいせいはうろろうしたり、正座から倒れる姿勢をしたりしている。
		そらはゆりの母親と何かやりとりをしている。
18:51		かおり・ゆり・ちあきが薄いレース地の布で遊んでいる。沢山笑い声が上がる
18:55		かずき、広くで驚いている「びっくりしたー」、かずきとのぶおで「広いね今日は」といっている。
18:56	かずき来る+母来る	
18:57	こうすけ+母来る	仁田野さんがのぶおに全員そろいましたという。
18:59		「今日もよろしく。3回目。いつもと違って広い。明日はももちのオープンデイ」
19:00	のぶおあいさつ、前回の振り返り	「前回やったこと覚えてる？そらにおしえてみよう」という。
19:01		かおりが「おはようございますっていった」という。のぶお、「すごい。おぼえてる、めっちゃおぼえてるやん」と反応。
19:02		たいせい？が「けっこん」といい、かおりが「プロポーズ」という。そらが興奮している。
19:03		前回のこうすけのしぐさをのぶおが再現して「おぼえてる？」という。こうすけ「はい」
19:04		のぶお「その場かぎりで出会い、別れ、みんなと一緒に今日もやっていきたい」
19:05		「からだをゆったりさせたいと思います、自分の体を赤ん坊に、ほにゃほにゃのぼよぼよに」
19:06		のぶおが、赤ちゃんを抱くポーズってどんなポーズと投げかける。
19:07	赤ん坊を抱くポーズから手を抱く	のぶお「マザーズは？」とギャラリーのお母さんたちに振る。母親が抱く真似をする。のぶお、いまから自分のからだを赤ん坊みたいに抱く、という。
19:08		左腕をつかみ、反対の手であやし、支える側に手をあずける。かずき、こうすけがちょっとついていけない雰囲気。かずき、赤ん坊を抱くポーズをするが手首が折れてる。指摘されて肘をがくがくしてみせる
19:09		左腕から左ひじ、手首、指先、と続く。右側もやる。のぶおが赤ちゃん言葉。母親たちもやっている。
19:10		首とんとんで、たいせいだけ立ち渋る
19:11		右腕を肩から支え「次は首が赤ん坊になります」といい、首をかしげるようにする。ゲップが出た人がいて「いいよーゲップが出ても」とフォロー。首とんとんで、たいせいだけ立ち渋る
19:12	膝立ちになる	再び座り、「足がまだですね。左足は赤ん坊だと思込むバブ」という。そらが「内臓につながってる」という。

19:15		のぶお、「直接さわってあげられない場所はどこでしょうか」と問いかけ、カウントダウンタイマーのように刻む。背中です。2人1組みになって、と指示。そら・こうすけ、かずき・たいせい。のぶお・ちあき、かおり・ゆり。ひとりが仰向けに寝っ転がり、もうひとりがその背中に下から手を入れてあやす。
19:16	2人1組になって背中を触ってあげる	
19:17		交代。
19:18		かおりとゆり。ゆりの動きに合わせてかおりが調整してあげ、終わった後は肩を叩いて声を掛ける
19:19		のぶお、野口体操の説明。大きな水の袋。
19:20		のぶお、「去年やったけど」と、手のひらと手のひらをあわせるワークをちあきとのぶおでサンプルを見せながら説明。
19:21	手のひらと手のひらを合わせるワークサンプル	
19:22	みんなでワーク	ゆり・かおり＝ゆりが攻めてくるくる回っている。こうすけはそらを説き伏せているような？たいせいとかずきはにやにやししながらフォークダンスのようにになっている。こうすけが不意打ち。こーすけとソラ。こーすけがねじる動きでソラを翻弄する
19:23		交代。のぶおが早く、そらのチームとコンタクトをとりはじめる。たいせいがさっきよりもチャレンジな動きで、まわりを強く気にしている様子。しだいに2組ずつでからんでいこうという流れが生まれ、なぜかこうすけが満面の笑み。そこにのぶおとちあきがかかわっていく。くぐりくぐりあう流れができる。かおりとゆりはくぐりあいつこ。
19:25		交代。列車みたいだったね、と。もう一回、リードなしで、2人で呼吸をあわせて、と指示。
19:26		さっきよりスピードがゆっくりで、そらがかずきに仕掛けているときにかずきが嬉しそう。
19:28		次はくっつけたところが離れないように、手とてじゃなくてからだの一部でもいい、と。そら「まねするというより一緒に動く」のぶお「おっけー？」「同じ人とやる？どうする？」となんども確認している。
19:30	体の一部をくっつけて2人1組で動く	こうすけの背中にそら、たいせいとかずきは腕、ゆりちゃんは変わらず、のぶおとちあきは腕とひじ、そらとこうすけが母親にうけている。
19:31	全体を2グループに分けて観賞①	半分ずつ見る。そらとこうすけはひじをつける。かずきとたいせいはさっきのこうすけとそらの真似をしている。ぐるぐると歩いている。
19:32		のぶお「どうだった？」→かおりが間髪いれず拍手。ちあき「関係性が見えた。主従関係」
19:34	全体を2グループに分けて観賞②	のぶおはちあきの肩。かおりとゆりは腕で前傾姿勢、クロスしようとして意識しあっている。ちあきとのぶおが作品という感じがある。ゆり、途中で後ろ向きに歩くなど。
19:37		そら「ちあきとのぶお、最初と最後で別人に見えた。最初は守護霊だったのがストーカーになって、病人？」かおりとゆりが受けている。こうすけにどうだった？とたずねると「ありません」と。
19:39	たくさんの人と出会うワーク	のぶお、「ぐにやぐにやのやつをたくさんの人と」という。指示より前にたいせいとかずきが動き始める
19:40		かずきとたいせいのコンビに、こーすけが上手く割って入り組み合わせを替える。たいせいがなぜか目をつぶっている。かおりとちあきがおそるおそる。
19:42		ゆり、笑いすぎて立てない
19:43		のぶお「前回の時もこんな感じでしたね」→たいせい「はい」と小声で返事
19:45	別れのワーク説明、順番きめ	説明中、みんなの目線がのぶおに向いている。のぶお「部屋の角に分かれる。結婚の時と同じ。出会いがあれば・・・」というちあきが「別れがある」という。のぶお「今日は別れに注目。1人が待っている、どう待っていてもいい。反対側から来たひとが体をどこかくっつける。くっつけて、どこかのタイミングで抜ける。」
19:46		順番を決める。
19:48	別れのワーク	こーすけ小声で「何だこれは！何だこれは！」って言っている
19:49	こうすけ→かずき	腕と腕をくっつけてダイナミックに動いている。かずきが抜ける。

19:51	かずき→のぶお	あぐらで座るかずき。のぶおが頭をくっつけるとかずきは地味～～に頭を動かす。笑いが起きる。だんだん低くなりかずきが床に頭をつける。のぶおが手を振る。のぶおは離れようとしているがなかなか離れてくれない。
19:53	のぶお→ちあき	寝ているのを引き起こす。
19:55	ちあき→かおり	しゃがんでいるものを、腕をとって回ったりする。
19:56	かおり→たいせい	絶妙な間合い。
19:58	たいせい→ゆり	ゆりとたいせい。くるくるまわり別れる。離れた後ゆりはさらに回転し余韻を残しながら倒れる
19:59	ゆり→そら	足をくっつけている。
20:00	拍手、振り返り	拍手。全体で円になる。みんながのぶおの方を見て話を聞いている。うなずきも増えている。のぶお「出会いと別れがテーマにしてみた。別れる瞬間、もっと一緒にいたいと思うね」 たいせい「電話」 ちあき「やることがばらばらで面白い。足の裏くっつけるとは」 そら「ゆりが片手でつないでいたのも面白い」かずき「面白かった」たいせい「面白かった」かおり「個性があっっておもしろい」ゆり「・・・」のぶお「ゆりはころころまわってよかった」こうすけ「たのしかったです」
		そら「ぱっと別れる人はあまりいない。自然と離れちゃう瞬間がある。見つける。長く感じた」 のぶお「発表があるので、つぎにやりたいことがある人は考えてきてほしい。ちあきの布もよかった。直接使わなかったけど影響力がある」
20:08	終了、次回予告	おつかれさまでしたー

ももち文化センター 表現の面白さを体感するワークショップ 進行記録  
第4回

日程	2019/12/13
時間	19:00～20:00
会場	ももち文化センター小ホール

座組み

メイン進行	五味伸之(のぶお)
アシスタント	古賀今日子(こがきよ)
アシスタント(記録)	田村さえ
ももち文化センター	?
検証	
インターン	大和真彩子

参加者	7名
	ちあき、はるな、こうすけ、かおり、かずき、たいせい、ゆり(遅刻)
見学者	2名

Time	全体の流れ	記録
18:30	はる来る	
18:31		こがきよ「一枚ずつ布を渡すんだって」
18:45	かおり来る	
18:46		布で遊ぶ。ピクニック、避難所、 てるてるぼうず、レジャーシートみたいなど
18:47		ゆり、かおり、こがきよの3人で白い布をてるてる坊主に見たてて遊ぶ
18:50	こうすけ来る	
	ちあき来る	中央で女子組はおしゃべりにふける
18:55	たいせい来る	ちあきが足で白い布をぐるぐると巻く→かおりが上手に巻いてバラの形にする→ みんなでバラの形を作る流れが生まれる
18:56		こがきよ、コックさん
18:57		かおり、白バラをつくる
18:58		のぶお「すごい！プロポーズじゃん！」
18:59	かずき来る	バラをみんなで回して渡す遊びが始まる
19:00		(かずきが布の塊を抱く姿を見て)こがきよ「赤ちゃんみたいだね」
19:01		肉まん・ロールキャベツ
19:05	のぶおあいさつ	小さな声で挨拶。きょうは布で遊ぶ時間を作ろうと思います。と。のぶお「こうすけ のプロポーズよかったね。覚えてる？」→こうすけ、すっと立ち上がり当時のポーズを再現する
19:12	テーマは出会いと別れ	のぶお「こがきよは今日はお友だちのお葬式だったんだよね」→かずき、正座を して手を合わせ静かに祈る
19:13		相手とくっついて、別れる時に布を託す。
19:15	やってみよう	かずきが真ん中で座っている。のぶおは床屋？
19:17	白い布を相手に託す	たいせい、布をハチマキにして笑顔を見せる
		ちあき、こがきよにぐるぐるにした布を渡す→こがきよが飲む→布を4つ並べて敷く→こがきよがぐるぐるの布を頭に載せる
		かおりが1人拍手を送る
		こうすけ、布を受け取る役のはずが反対に渡してしまう→(気づいたのか)はるの手から こうすけが素速く布を抜き取る⇒迷いなく熱心に布を折りたたみ始める
		場のみんなが前のめりになって、こうすけの一挙一動に目を凝らす
		すべてが終わった後、たいせいが1人拍手を送る
		最後、かずきが全ての布を丸めて抱え込むとのぶおが「枕かなー？」→かずき、 こうすけの頭の下に敷いてやる
19:32	それぞれの行動がどのようみ見えたかホワイトボードに書き出す	出会いと別れの中で何が起こったか？ 王冠、蛇の手、まくら、オタ芸の人 魔法、捕まった、こたつに入ってた、 メダルをもらった、白いバラ、床でピクニック はなよめさん、布をふりまわしてた
		こがきよ「思い出。まゆからこうすけが出てくる感じ」

		指輪とか、逆プロポーズもあったよね。 オタ芸も。
		こがきよ「みんなで眠るのもいいね」
		のぶお「ぜんぜんそのために もってきたんじゃないけどライトがある、 みんなでオタ芸しようか！」
19:38	どんな話になりそう？	
19:41	ライトを配る	たいせいが体を起こして思わず笑顔
19:42	はちまきをつくる	ちあきがヲタ芸の振りをしてみたり→のぶお「ちあきの真似しよう！」大きな笑い声 があがる
		こうすけは1人でとても注意深く角を揃えて布を折り畳んでいる
		ヲタ芸を実際にやってみる流れが生まれる
19:45	最初から音に合わせてヲタ芸をやっ てみよう	たいせい、小走りしたり片足で跳んだり独自のフリを編み出す
		のぶおの無茶ぶりにもみんなついて行く
		白い布でこうすけをぐるぐるに。ひとり(こうすけ)がまゆになる。真っ暗の部屋でラ イトがひかる。
19:51	ゆりちゃんくる	
19:52	かずきトイレに行く	ゆりちゃんがやってきて、シェア。 こがきよ「夜のオタ芸きれいだったよね！」
		二人で布を持つ。光と布で、影絵にしたり、 顔を作ったり、光で遊ぶ
19:55	まとめ。ゆり遅れて来る	たいせい、左手を素速く振り上げる動作を何度も繰り返している
19:57	ゆりのために延長	
		こうすけのまゆをみんなで作って、 中から光らせてみようか。
		亀のお産もいいね。
20:00	布とライトで遊ぼう	ちあき、ゆりが自分なりのやり方を考える→みんなで考える ゆりが作っているものをかおりがお手伝いしてあげる
		のぶお「布を内側から照らそう！」→みんなが手に持って下から照らす中でライト を床に置く
20:06	みんなで布の中に入る	こうすけの頭か足がどうしても布からはみ出してしまう→はるが、こうすけの後ろの かずきに対して、かずきの布で隠してあげるよう促す→上手くいった！
		みんなでひとつの繭になって、 せーの「どっくん、どっくん」
20:10	締めあいさつ	こうすけ「これは布ですか？」 のぶお「これは今は布ですが、他にも 色々なものになれる。 みんなでやってること、出たことでやっていける。」
		たいせい「オタ芸こんなにやるなんて」 ちあき「布一枚で思いつかないことがいっぱい出てきた」 こがきよ「かずきが赤ちゃんって言ってみんなで回せたのが良かった」 のぶお「次は今年最後。出会いと別れの真ん中をやりたい」
20:20	解散	こうすけがかずきと腕を組んで絡む。ゆりが1人でアンケートを記入している



ももち文化センター 表現の面白さを体感するワークショップ 進行記録  
第5回

日程	2019/12/27
時間	19:00～20:13
会場	ももち文化センター小ホール

座組み

メイン進行	五味伸之(のぶお)
アシスタント	古賀今日子(こがきよ)
アシスタント(記録)	野中香織(そら)
ももち文化センター	江上、仁田野
検証	長津結一郎
インターン	大和真彩子

参加者	10名
	こうすけ、たいせい、ちひろ、ちあき、ひろなり、かずき、かおり、はる、あかり(はるの子ども)、ゆり
見学者	4名

Time	全体の流れ	記録
		会場の中央部に、白布の張ったボールが置かれている。
18:44	こうすけ来る	仁田野さんがこうすけに「おかあさん大丈夫？」と。こうすけ「来れません、今日は送ってしまいました」と。
18:45	たいせい来る	こがきよ、こうすけとしゃべっている。その後たいせいにこがきよ、布に近寄って「顔だけ出せる？」という。「そういう使い方じゃないけど」と。
18:50	ちひろ・ちあき・ひろなり来る	たいせとこがきよが幕の下から顔を出している。仁田野さん、のぶおに「参加したい人がいるそうで」とひろなりを紹介。ちあきがジャグリングの小道具持参し技を披露する。 かずき、ちひろ、ひろなりはボールで遊ぶ。たいせいは部屋の中をうろつく。こうすけはその様子を眺めて座り込んでいる。
18:51	かずき+母来る	
18:52	かおり来る	ちひろが何かのポストカードをこがきよに見せている。かおりは手持ちぶぎたにしている。ちあきとひろなりがひかるボールのようなものを持って遊んでいる。それにのぶおが反応し、お手玉をはじめ。こがきよはかおりに近づいて、ちひろとこがきよ、かおりでおしゃべり。たいせいはうろろうしている。
18:54	はる+あかり来る	ボールを投げ合ったりしりとりを行うゲームが自然発生的にはじまる。こうすけ以外は全員参加している。かおりの「アーメン」で終了。続いて、ボールを転がしてパスする遊びがはじまる。
18:59	ゆり+母来る	こがきよ「あ、きたきたー」という。
19:00	のぶおあいさつ	のぶお「前は布をいろんな形にしてこうすけがメダルをつくるなどした。
19:01		今回は光と影の出会いと別れを表現するということで、ちあきが光るボールを持ってきてくれた。
19:02	電気を消す、ちあきお手玉	實力を見てみよう！」と電気を消す。ボールが光ると歓声があがる。4色の球でお手玉。
19:03	光チームと影チームにわかれる	のぶおが光と影のどちらが好きかたずねる。その好みで別れて、光と影を観察しそれぞれの動きを創るよう指示。次第に影チームが光チームの動きをマネをするような状態に
19:04	はる夫来る	光チーム、こうすけは点滅を手のグーパーで表現。影チーム、光チームの背後で動きを真似る。かおり、かずきの肩にそっと手を触れ誘導
19:05		遠近感による光の大きさの変化の紹介。小道具や懐中電灯を使っている光の紹介。のぶおはスポットライトを扱っている。

19:06	「私の好きな光と影」について説明	のぶおが説明。何をどう通したら好きだなと思う光や影になるか探してみよう、という。会場がダウンライトだけになる。ライトがひとりひとりに手渡される。ちあきとゆりが手に光をあてている。のぶお、布でも床でも天井でも光を通して動かして、海っぼいな、とか。では電気消します、といって電気を消す。
19:10	暗くなる、個人ワーク	かおりとゆりはペアになって光を回している。たいせいは探検家のようなライトの使い方をしている。はるは人にあてようとしている。スクリーンの前でゆりとかおりが遊んでいる。のぶおが参加者の子どもへライトを渡す。ひろなりがライトの使い方がわからずにいるが、はるが声をかけて教えてあげる。かずきは床のボールにフォーカスしている。のぶおがこうすけの目の前にボールを差し出すと、こうすけはそれに向かってライトを当てる。ちひろがビニールをふたつ(白と青)重ねている。のぶおとかずきがペアになっている。ちあきとひろなりは布の裏側に回って影絵のようなことをして遊んでいる。たいせいは探検家スタイルを崩さずに瓶に光を当てている。ゆりとちあき、光を頭の下から当てて遊ぶゆりとが影を作っている→かおりも加わり合作になる。かずきが床に置いて照らしていたボール→こがきよやはるが見つけて別の照らし方をする。ちひろが布に影を撮すとみんなが真似を始める。ちあきとひろなり、ミラーボールを回して感想を言い合う。
19:17	発表	ゆり、大きい布に棒の影で魔法を作る。棒状のもの(えもんかけ?)を魔法使いのステッキに見立てる。→のぶおが別の光で魔法(きらきら効果)を作る
		かおり:えー、といい、先送り。
		こがきよ:ペットボトルを潰したものを魔法の絨毯に見立てると観客から歓声が上がった。それに反応して子どもが絨毯にのるというパフォーマンス
		はる親子:星が大小に変化する様子。ドラえもんのタイムマシンのような感じ
		ちひろ:青のセロファンで海に流れた瓶を表現。「海で手紙のピン、というのに憧れ」光を組み合わせてタイムトンネル
		のぶお:瓶を青い光で照らして手紙が届いたような演出。瓶の中の手紙を表現して歓声上がる
		ひろなり:穴あきお玉で花火を表現して、さらなる歓声上がる
		ちあき:回るモノがすき。音も良い。たけとんぼをコップで回す。「音も好きなんですよ」
		かずき:ボールを持つ手を動かすことで遠近感を利用した表現に対してのぶおが「道みたい」と発言。かずきがのぶおに光を当てる。二人でやることで生まれる関係性がおもしろい。
		かおり:考えていなかったと言いつつ、ミラーボール的なものを紹介。花火みたい。「下から当てるのが好き」とのこと。「万華鏡みたい」という声がある。
		たいせい:目にライトを近づけ探検隊のような表現。
		こうすけ:小さなシンプルなマルを静かに動かすと、蛍みたい、月みたい、などの感想が。人工衛星みたい(保護者の感想)
19:31	のぶお説明、チームわけ	のぶお「ここからお話をつくる。なんとなく、魔法系と海系?」こがきよ「光と影チームにわかれよう」
19:33	チームごとミーティング	光チーム:のぶお、ちあき、たいせい、こうすけ、ひろなり、ゆり。会話は全体対のぶお。演出をどんどのぶおがつけている。ちあき「ジャグリングがやりたい」のぶお「じゃあ花火が上がって～」→こうすけが花火のジェスチャー 影チーム:はる、かおり、ちひろ、かずき、こがきよ。ちひろの提案で過去の自分が出した手紙を偶然未来の自分が拾うところからはじまる。会話がぼんぼん進んでいる。とくにはる・かおり・ちひろ。かおりと子供がジェスチャーで会話をしている

19:40	暗転	ゆりが一人隅で棒を回して何か呟いている。こうすけ初めは棒立ち→一度自分のパートを練習したあとは布に光を当てるなど動き始める	かずきが光の距離を提案。中身の創作を早々に終え、雑談しながら、音響のこととかを話す。かずきが言葉で光の当て方を説明する→こがき「いいね！ドラえもん」→かずき「ハア！？！」で一同ウケる
19:50	光チーム発表	たいせい、手持ちライトで紙を照らして読んでいるしぐさ。ほたる、瓶が大きくなるシーン、花火。「魔法よかかれ」。こうすけ、光を消すタイミングは言われないと気づけなかったが点灯のタイミングは誰よりびつたりのように見える	
19:53	光チーム発表フィードバック	こがき「ちょー素敵だった」ちひろ「山とかに探検隊がいるのかな」かおり「なんかよかった」	
19:56	影チーム発表	子供がはしゃいで父のもとへ。はる、水の音。ちひろセリフ。「流れてるあのときの手紙。きれいな星空、おぼえてないな。どうやったら見れるんだろう、そうだ、ドラえもんに会いに行こう」ドラえもんの表現、絨毯、星空など。途中、かずきのセリフが出てこない。かおりが様子を不安げにうかがっている。	
19:59	影チームフィードバック	のぶお「ストーリーがしっかりしている」ちあき「話がわかりやすい」で一同笑い。こうすけ・ゆり「面白かった」たいせい「だれかドラえもんみてるの」ひろなり「影と光だけじゃない特徴」	
20:01	ホワイトボードで全5回振り返り	のぶお「今までやったことを振り返ってこれからのことを考えよう！」と、全体の振り返りを行う。のぶお「前に発表したときは他の題材をもってきていたけど、いろいろあるのをつなげていくのとどっちがいいか」	
		こがき「かずき馬の役だったね！」→かずき、馬の真似→たいせいも合わせてサボテンチクチクの真似をする	
		かおり、はるの子をちらちら見る	
20:06	物語がいいか新作がいいか議論	キーワード:探すこと、手紙、オタ芸、プロポーズ、	
		探しに行く物語が良さそう。ドラゴンボール？アリス？→題材はなくて良さそう。	
		たまご、ほたる、星というキーワードから夜景、探検隊のお話をつくることに決定。たいせいが、かおりがはるの子をちらちら見ているのを気にする	
20:13	終了	今年はこれで終わり。よいお年をー	

もち文化センター 表現の面白さを体感するワークショップ 進行記録  
第6回

日程	2020/1/10
時間	19:00～20:19
会場	もち文化センター小ホール

座組み

メイン進行	五味伸之(のぶお)
アシスタント	古賀今日子(こがきよ)
アシスタント(記録)	田村さえ
もち文化センター	江上、山浦
検証	長津結一郎
インターン	大和真彩子

参加者	7名
	こうすけ、たいせい、ちひろ、ちあき、かずき、かおり、ゆり
見学者	3名

Time	全体の流れ	記録
18:25	かおり来る	かおり、DA PUMPと吉幾三の動画をコガキョにみせる。かおり「吉幾三やって！」コガキョ「むり！かおりとのクリエイティブが止まらない～！」
18:29	江上さん入って出る	名札をかおりに渡す。かおり、名札づくりを手伝う。
18:37		こがきよとかおり、DAPUMPと吉幾三の動画をみている。
18:38		かおり、石焼き芋のうたをうたう
18:49	ゆり+母来る	ゆりがステッキを持ってきている。こがきよ「魔法少女ユリちゃん！私を吉幾三にしてください！」
18:50	ちひろ、ちあき来る	こがきよ「あけましておめでとう、よいお年をっていって別れたね」
18:51		のぶおが「こがきよ、ちょっと」とこがきよに声をかけ、こがきよが場から離れる。それまでこがきよはかおりと話していたが、2秒ほど場が止まる。しかしすぐにゆりとかおりが喋り出す。
18:52	かずき来る	ゆりステッキであそぶ
18:53		かおりがおみくじ神社というおやつを配り始める。小包装のおやつ。
18:54	こうすけくる	
18:55	たいせい来る	ゆりとちあきが魔法少女ごっこをはじめる。ちあき、ゆり、かおりでじゃれている。魔法でラジオ体操をしはじめる。こうすけは何やら笑顔。
18:59		のぶお、無言でごろごろしはじめる。ちあきはぐるぐる回っている。たいせいはうろうろとしている。
19:00	あいさつ	のぶお「あけましておめでとうございます、今年もよろしく申し上げます」と言った後、「さあやってこう!!」と大きな声で。いきなりはじめていい？と確認しながら導入の話。毎回の出会いと別れが詰まった作品をつくろうと思っている、という話。ゆりは杖が気になる様子。それ以外のメンバーは初めから集中力をもって話が聞いている様子。
19:04	これまでのせりふかるた	のぶお、これまでの話を思い出して来ました、といい、かるた形式で紙に書かれたこれまでの出来事のダイジェストを紹介する。「かずきおぼろさんになる」ちひろが取る。「こうすけたまごになる」こうすけがぱっと出す。アンケートに「たまごになりたい」と書いていたからこそこの言葉。「たいせい、ぼくは夜景探検隊」「ちひろ、影になる」「ゆりちゃん、プロポーズおこわり」「かおり、おはなをつくる」「こがきよ、空飛ぶじゅうたん」「のぶおのとけい」「ちあきひとめぼれ」「メダルをあげるこうすけ」など。
19:08		こうすけとたいせいがかかるたを取り合い、こうすけ「どっちが早かったですか」
19:11	こうすけのメダル	こうすけ、布で首かけメダルをつくりはじめる。「すごいきれいにあわせるね」の声。こがきよ「誰にくれますか？」に対して、こうすけはこがきよの首にかけてあげている。「わーい」。布をおくるみにしたんだよね、とのぶお。かずき「おもいだした！」みんなでまわす。名前は？こうすけ「ぬのちゃん」

19:12		「かずき、大事な赤ん坊」「ゆりちゃん画家になる」「ちあき、回るのが好き」「こがきよのタリーはオロナミンC」「ちひろの海の手紙」「かおりのお茶会」「のぶお別れに驚く」「たいせいプロポーズフルコース」
19:14		かずき、タオルで赤ちゃん。こがきよ「名前何にしようか？」→かずき「ぬの！」
19:16	一回目の絵が出てくる	
19:17		ゆり、画家になる→ちひろ「覚えてる！」かおり「あれすごくよかったよ～！びっくりした」とゆりにたくさん言葉をかけた。 のぶお「みんな全員でした中にも、オタ芸したり、蛍したり、プロポーズでわー！となることもあったね。サザエさん方式で、お客さんが想像して切なくなったり、たのしくなる。やるがわ、みるがわ、一緒に作ろう。」
19:19	今日のルールの説明	のぶおが引き続き喋る。「1枚にもオタ芸や蛍、プロポーズウォッチングとかもあった。今日はじつはこのタイトルはサザエさんふうにつくった。このひとり2つはあるお話を、全体で3枚1セットにつなげて発表したらどう見えるかをつくりたい。18枚あるので6つのシーン。やる側とみる側が一緒につくるもの」
19:21	シャッフル	のぶおがカードを全部裏返しにしてシャッフルする。ゆりに「魔法をかけて」という。ゆりちゃんの魔法で裏返したかるたがまぜられる。かおり「魔法！魔法！」→かずき「魔法ぐるぐる」→ゆり「トゥルルルル～♪」
19:22	1つめ	1つめは「ゆりちゃん画家になる」「かずきおぼうさん」「かおりのお茶会」が選ばれる。のぶお「同時にやってみようか」という。かずきが、お坊さんと言われるがピンと来っていない様子。のぶおが「お坊さん・・・お葬式の」というと「あ、あれか」と言う。
19:23		ゆりのお茶会×かずき坊さん×かおりお茶会
19:25		ゆり、かずき、かおりでやってみる。ゆり、壁を向いて下に絵を描く→のぶお「かずきを描いてることにする？」→ゆりが大きくなずき、かずきの方を向いて絵を描き始める
19:26		のぶお「どう見えた？」ちひろ「集中してる」こがきよ「ゆりが書いている中の人たちみたい」ちひろ「お茶を出しているように見える」のぶお「ゆりちゃんが修行しているようにも見える」
19:28		のぶお「そういう観点でもう一回やってみよう」という。かずきが修行しているようなそぶりになる。 ちひろ「みんな集中してる」こがきよ「ゆりが書いている世界なのかな」のぶお「和の感じ」
19:29		ちひろ「出してる感じ。かずきは修行中？」
19:30		終了。「徳が高い」というコメント。 かずきとゆりちゃんが修行中、かおりがお茶お出してあげてるのでは。かずきの捧げ方がお寺のすごい人に対する捧げ方のような意見。のぶお「お寺の修行者のシーンになったね」
19:32	2つめ選ぶ	ゆり、かずき、かおりの3人で次のカードを3枚選ぶ。「のぶおのとけい」「ゆり、プロポーズお断り」「ちあき、回るのが好き」になる
19:33		のぶおのお辞儀×ゆりプロポーズを断る→ちあき回転
19:35	2つめスタート	ちあきは、先に蛍光二色の布がついた棒を持ってくる。のぶおとかずきは頭をくっつけている。ゆりはかずきに間違っってプロポーズしている。こうすけはゆりを待っている。間違えているのでなかなか先に進まない。 ゆり、こうすけが動かないので困る→ちひろ、小声でアドバイスしてあげる
19:37		こうすけ、寝転んでアキレス腱を伸ばしたりでなかなか告白できない
19:40		こうすけ、プロポーズのポーズをすると、ゆりちゃん見てなかった。いったん止めてもう一度やってみる。今度はゆりはこうすけにプロポーズした。
19:41	ふりかえり	こがきよが間違っった回のも面白という趣旨のことをいい、のぶお「こがきよはそう思ったのか」と。たいせい「4人とも一緒になっている感じがした」のぶお「一代決心のプロポーズ」ちあき「伝わらない時の方が応援に見えた。最後喜んでるように見えた」たいせい「4人とも一緒になってるように見えた」かおり「いろいろごちゃごちゃ、いろんな話」
19:44	3つめ選ぶ	「ちひろと海の手紙」「こがきよオロナミン」「ちひろ 影になる」。のぶおのナレーションをサザエさんに寄せる。
19:45		部屋を暗くする。
19:46	3つめスタート	

19:48	感想	のぶお「暗いから夜っぼい。いつか海の手紙を拾いたいといっていたけど、今回は海に出しにいつているようにも見える。オロナミンCがお気に入り、のぶお「ちひろは手紙を出す側、フード被って影になって、こっそりきてるところに2人がきてオロナミンCしかないのをみてるみたい。」
19:50	3つめ2回目	ちひろは海の手紙を書いている。こがきよが「これ何?」と聞くとこうすけは「オロナミンCドリンク」というのを繰り返す。
19:52	感想	のぶお「こがきよとこうすけは付き合いたてのカップル。ひっそりと手紙をだすいいシーン」「こがきよとこうすけ、もう帰るの? みたいなのが彼氏みたいだった」
19:54	4つめ選ぶ	せーの! のタイミングでたいせいはギュッと目を瞑り開ける→たいせいのが2こ出る→嬉しそうに困ってごろごろする(出ちゃったーって感じ)。「たいせいプロポーズ」「ちあきひとめぼれ」「たいせい探検隊」
19:56	4つめ	耳にライトをかけて地図? を読むたいせい、うろろろするちあき、ついにちあきをたいせいが見つけてプロポーズ。
19:59		感想。ちひろ「演技が上手!」「夜景たんけんしていたらひとめぼれした少女」。「ちあきがそーっと出るのよかったよね!」というコメントもあった。 のぶお「何で夜なんだろ?」→ちひろ「昼もらった手紙を夜チェックしてる人」→のぶお、かおり大きく拍手
20:00	5つめ選ぶ	「かずき赤ん坊」「メダルのこうすけ」「かおりのお花」
20:01		のぶおは布の準備。「かずきとかおりでやりとりして花になったり赤ん坊になったりすることにしよう」
20:02	5つめ	かずき、赤ん坊を出している。花を渡させるところでどうしたらいいかわからない表情。赤ん坊に戻ると進めやすくなっている様子。
20:04		感想。のぶお「家族みたいだった。両親と子供」ちひろ「冬で寒くていたわってる、弟か妹が生まれて」「冬なのにあったかい家族」
20:06	6つめ選ぶ	「こうすけたまご」「のぶお」「こがきよ 空飛ぶじゅうたん」
20:08	6つめ	ちあきとのぶおが、こうすけの体にどンドン布をかけていきたまごのような形をつくる。ちあきとのぶお、そのあと離れ離れになり、そこへコガキョがやってくる。卵を割ってみよう! →割って出てきたときのこうすけの表情・笑顔
20:11		感想。ちひろ「先が気になる」「まほうの絨毯がさまよってる」、こがきよ「まだ乗る気持ちじゃにのこもなあって」かずき「真ん中が面白かった」、「ゆでたまごみたい」という意見
20:15		のぶお「やりながら、夫婦の気持ちとか、誕生を見届けられない気持ち」ちあき「別れを薄々察していた。卵はこども? 絨毯はまだのらない。子供がいるから」
20:16	まとめ	のぶお「6つの中身、シーンを考えた。」ちあき「修行のシーンが優しさが出た。」のぶお「書き出した18個以外でもある。いろんなことができるといいな。新年一発目盛り上がった。こういうことがやりたかったなどアンケートに書いてください。」
20:18	次回予告	次は1/13パピオビールーム。
20:19	終了	おつかれさまでしたー。解散後も集まってカルタを見ている

ももち文化センター 表現の面白さを体感するワークショップ 進行記録  
第7回

日程	2020/1/13
時間	15:00～17:16
会場	パピオビールーム中練習室3

座組み

メイン進行	五味伸之(のぶお)
アシスタント	古賀今日子(こがきよ)
アシスタント(記録)	田村さえ
ももち文化センター	糸山、仁田野
検証	長津結一郎
インターン	大和真彩子

参加者	6名
	たいせい、ちあき、かずき、かおり、はる、ゆり(途中から)
見学者	5名(+PAP関係者2名)

Time	全体の流れ	記録
14:36	ロビーで待機。かおりくる	かおり、こがきよとポップコーン、チョコの話。ちひろの話
14:38	かずきと母くる	
14:43	のぶおくる	のぶお「部屋がまだ準備できていないけれど入ってもいいらしい」
14:44		
14:45	会場に移動	会場にはPAPの舞台監督、マニシアさん、そらさん、糸山さん、仁田野さんがすでにいる。
14:48	はる一家来る	
14:50	はる一家トイレへ	
14:51	たいせい来る	
14:56	はる一家戻ってくる	はる、たいせいに「あけましておめでとうございます」マニシアさんと舞台監督が打ち合わせをしている。こがきよはみんなの話に入っている。畳のスペースからみんな動こうとしないので「広いまうにいてもいいんだよ」といいつつ、みんな動かない。
14:58	ちあきくる	仁田野さん、のぶおに「ちひろは休みだそうです」ちあき、パパの誕生日でお祝いをする話。たいせいはゆれながら独り言をいっている。ちあきはボールや布などを持って来ている。かおり、あかり(はるの子供)を抱きかかえてフロアでぐるぐるしている。こがきよとちあきのところに近づき、5人でじゃれている。こがきよ、ちあきの布に気づき「ありがとう」という
14:59	ゆり、こうすけがお休み	
15:02	はじめ	のぶお「じゃあちよつと始めようか」というとみんなゆるゆるフロアに集まる。この間も畳のスペースではしばらくPAP関係の打ち合わせが小声で行われている。
15:03		のぶお「おはようございます。今日はこうすけとちひろが休み、ゆりちゃんくる予定だが来ていない。はるが来てくれましたよかった」こがきよ「大きなティッシュを持って。かぜなので」
15:04		のぶお、前回の振り返りをはるにあわせて説明をする。のぶお「さあこのシーンはなんのシーンでしょう！」たいせい「ラブレター」ゆれながら言う。こがきよ「はるの、こんな日もありますっていうの、いいなー。」
15:05		はるの札は多分こんな～という話
15:07		こがきよ、畳のスペースでの打ち合わせを気にしている
15:10		のぶお「今日はせっかくだから、1個今日の人たちでつくりたい。ここまでのものはのぶおとこがきよでとったもの。これまで印象に残っていること、したことでもなんでもいいけど」と投げかける。しばらく沈黙が続き、のぶお「かおり、おみくじつきのチョコレートとか持って来てたね」と言うが再び沈黙。かおりが笑い始める。こがきよ「かおりよく笑うよね」「それはよく見る」というコメント。こがきよ「かずきが「こんにちは」というと「こんばんは」と返してくれる」などと話す。

15:14		かおり「たいせいのヲタ芸」と言う。「たいせいのちまき」と誰かがいい、一同笑う。のぶお「たいせい、こないだのラブレターのシーンのあと「あーつかれた」ってやりきった感覚あったね」ちあき「ゆりちゃんが魔法使いのイメージ」のぶお「魔法の杖で回されてたやん。上手」こがき「ちあき、まほうにかかり名人」たいせい「4人一緒のところがあった」といい、しばらくどのシーンのことかわからなかったが、こがき「あったあったあった。のぶおとかずきが頭下げてる」と思いつく。たいせいが量のほうのスペースを4度見する。
15:17		のぶお「はるのシーンを今日はつくりたい。赤ん坊を諾、というのと、今日のこままでの話から2枚」と、はるに引いてもらう。「かおり よく笑う」「ゆりちゃん魔法使い」が出る。のぶお「これを同時にやろう」
15:18	ゆり+母くる	のぶお「ゆりちゃんがいなくてかわりにのぶお・・・」といっていると、長津が気づき「ゆりちゃん来た」と。一同「魔法使い」と喜んでいる。ゆり、荷物をおいて合流。ステッキをあらかじめ持って来ている。のぶお「ちょうど来た！しかも杖持つてる」
15:19		のぶお、ちあきに演技指導をしている。
15:20	ゆり魔法使い×かおりよく笑う×はる赤ちゃんを見る	かおり「ユリちゃんのぼんだよ！」のぶお「ちあきに魔法かけてるの良かったから」ゆりちゃん、照れる。
15:21	はる入った演技	ゆり、ちあきをステッキで操作し、ちあきがくるくるしている。はるは赤ん坊を抱くぐさを一人でしている。かおりははるをみて笑っている。ゆりのステッキさばきが華麗(左手だけで操作している)。そこにのぶおがゾンビのように近づいていくが、ちあきに倒される。 (はるに襲いかかるのぶお→たいせい「あーなるほど、なるほどね」。たいせい人が近づくと居場所を移動しスペースを空けてあげる)
15:22		こがき「たいせいがずっとなるほどといった」たいせい「回すと体がつながっている」こがき「はるは何か来ているのに気づいている感じ。笑っている人はなんだったんだろう？」のぶお「どんな場所に見える？公園とか？」こがき「かずきどう？」かずき「・・・」のぶお「のぶおはウイルスですか」こがき「どろぼうみたい。ぶつかりそうでちがうところに逃げようとした」たいせい「逃げちゃった」こがき「子供をとられちゃう」のぶお「こどもをとる人に見えた。ちあきは魔法使いに何されてるんだろう。かおりは笑ってるけど、公園で、誰？のぶおは赤ん坊を盗みに来ている。」のぶお「ゆりとちあきの距離、魔法使えるのはどれくらいがびつたりくるか？」ちあきとゆりが遠くに離れてみる。
15:23		*たいせいの発言が増えてきた
15:27	はる入った演技その2	ゆりとちあきはかなり距離を離れて操作されている。かおりが笑っているのが、はるに対してではなくフロア全体に対してに見える。はるはのぶおをより意識した演技をしている。最後はちあきがのぶおを倒す。
15:28		こがき「完全にのぶおとかおりが悪の組織。あの2人を取って来ておしまい、といってる」のぶお「ちあきはどのタイミングでのぶおを捕まえたの？」ちあき「ゆりが合図した」こがき「魔法の世界に大切な赤ちゃんがいる感じがした」のぶお、かおりに近づき「じゃ、悪で(笑)。赤ん坊スナイパーズ」こがき「魔法の近くで笑うのとぜんぜん違うね」
15:29		かおり、「あー、おかし」と大きな声を出しこがきよにくつつく
15:30	次のワークの導入	のぶお「この他にも、蛍の光にみえたこうすけのやつ、ヲタ芸などある。そのほか、全員でできる大きい話がある。お話をどうつなげたいかということを考えたい。言葉をつくる」
15:32		こがきよ、模造紙を出す。ちあきが紙で指を切る。こがき「あー！！」ちあき「いつもそのまんま」かおり「だめですよ(お母さんみたいに)」。のぶお、大きな声で「絆創膏!!」と叫ぶ。そら、仁田野、ゆりママが動く。絆創膏を探す間、かおりがちあきの手をずっと握る。
15:33		かおり、絆創膏を貼ってあげる。 「かずきも切れた?!」→違う。みんなほっとする。
15:35		のぶお「今日はななつのシーンのいろんな言葉を出したい。まずタイトルを書いていきます」と模造紙にどんどん書いていく
15:36		書いているあいだ、はるの顔がすこし暗い感じ。こがきよははる、ゆりとおしゃべり。たいせい、身を乗り出してのぶおの様子をうかがう。



15:37		のぶお「このタイトルにまつわるいろんな言葉を出していきたい。さっきのだとキラキラの杖とか、キック、ぐるぐる、かおり「ようかい」など。のぶお「いろんな言葉を出したい。長くて短くてもいい、いろいろ。」
15:39		のぶおが「ペンみんなで」というと、こがきよがカバンのほうに向かう。仁田野さんが「マジックじゃなきゃだめ？」とペンを出そうとすると、かおりが立ち上がり受け取りに行く
15:41	模造紙にキーワードを書き込む	かおり、仁田野さんから受け取ったマジックをみんなに配る。のぶお「シーンごとにみて思ったこととか」かずき「ひかる」のぶお「(大きな声で)ひかる、いいじゃない!!」はる「この前いなかったからかけない」こがきよ「ばらばらのをみれば、わかるのもあるかもよ」 戸惑っているはるに対して、かおりが手を触る。
15:43		のぶお「起きたことだけじゃなくて、なんでもいい。あっているあっていないじゃなくて、ここから思うこと、出ることば。赤ちゃんだったらバブバブとか。でたらめ。バラバラでいっぱい書いていく」
15:44		ゆり、こがきよと書いている。ちあきとかおり、はるが一緒に考えている。のぶおとかずきとたいせいが近い。
15:45		かおり「ぬのかけてー、たまごになって、、」 たいせい、一歩引いたところでみんなの様子を伺う。
15:47		かずきの恋人→のぶお「あの時は恋人じゃないけど、恋人だったもんね」
15:48		のぶおの「連想でもいいんだよ」という声かけ→たいせい、ちあきの手が動き始める。はるの手はなかなか動かない
15:49		こがきよ「すてきなことば。ぬのくんの名前かかなきゃ」かずき「のぶおってかいていい？」のぶお「いいよ」
15:50		はる、紙のメモをみながら。こがきよとゆり、かずきは寝そべりながら。
15:52		「お茶じゃなくてお菓子かも」→かずき、ジェスチャーをしてみせる
15:53		はるの手が動き始めた のぶお「これはカラータイマー。老夫婦のわかれをさとしたちあきがウルトラマンのカラータイマー見たいと思って」
15:54		こがきよ「じゃあ私、宇宙人だったのか〜」。かずき「UFOってなに？」こがきよ「宇宙船だよ」。 たいせい、あまり輪に加わらない→こがきよ「宇宙船描いて」たいせい左手で宙に何か描く。
15:57		SFになった！みんな別の人もんね。でも別の星の人に会えるのは素敵だね。
15:58		はる、1人だとなかなか手が動かない。しかしかおりと話し、意見を伝えている
15:59		のぶおの「席替え」と言う言葉で場所を交換。のぶお「なにこれめっちゃすてきな星になっとうやん。なかったことがいろいろ増えていてうれしい。ゆりちゃんに星が見えてた。星空みてたってことが気づけてうれしい」
16:00	席替えタイム	
16:02		のぶお、カードサイズの紙を出す。 ちあき、なかなか手が動かなかった→ちよっと書いたのを見て、のぶおがそんなこともあったね！→笑いが起こる→ちあき、さらに書き込む
16:04	次のワークの導入	のぶお「お話つくって発表するって誰かに何かを伝えること。それぞれの順番を決めるために、手紙を書く順番をつくりたい。出て来た言葉、書かれたこと、カードにひとつ1個ずつ書く。5枚くらい。今日は長いから休憩とりつつ。」
16:05		かおり、かずきやたいせいに「5枚ある？」と確認する
16:07		のぶお、紙配ってもらっていい？とみんなにまわす「10分くらい休憩とりつつ」
16:08	休憩？	休憩と書いてみんなもくもくと書いている。かおり、こがきよに「何するの」と聞く
16:09		ゆりとかずきは寝転んで書いている。
16:11		ゆり「かいてもいい？」こがきよ「いいよー、100枚書いてもいいよ」
16:12		たいせいも寝て書くようになった。

16:20		みんな休憩せずに作業している。かずきが休憩したそうなそぶり。こがきよ「休憩していいんだよ」かずき畳のスペースに。かおり「なんとかかいた」ちあき「あとひとつ」
16:23	見せ合う	のぶお、かずきに「休憩終わり」と言う。かずきはまだ休憩したそう。のぶお「書いたものをみんなで見せ合おうと思います。並べてみますか。読んでもらっていいかな」かおり「みんなと書き方が違う」
16:24		のぶお「思った以上に別れの言葉をえらんだ」 たいせい：海に出す手紙は会話です・・・ のぶお：長い時間 なくなる話で待っている人 お兄ちゃんらしく・・・ はる：みんなで家族になる お迎え・・・ ちあき：お礼を伝えたい 赤ちゃんへの愛情 集中している 善と悪 魔法・・・ (戦ってる、ちあきっほい、というコメント) ゆり： みんなでいる 未来への手紙 夜の空・・・(ちあきがフォローしている) かずき：お茶を飲むのぶお・・・ こがきよ：思い出から離れられない 寝てた・・・ かおり：あったかい・・・(相手がいる。友達がいる、というコメント)
16:25		ちあきの発表→たいせい拍手
16:26		ゆりの発表→ゆりがスラスラ読めない→隣のちあきが手伝ってあげる→発表後、ちあき拍手
16:28		かずきの発表→のぶおがたくさん登場する→たくさん拍手
16:31	手紙ワークの説明	のぶお「ことばをつなげて読むだけでも詩みたいでイメージがある。選んだカードを使って順番、言葉を並べて手紙を書く。この手紙が、シーンとシーンのあいだ、次のシーンに進んでる、という手紙にしたい。」
16:34		の「だれかになりきって書くのもいいね。選んでないことを書いてもいいよ」
16:35		のぶお、紙をまわす。ちあき「海に流すのかなあ、これ」
16:36	手紙を書く	ちあき「どうやって書くんだろう」かずき、ゆり、ちあき寝転がりながら書いている。
16:38		こがきよ「かずきかっこいい手紙になってる」とコメント
16:42		かおりのフォローをのぶおがしている。そのあとゆりちゃんフォローで、文字の校正のようなことをしている。こがきよはかずきフォロー。たいせいをのぶおフォロー。
16:47		のぶお、かおりに静かにアドバイス。
16:50		のぶお、ゆりちゃんと言葉のシェア。あ、ショーのね！ イッツショータイムね！
16:51		こがきよ、かおりに「最初切ない感じだったけど次にいこうとするね、猿やコアラとお幸せに…」
16:52		のぶお「できたー？」と声かけ。
16:54	発表	こがきよ →のぶお「こうすけのはじまりのシーンっほい」ちあき「たまごがタイムカプセル」
16:55		かずき →「傷ついたのぶお、なくな、みたいな」
16:56		ゆり →のぶお「のぶおさんが出てきましたね」
16:57		ちあき →のぶお「かっこいいねー」こがきよ「視点がひっくりかえる
16:58		はる →しんみり。ラブレターの前にしよう
16:59		のぶお
17:00		たいせい →のぶお「結末があったあとに書いている感じ」
17:01		かおり →のぶお「できている感がある」
17:03		はる「穴の中でまた会おう」
17:05		たいせい「M87星雲。会話できるようになりたい」
17:07		かおり「にこにこしたい」
17:09		10分もれちゃったけど、ここで帰りに写真を撮る(手紙)四回目あとには本番だね。
17:10		たいせい「修行のシーン、お茶じゃなくてお酒だと面白い」。のぶお「今日は終わり。1人1言。次回以降の話。」

17:11	全体の感想	たいせい「修行のところ……」かおり「詩を書いているみたいで楽しかった」こがき「みんなの選んだカードに個性、その人らしさ。字にするの新鮮」かずき「楽しかった」ゆり「出てこなくて、下手なのですみません。次から思いついてかいてきます」ちあき「前回みんなのシーンをばらばらなのをたった2回でこんなストーリーになって、できてたと思ったけど、みんなのつくったものから別のストーリーができておもしろい」はる「前回はわからなかったが、みんなの単語から勝手に想像していた。楽しくて、単語を選んで違う世界をつくれた。こういうことからつくっていけるんだなと思った」
17:15		のぶお「手紙を書くとき、どこにすごく気持ちがあって書いてるか出て来た。順番が決められそう。
17:16	あいさつ	おつかれさまでしたー

もち文化センター 表現の面白さを体感するワークショップ 進行記録  
第8回

日程	2020/1/24
時間	19:00～20:10
会場	もち文化センター小ホール

座組み

メイン進行	五味伸之(のぶお)
アシスタント	古賀今日子(こがきよ)
アシスタント(記録)	田村さえ、野中香織
もち文化センター	江上
検証	中山博晶
インターン	大和真彩子

参加者	7名
	たいせい、ちあき、こうすけ、かずき、はる、かおり、ゆり(途中から)
見学者	4名

Time	全体の流れ	記録
18:35		かおり、たいせい、こがきよ、のぶおで雑談。こがきよ、カレーの話をしている。かおりとたいせいに「辛い好き？」と聞く。かおりは辛い好き。体制はピリ辛好き。エビチリとか。
18:40		白のパーカーに、灰色のズボンをはいたたいせい寝転がる。のぶお、これまでのワークの内容を板書。
18:43	かずき入室	かずき、扉から覗く。コガキョが「あ！かずきこんいちはー！」と言うと、かずきとても大きな声で「はーい！！」と挨拶。かずきがお土産を渡す。「職員の方」からももらったもので、「くまもん」クッキー？をその場にいた全員に渡す。
18:48		寝転がるのぶおの様子を見たかずきが、「何で寝よー」とのぶおに声をかける。すると、かずきが「まねしてみよっか」と言い、こがきよもその声に反応して「まねしてみよっか」と応答する。他の参加者も、のぶおと同じように寝転がり、のぶおの動きに合わせる。
18:50		こがきよ「次に来るの、誰か？クイズ！」を提案。「わからな～い」とかずき。「あっ！あかりちゃん！ハルが来るね。」とこがきよ？
18:51	はるが、あかりちゃんと一緒に入室	あかりがはるにぶら下がるのを見て、たいせいが小声で「あーやばいやばい……」 はる、「このまねウルトラマンの話が出てたから」と、ウルトラマンTシャツをきている。
18:52		かずき「何の役やるか楽しみやな～」と発言
18:53	こうすけ入室	ぼうしを被ったこうすけが入ってくる。のぶおがこうすけ母にさりげなくシフトについて探りを入れる。
18:56		のぶおが水を飲んでる。その様子を見たかずきが「僕も飲もう」「いい？」と、のぶおの顔を見ながら聞いている。こがきよが「いいよー」と言い、かずきは鞆からペットボトルを取り出し、飲んでる。
18:57	ちあき入室	
19:00		かおりが、あかりちゃんに対して、「くまもんダンスする？」と話しかけている。その様子に、かずきは笑っている。 かおりは、そのまま、カタツムリや蝶々などの手遊びをしていく。
19:01	WSスタート	のぶお「こんばんは」とあいさつをして、WSの説明を始める。 あかりちゃんが開始とともに端の椅子に向かう。ちひろは休み、ゆりは遅刻。
19:02		のぶお「今日はお話をつくる日です。」「このお話は一人(のぶおやこがきよだけで)で作るのは違うなあ～。誰か一人が全員のことをお話に入れるのは勝手だなあ～と思うので。生活においても『あなたってこうね』と決めつけられるのはどうかと思う。」「みんなでお話を作りたいのでこれまでのWSについて順にやってみよう！」。

19:06	これまでのWS振り返り	ホワイトボードにこれまでやったお話が書かれており、一緒に体験してきた事を確認する。そして、これから「みんなで、お話を見つける」作業をすることが、参加者に伝えられた。
19:11	「スナイパーVS魔法の王国」開始	
19:12	ゆりちゃん到着	ゆりちゃんが到着したので、ゆりちゃんの代役をする予定だったそらと変わる。この場面では、のぶお・かおり・はる・ゆり・ちあき・かずきが登場する。初めに「スナイパーVS魔法の王国」をやって、その後「修行」のシーンへと移る。かおりとのぶおが、はるを「子どもくれー」と言いながら追いかける。逃げるはる。ゆりは、魔法の杖を回して、ちあきを操り、ちあきはのぶおにキック。のぶおは、地べたに倒れこむ。この間、かずきは顔を下に向け、うつむいている。かずきママ、体を動かし背を向けてかずきの様子を伺う。 観ていたこうすけは寝ている。
19:15	「修行」開始	かおりが白布で湯飲みをつくる。その湯飲み(白布)を、かずきに手渡す。かずきは湯飲み(白布)を回して、指をすり合わせながら、何かを湯飲み(白布)の中に入れるような仕草をする。そして、湯飲みの中をかき混ぜる。そして、かずきはその湯飲みをゆりに渡す。ゆりは、その湯飲みで、飲む動作をする。
19:17	感想タイム	感想の時間になり、たいせいが、かずきの仕草に対して、「粉入れたような感じ」と小声で言う。その声を受けてこがきよは「かずきが、粉入れた感じ」で全体に言う。のぶおは「かずき、粉入れした?」と、かずきは「うん、えっとね。(長い間)・うん魔法かな」と答える。
19:21	「修行」開始	ストーリーの時系列を入れ替えてやってみる。 お茶を飲んでから魔法使いの方へ行くという展開に。お茶を飲んだ後に、すないばーvs魔法の国を始めると、魔法のお茶でゆりちゃんが魔法使いに変わった。のぶお「たいせいが粉入れたってだけで、ゆりちゃんが魔法使いになった。小さなことで足してみたら面白くなる」  ゆりが絵を描き、かおりが布(お茶)を運び、かずきがそれをゆりへと渡す。ゆりが湯飲みを飲む様子を見ながら、のぶおは「ごくごくごく」という擬音を出す。すると、ゆりちゃんは、つえを握り、つえを振る。ちあきは、そのつえと一緒に動く。
19:22		のぶおがアテレコを始める。「子供をくれ〜」など。 かずきが演技中にちらっとかずき母へ視線を送る。かずきママ、こうすけママは子どもくれ〜でウケてた。
19:24	感想タイム	のぶお「お話っぽくなってた?」と尋ねると、こがきよが「ぼくなってた。」と答える。
19:26		「たいせいのおかげでストーリーが生まれた」とのぶお。 のぶおがかずきに「父役やる?」と提案。かずき母「全然わかってないよね」と、ほかの見学者にこぼす。 のぶおがかずきにやや早口で役割を説明する。(※やや無茶振りな気がしないこともないが、のぶおのアテレコが続いているので、みんな動きやすそう。) のぶおが、かずきに「お父さんやる?」と聞いている。かずきは笑っている。かずきが「適当でもいい?」と聞くと、のぶおは「適当でいいちゃん」と答える。
19:27	「修行」→「スナイパーVS魔法の王国」開始	かずきとかおりが夫婦となって「子ども欲しいね」と言っている。かずきは、「魔法の粉」を、白布でつくられた湯飲みに入れる。のぶおのナレーションで、「お祈りに行きました」と言っている。かずきは、「子ども」ができるように、ゆりにお願いをする。すると、ゆりが魔法の杖を振り、ちあきとはるが登場する。その後、「子どもくれー」とかおり・かずきが、はるを追いかける。ちあきは、はるを守るように、かずきを蹴り、かずきは地べたに倒れこむ。誰かが「上手〜」との声。こうすけはそれを見て笑っている。
19:32	「ラブレター」開始	ちあきとたいせいが登場する。ちあきは、たいせいの様子を伺う。2人のシーンにのぶおがナレーションを付け加える
19:35	感想タイム	こがきよ(夫婦が)出会った回だと素敵だね。」のぶお「かずきの昔、『俺、探検してたなー』みたいな」。ちあき「たいせいが最後にライトを投げた」→のぶお「何もかも捨てて、2人の世界ってことだね」

19:36		「ラブレター」の場面は、ある夫婦のシーンということになる。
19:37	「相談してプロポーズ」開始	こうすけ、のぶお、ゆり、ちあきが登場する。場面が始まると、ゆりと、こうすけがお互い見合いながら、距離を詰めたり、離れたたり。ぐるぐる回って、こうすけが、ゆりに告白するも、断られてしまう。その様子を、ちあきはずっと見ていた。
19:41	感想タイム	こがきよは、2人のぐるぐると回っている様子が、(告白を)迷っているように見えたと語る。ちあきは、場面の中で演じながら、「うまくいけー」と祈っていたという。のぶおが、他の参加者に「お父さんっぽい人いた？」と聞く。他の人からは特に応答はない。はるが、「なんか、今までは、森の妖精が応援してたんだけど・・・」という、のぶおが、「このシーンのちあきが、かおりの昔で、『昔は私も妖精だったわ』」と言って、このシーンが、前の「ラブレター」に繋がるのではと提案する。
19:45	「老夫婦の先は長くない」開始	こうすけが横になる。のぶおとちあきが、白布を、こうすけに被せる。こうすけは白布で覆われる。(・・・その後の文字が解読できないため、このシーンがどういったシーンかは分からず・・・)
19:46		こうすけが寝そべってしまったので、終わった後ののぶお「こうすけの顔が見たいなあ」と言って体操座りのタマゴになるようお願い。
19:49	感想タイム	「のぶおだけ歳をとっていく。コガキョ「老夫婦、妖精のちあきだけが生き延びてしまった感じがする」ちあき「なんか、、長生きした気分」「長生きしてしまった！」
19:53	「冬なのにあったかい家族」開始	かずきと、かおりが、こうすけにかけられた白布をはがしていく。お花をつくる人。マフラーをかける人がいる。
19:55	感想タイム	こがきよが、「子どもクレクレ家族に、子どもができたね」という
19:57		たいせいは、タオル巻かれた感じという。ちあき「こうすけがマフラー(メダル)作った後、嬉しそう」と言う
19:59		のぶおが、白布で吹雪できるかな、と参加者に尋ねる。
20:00	「海に出す手紙」開始	こがきよとこうすけと、ちひろの代役にそらが登場する。こがきよとこうすけが2人並んで、会話をする。こがきよが「これは何ですか」と尋ねると、こうすけは「オロナミンCです」と答える。この後、瓶を転がし、2人は舞台からハケる。そらが出てきて、瓶を受け取る。
20:04	感想タイム	たいせい「何度も『これは何ですか』って聞かなくてもいい感じ」、のぶお「じゃあ次行ってみる？」「スナイパーのシーン」、こがきよ「魔法使いに手紙を出したのかな」。すると、このやり取りを聞いていたそらが、オープニングと、エンディングそれぞれに、このシーンを入れることを提案する。
20:07	全体共有	のぶおがこれまでのWSについて語り始める。こがきよは「自分たちで家族がつくれたお話なんだね」と言う。
20:13		お父さん役、お母さん役、魔法使い役、子ども役に分かれてみる。
20:14		かずき「すばらしいお話した」
20:16	お知らせ、終了	

もち文化センター 表現の面白さを体感するワークショップ 進行記録  
第9回

日程	2020/1/31
時間	19:00～20:10
会場	もち文化センター小ホール

座組み

メイン進行	五味伸之(のぶお)
アシスタント	古賀今日子(こがきよ)
アシスタント(記録)	田村さえ
もち文化センター	江上
検証	中山博晶
インターン	大和真彩子

参加者	7名
	たいせい、ちあき、こうすけ、かずき、はる、かおり、ゆり
見学者	4名

Time	全体の流れ	記録
18:30	(記録開始)	のぶお、かおり、たむたむ、やまと、中山が既に部屋に入っている。
18:43	こがきよ入室 かずき入室	かずき、こがきよに「連続だね」と言われ、笑顔。かおりがかずきに話しかける
18:45		たむたむとかおりが2人で楽しそうに動いている。2人とも足を挙げて手を振る。足をあげて、かおり「おっほー」と言い、たむたむに笑顔を向ける。
18:46	はる入室	はるの子どもに、かおりが話しかけに行き、遊ぶ。
18:48		こがきよ「はるが春らしい服着てる」と言うと、はるは嬉しそうに笑顔をこがきよに向ける。一方で、たいせいは部屋の中を歩き回っている。
18:49		こがきよ・はる・かおりの3人の会話。こがきよが、近所のスーパーではると偶然出会った話。
18:54		のぶお、こうすけママに今日の話を話す 「見てもらう感じになると思います」。
18:55		はる、かおり、こがきよのお喋りから全員を巻き込んだ会話になる。コガキョ「かずきは元気？たいせいは？」
18:56	こうすけ入室	部屋に入って来たこうすけに対して、こがきよ「こんにちはー」誰か「こんにちはー」というと、こうすけは「こんばんは」と返す。その瞬間、笑いが起き、誰かが「こんばんは」と返す。その様子を見ていたのぶおは、「そうだね今はもうこんばんはだね」と、こうすけに話しかける。 ”かおり「昨夜沈んでたけど、天使にラブソングを を見て元気になった”
18:57	のぶおから銀色の耐熱シート(?)が配られる	こがきよは配られた銀色のシートをスカートに見立て、腰にまいている。かおりはマントに見立て、こがきよに被せる。誰かが「女王様みたい」と言う。かずき、笑いながらこがきよを見ている。 かおり(→あかりに)銀色シートを体にまき付けセミの真似→はるも真似→かずきも真似
18:58	ちあき入室	
19:00	WS開始	のぶおが、ホワイトボードの前に立ち、「明日はリハ、明後日が本番。今日はみんなが作ってきたものをまとめようと思います。こうすけは本番参加できないけど…」と話す。そして、これまでの場面を説明。他の参加者は座って、のぶおの説明を聞いている。のぶお「いよいよ明日です！」→みんな拍手/こうすけは拍手なし
19:03		たいせい、のぶおの話に呼応して頷く。なお、たいせい、アルミシートの上でくつろぎ。
19:04		ちあきは自分のマフラーを回している。シーンを始める前に、コガキョが「かたづけようか」というとみんなシートを脇に片付ける。
19:05	ゆり入室	
19:06	プロポーズのシーン	のぶおが、かおりの手紙を読み上げる。「別れに気づけなくて……たいへんだった森の話」。すると、ちあきがマフラーを回し始める。

19:07		部屋の橋と端に男女で分かれて待機し、1人ずつでてきて告白することが決まる。
19:08		かずきが、告白しに中央に向かうと、反対側から、こがきよとかおりが出てくる。かずきは、迷った末に、こがきよに告白するが、フラれてしまう。こがきよが、その場を離れると、かずきはかおりの方を見る。かずきは土下座して、かおりに「お願いします」と頭を下げている。その様子をかおりは笑っている。かおりから返事を貰わないまま、かずきは、元居た場所に戻っていく
19:09		みんなのプロポーズ終わり、ちあきに のぶおが「私も恋したいなあって言える？」と尋ねると、ちあき「いいかも！」
19:11	探検家のシーン	たいせいが探検している
19:12		のぶおがシーンを止め、たいせいに「ちなみにヤケイ探検隊って何探しているの」と聞く。こがきよは「ここにきて」と笑っている。たいせいは「何かないかなー」と言い、のぶおは「あっ、何か」と答える。その後、実際に探検のシーンをやってみると、たいせいは「誰かいないかなー」と言いながら、探検を始めた
19:15	プロポーズのシーン→探検家のシーン	のぶおがかおりの手紙を読み上げる。その後、他の人たちは、両端で一列に並び、待機する。ちあきは、マフラーを回しながら、告白を応援する妖精を演じる。
19:17		こうすけとても良い笑顔
19:18		かずきが寝転がったかと思うと、左腕で体重を支え、右足をあげて、のぶおに告白(?)する。→かずきママ爆笑
19:19		告白が一通り終わると、のぶおが泣き始める。かずきはのぶおの前に行き、手紙を書く動作をする。のぶおは、かずきの手紙を読み上げる。「泣くなのぶお……」
19:20		探検家のシーンに移り、たいせいは「誰かいないかな」と言いながら、辺りをキョロキョロして座る。その後、ちあきとたいせい2人のやり取りが続く。このシーンを観客として見ていたこうすけは声をだしながら笑っていた。
19:21	シーン終了	のぶおは、シーンを止めると、白布を取り出し、たいせいとちあき以外に手渡す。そして、隠れ蓑みたいに使うように、他の参加者に提案する。のぶお「みんなは布で、夜、隠れてる」
19:23	探検家のシーン	たいせいが動き始めると、他の人たちは白布で隠れる。ちあきが手紙を投げる。たいせいは受け取る。この2人の様子、特にたいせいが手紙をキャッチする様子を見ていたのぶおは「今のめっちゃいいね」とほめている。こうすけ吹き出す。
19:24		ちあき、手紙を出す方法を一度目と変える(1度目はスライド2度目は紙飛行機) →たいせいもそれに応じた受け取り方にする
19:25		のぶお「みんなでお祝いするヲタ芸をやります」→はる、ヲタ芸の身振り。かおりとゆり、話して声を上げて笑う。(ゆり「いけるかなー？」かおり「うん、いける。いける」)
19:26		たいせいとちあきのシーンで、告白が成功すると、白布を振り回すことが決まった。そして、のぶおは、たいせいに、たいせいがおじいちゃんをやることを提案する。
19:27		探検家のシーンで告白が成功すると、みんなで白布を振りながら、踊る
19:28	シーン終了	探検家のシーンの後、これまでこうすけが白布を被り、卵になっていたが、本番参加できないため、急遽代役をたてることになった。のぶおは、「・・それで白布につつまれるのをどうしようかな・・」と言っている。その様子を見つつ、かおりは、ゆりちゃんに「疲れた？大丈夫？」と気遣っている。ゆりちゃんは、軽くうなずいている。こうすけの代役を考えていたのぶおは、「かずきが」というと、かずきは「ぼくが？」と驚いている。かずき「やってみないとわからんわからん」
19:29		コガキョが「おめでとー！」で布を なげるのはどう？」「結婚式みたいだね！」
19:30	探検家のシーン(告白成功)→2人、片方は老いていくシーン	告白したたいせいの手をとるちあき。音楽がかかり、白布を振り回す。かずきは座る。たいせいとちあきは、2人で白布を、かずきに被せていく。その様子を見たこうすけは笑っている。



19:34		たいせいとちあき告白成功、「おめでとー！」のあと、こうすけが出て行ってタマゴになろうとするのを、のぶおが「こうすけ…」と言って背中に手を当ててとめる。
19:35		たいせいとちあき、老いて別れのシーン。のぶおナレ「腰が曲がっておじいちゃんになってしまいました」→たいせい、腰を曲げておじいちゃん風に。たいせいとちあき、2人離れていく。
19:36	シーン終了	のぶおがシーンを止める。白布を被ったかずきに「どうやった？悪くない？」と尋ねると、かずきは「悪くない」と言う。会場から思わず笑い声上がる。
19:37		のぶお「他の人のしてもらってもいい？」と尋ねると、かずきは「いいよ」と答える。のぶおは「かずきにしてもらったんやけど…」と言いながら、はるに「卵」をやるようお願いする
19:42	探検家のシーン(告白成功)→2人、片方は老いていくシーン	音楽がかわり、白布を振り回しながら、踊る参加者たち。“あかりちゃんも一緒に踊る。”
19:43	2人の別れのシーン→魔法使いの登場シーン	たいせいとちあき、2人が別れるシーンになる。たいせいが、離れていくと、代わってゆりちゃんが登場する。のぶおのナレーションが入り、魔法使いのゆりちゃんが、ちあきに「一緒に行くかい」と誘っている。
19:45	シーン終了	のぶおは、ちあきに、「魔法使いのゆりちゃんから『一緒に乗ってく？』と誘われたときに、なんで乗らないの？」と尋ねると、ちあきは「たまごがあるから」と答える。続けて、のぶおは「なぜたまごがあると残るの？」と尋ねると、ちあきは「たまごを守りたい」と答えた。
19:46		のぶお、白布をかぶせられているはるに声をかけると、はるから反応がない。のぶおが「はるー？」と呼びかけている。
19:48	魔法使いの登場シーン→ちあきと「たまご」のシーン	ゆりちゃんが入ってくる。ちあきは、魔法のじゅうたんに乗ることを拒む。そのまま、ゆりちゃんはハケていく。
19:49	子どもが欲しかった夫婦登場、ちあきは様子を見ながら「たまご」から離れていくシーン	はるの手紙を、のぶおが読み上げる。その後、かずきとかおりができて、はるを覆っている白布をはいでいく。
19:50		かずき、のぶおに演出を受けるも納得できず→かおり「いつも大きい花だからじゃない？」かずき「そうだね！」→布で大きな花を作る演出に変更
19:51	シーン終了	のぶお「どういう人がいたら離れられそう？」ちあき「守ってくれる人が居たら」→ちあきの発言を下にプランが決定
19:53	ちあきと「たまご」のシーン→子どもが欲しかった夫婦登場のシーン	ちあきは「たまご」を撫でている。横から、かずきとかおりがやってくる。2人の夫婦のやり取りが続いていく。
19:54		コガキョ「はる、たまごどう？」 はる「いいかんじ」
19:59	ゆるっと再スタート	のぶお、手紙を読み上げる。かおりは白布を花に見立て、かずきに手渡す。かずきは、手渡された白布を揺らしている。
20:00		のぶお「くまのすけははるってことで」→かおり、ぬのちゃんをよよししながら「はる…」と呟く
20:04	オープニングのシーン(修行→スナイパー)	のぶおがたいせいの手紙を読み上げる。シーンが始まってもなかなか動けない→こがきよの手招きで動き出し。
20:05		布を忘れてた！(ゆり、かおり、かずきのシーン)→はるが布を取りに行きあげる
20:07		魔法使いになったゆり、くるくる回って登場
20:10		ちあきがマジック用のステッキ(?)を持ってきて、ゆりちゃんに見せる。そのステッキは手を離すと、大きくなる仕様で、ちあきの手を離れた瞬間、ステッキが伸び、ちあきは伸びたステッキをキャッチする。それを見たゆりちゃんは、床に倒れこむ。
20:15	まとめ	こがきよ銀シートを頭に→かおり、拍手。かずき「かわいー！」。のぶお「みんな着てきたい衣装ある？」。ゆり「やっぱり星がいい、な」

ももち文化センター 表現の面白さを体感するワークショップ 進行記録  
第10回

日程	2020/2/1
時間	14:00～16:30
会場	ももち文化センター練習室→大ホール

座組み

メイン進行	五味伸之(のぶお)
アシスタント	古賀今日子(こがきよ)
アシスタント(記録)	田村さえ
ももち文化センター	江上
検証	中山博晶
インターン	大和真彩子

参加者	6名
	たいせい、ちあき、かずき、はる、かおり、ゆり
見学者	3名

Time	全体の流れ	記録
14:10	記録開始前 かおり、はる、たいせい、 ちあき、の順に入室。	“ちあき、入室時に泣いていた。”
14:12		全員衣装を着ている。各々前身黒を基調とした衣服を着て、銀色の耐熱シートでアレンジを加えている。 はるは熊の耳と法被、かおりはエプロン、たいせいは鉢巻きなど衣装を持ち寄る。
14:16		こがきよ「法被作ったら？」→たいせい「難しい」かおり「作れるよ！しらんけど！」 →その場の皆で衣装を作る流れに。
14:20	ゆりちゃんが到着	“こがきよ、たいせいにははっぴをつくる。たいせい、うーん。という感じ。ちあきも衣装がまだできてないので、コガキョが今のうちに作ろうかと話す。” 仁田野さんが練習室に入ってきて、「ゆりちゃんが来ました」と、参加者全体に言う。ゆりちゃんが入ってくると、ゆりちゃんの衣装に星(銀色の耐熱シートを切り貼りして作成)がついていることを見つけたはるが「つけとる。かわいい」と声をかける。 ゆりちゃんの背中側にも星がついていた。
14:23		こがきよが、銀色の耐熱シートで、羽を作り、ちあきにつける。のぶお「似合いそう！いいね！」ランドセル見たいな羽。ちあき、少し笑う”
14:24		ゆりちゃんとかおりが2人で何か話している。
14:26	かずき到着	のぶおが、「かずきが3時前に着くみたいだから・・・」と言っていると、練習室内にかずきが入ってくる。のぶおが「あっ、かずき来た」というと、かずきは笑顔で「来たよ」と返す。
14:29	のぶお、WS始める	輪になってのぶおの話を聞く。いつもよりも顔く頻度が高い。 ”のぶお「おはようございます。 ここで40分やって、向こうに行く。 コガキョと一緒にいく。荷物持っていく”の「(衣装)銀ピカのもの作ってきたね。」
14:35	お茶会→影→最初のシーンのポーズ	のぶおが説明しながら、シーンは進んで行く。前に横並び。かずき、照れ隠しからこがきよの顔をちらちら確認
14:37		ゆり、なかなか布をひろげられない→かおり、手伝って布を開いてあげる
14:39		はる、後ろでポーズを決める(ちあき似)→ちあきのポーズを見て違うポーズに
14:40		のぶお「あるところに一人の少女がいました。また、あるところに、1人の男、かずきと、1人の女カオリがいました」というと、名前を呼ばれた人が出てくる。
14:41		かずき、かおりから手渡された、湯飲み(白布)の中に、魔法の粉を入れる。

14:42		のぶおのナレーションに合わせて、シーンは進んで行く。	魔法使いゆりちゃん、一回転して登場。自分で考えた演出
14:43		のぶおとはる、2人で打ち合わせして、はるは、赤ん坊をあやすような仕草をする。	
14:45		ちあき→はる(ポーズを見て)「きつそう」はる「きつい(笑)」→後ろの列のグループは長く止まれるポーズがいいよねという話→はるはポーズを維持しやすいものに	
14:46	お茶会のシーン→魔法使いのシーン	のぶおのナレーションが入る。かずきは、魔法の粉を入れ、ゆりちゃんに渡す。そして、かずきは、手をすり合わせ、祈る。	
14:48		のぶおのナレーションに合わせて、ゆりちゃん、お茶を飲み干す。そして、ゆりちゃんは、顔を下に向け、魔法の杖を回す。ゆりちゃんは、フードを深くかぶる。	
14:49		ゆりちゃんのつえに合わせて、ちあきが登場し、はるを「子どもくれー」と追いかけていたかずきを蹴る仕草。	
14:50		ゆり、ちあきに合図→ちあき、かずきにけりを入れる(スロー)→かずきもちあきの蹴りと同じ速度でスローに倒れる	
14:52		はる→ゆり「ステッキ使いが上手」 ”のぶお「ちあきがかずきをたおしたあと、かずきのたうちまわって」と演出。”	
14:54		倒れこむかずき。その様子を見るかおり。ガッツポーズをするちあき。たいせい、こがきよと通行人としておろおろ→小股で歩いて焦りを表現。そして、のぶおは、ちあきの手紙を読み上げる。すると、少しずつ、ちあきは落ち込んでいく。	
14:55		のぶおは、シーンを止めて「かずきめっちゃ良かった」と声をかける。こがきよは、最初のシーンで止まっている状態から、「なんか、見てる人になってもいい？」と尋ねると、のぶおは、「いいよ」と答える。	
14:56		こがきよは、たいせいに「一緒に見てる人になろう」と話しかけている。	
14:58	ちあきの手紙読み上げからスタート	のぶおが、ちあきの手紙を読み上げる。すると、座っていたはるが立って、「こんな日もあります」と言う。 のぶおは、「このとき暗くなります。プロポーズのシーンにな* *」と参加者に伝えている。	
14:59		のぶおは、手紙を読み上げる。「・・・恋の予感」というと、プロポーズのシーンが始まる。3組のやり取りが終わると、のぶおが泣き始める。かずきが、のぶおの前に行き、手紙を書く仕草。	
15:01		かかっていた音楽がfade outすると、ちあきが「あーあ私も恋したいな」と言いながら、舞台中央で立っている。そこに、たいせいが登場し、2人のやり取りが始まる。ゆりとたいせい→ゆりがリードしてしばらくぐるぐる回る→カップル成立後はたいせいがリードしながらはける	
15:04		のぶおは、シーンを止めて、たいせいに、のぶおの声に合わせて手紙をキャッチできるか確認する。	
15:08		たいせい、昨日はおぼつかなかったちあきと合わせるシーンも今日はリードしている	
15:09	たまごのシーン	音が切れると、はるが「こんな日もあります」という。	
15:10		たいせいとちあき、はるに白布をかぶせる。	
15:11		のぶおのナレーションで「別れに驚かないでおこう」という声が入ると、暗転。	
15:12		こがきよが、ゆりちゃんを照らしながら、2人でちあきのもとに近づく。ゆり、とても小さな声で「一緒に行く？」 とちあきにささやく。	
15:13		ゆりちゃんの魔法のじゅうたんにのらなかつたちあきは、白布で覆われているはる(たまご)を撫でる。	

15:18	オロナミンC	こがきよが「これは何ですか」と尋ねると、どの人も「オロナミンC」ですと答える。こがきよ「これは何ですか？」のくだりは回数を増やす(ゆり、たいせい、かずき)→各々のオロナミンCですの言い方が違っていて笑いが起きる
15:19		リハーサルが15分おす連絡あり。
15:21		のぶお、赤ん坊の受け渡し方をかずきに指示
15:27	休憩(5分)	のぶおが、「分かった？流れ」と尋ねると、かずきが「うん・・・」と答える。
15:35		”のぶお、かずきに腹巻きをつくってあげる。どう？と聞くと、かずき「大丈夫！」”
15:36	荷物をまとめ始める。	
15:38	移動	
15:47	ホール到着	の「最初から確認しましょう。」
15:48		コガキョ「上に上がってみよう、裸足かな」
15:49		以後、シーン確認

ももち文化センター 表現の面白さを体感するワークショップ 進行記録  
第11回

日程	2020/2/2
時間	10:00～16:40
会場	ももち文化センター練習室→大ホール

座組み

メイン進行	五味伸之(のぶお)
アシスタント	古賀今日子(こがきよ)
アシスタント(記録)	田村さえ
ももち文化センター	江上
検証	長津結一郎、中山博晶
インターン	大和真彩子

参加者	6名
	たいせい、ちあき、かずき、はる、かおり、ゆり
見学者	3名

Time	全体の流れ	記録
10:00		のぶお、はるな、かおり、ちあき、こがきよ、かずき、たいせいがすでに集まっている。 のぶお「たいせいにお願ひがあるけん」といい、オロナミンCに関する段取りを確認。
10:07	リハーサル	オロナミンCのくだり(ちあきとたいせいのところ)を確認。
10:12	ゆりちゃん来る	ゆりちゃん、お姉さんと来る。ゆりちゃんが星のマークがついた服をきているのをみんなで盛り上げる。のぶお、長津にオロナミンCをわたし「たいせい、長津さんがいまからオロナミンCを飲むけん、飲み込むところをよく見といて」と。
10:16	やまと来る	やまとさんも、同じくオロナミンCを飲まされる。
10:22	リハーサル	プロポーズのシーンのリハーサル。
10:46	移動開始	
10:50	ホール内で打ち合わせ	
10:54	ゲネプロ準備	全員上手袖へ。こがきよ「じゃ、がんばりましょう」
11:04	ゲネプロスタート	
11:30	ゲネプロ終了	

本番(14:15頃～36分間)

本番終了後

	直後、ロビーで振り返り	のぶお「お疲れ様でした～」とみんなで、拳と拳を合わせてあいさつ。 ぼっちりだったね、とロ々に。
	ロビーから控え室に戻る	たむたむ、ビデオをとりながらかおりに「どうでしたか？」と聞く。「終わったいまの気持ちは？」とかおり「いえーい」と。ゆりちゃん「星があったので、やった！と。」
	乾杯	控え室に戻り、のぶおが「お茶の乾杯をしましょう～」とお茶を配っている。かずき「終わった～」と安堵した表情。かおりがお茶をスタッフにもつぎまわる。のぶお「はい、じゃあみなさんお疲れ様でした～」の合図でみんなで乾杯。
		着席して10分ほど談笑。

		テレビの取材が来て、全員会場にもどる。
	テレビの取材	はる「ワークショップを何回か重ねてきて、自分の心の変化とか成長があって、みんなとの一体感を感じて、ステップアップして劇場、公演に迎えたので、安心感も達成感もあったし、みんなにここにこしてよかったなと思っています。お客さんのキャッチボールみたいなもの感じられたので楽しかった。機会があれば続けていきたい。私の場合は自閉傾向が強いので、自分の体や声をつかって表現するというのが苦手で閉じこもりがち。一緒に取り組んでくれる仲間がいたから刺激をうけて、がんばりたいと思ったり、新しい自分をみてみたいという気持ちが湧いたりした。表現として舞台上であらわすというのが楽しいと思った」
		ゆり「自信を持ってできました。100点と言いたい。これからも頑張っていきたい」

本番(最後のカーテンコール)

	控え室に戻る	みんなで記念撮影
	振り返り	参加者全員→記録者→ご家族の振り返り

終了、アンケート、退出

ももち文化センター 表現の面白さを体感するワークショップ 進行記録  
第10回

日程	2020/2/7
時間	19:00~20:10
会場	ももち文化センター小ホール

座組み

メイン進行	五味伸之(のぶお)
アシスタント	古賀今日子(こがきよ)、野中香織(そら)
アシスタント(記録)	田村さえ
ももち文化センター	江上、糸山
検証	長津結一郎、中山博晶

参加者	6名
	ゆり、ちあき、かおり、たいせい、
見学者	1名

Time	全体の流れ	記録
18:45		ちあき、ゆり、かおりがもう到着している。映像投影のためのセッティングにのぶお、こがきよ、長津がばたばたしている。かおりがおやつをみんなにひとりひとり配りはじめる。つづいてたいせいくる。
18:53		こがきよ、ちあき、ゆりで踊り始める。
18:58		盛田さん来る。
19:00	あいさつ	のぶお、「きょうはみんなで映像をみる会です、おつかれさまでした。」といい、パンフレットに寄稿した文章を読み始める。みんな聞いている。
19:02	記録映像の上映	上映中、たいせいが夜景探検隊のシーンで何かつぶやいている。
19:28	感想の共有	のぶお「はじめて真っ正面から見た。たいせいが目が赤い」と言う。それぞれに感想を聞く。 ゆり「・・・なかなか言えない」 ちあき「ちゃんと正面から見ていなかった。うしろで何をやっているかは知らない。みかな一生懸命、ちゃんとした動き。度胸ある」
		かおり「3ヶ月くらいやってきたことが、いろいろしてきたなー、練習してきたなー、とか」と言い、涙を流し始める。「みんなと楽しくて、出会えてうれしかったなって。迷惑かけてるかなとか…。みんなと仲良くなれてよかった」
		たいせい「オロナミンCに水が入っていてびっくりした。いい本番だったと思います」
		こがきよ「おしぼいって自分も参加していると見えてないことがたくさんある。たくさん見えて、一緒につくってたなど。かおりとのシーンで、あんなにちあきが応援してくれているのに気づかなくて、愛がいっぱいの作品で、自分が気づいていないものに応援してくれてる。ちあきが「善と悪」のとき、はるが赤ちゃんを心配してみてる。すごい役者さんたちと、すごい作品を作れた」
		のぶお「はじめて見て、誰とみてるかってことも楽しみ方。こういう場でこう見てるってことで喜びがある。お話をみんなで作って、みんなで作ってるから。なんでオロナミンC?ってお客さんは思ったのかもしれない。知らない人には「ふーん」なんだけど、あれはあの瞬間のあれ、誰とどう過ごしているかが大切な時間。」
		盛田「今日は安心して見ていられた。当日は見る方も緊張していた。積み重ねて見てたので。すごいのは、ちょっとずつリハで変えてもとまどいを見せずに自然だったこと。大きく見える気分。1人1人堂々としている。すごいなって改めて思いました。」
		こがきよ「最後のリハでみんなから「そこ違うよ！」って言われた。一緒につくってるんだなって。仲間なんだなって思ったりしました。」

		糸山「テーマが壮大で、どうするのかと戸惑っていたが、見る人も味わえたと思う。よく、きちんと段取りどおりにできてよかった。年代に応じてできるテーマだったとしみじみ思う。アンケートもいい感想があった。次年度も違う形が見られれば。」
		そら「堂々としていて、前日のリハの段階だと舞台を知っている人だと「どうしよう」ってなるくらいだったけど、それがなかった。舞台は何か起きるかわからないけれど、いろいろ挑戦を繰り返しているから、「この仲間だったら大丈夫」っていう安心感や自信があった。出たものがすべてです、っていう。何かやってやろう、うまいやつになりきろう、ではなく。この空気感がいい。すごかった」
19:46	打ち上げ	のぶお「かんぱいしよっか」の声とともに、打ち上げ会場(いつもの練習会場の中に特設会場)に移動。みんなでお茶をつぎあう。
		かおり、みんなに持ってきたおやつを配り始める。ひとりひとりに、スタッフ全員分もあって、「すごい」との笑い声が上がる。「いっばいつくったねえ、どうもありがとう」。
		のぶお「3ヶ月みんなと一緒にできて楽しかったです。すばらしい時間でした」と、乾杯。
		こがきよ、かおりのおやつに「だいじにとっときたいけど、いま食べるのが一番おいしいよね」と食べる。のぶお「やばいおいしいんだけど」と。のぶおまた泣き始める。
19:51		のぶお「一番最初なにしたっけ？」と、振り返りをはじめ。みんな笑いながら思い出し始める。かおりがよくしゃべっている。
		かおり「どこにいても笑ってごまかしてたけど、こがきよさんがサポートしてくれて・・・」と泣き始める。こがきよ「私すっかり友達になったわ」
		その後も口々に、たいせいが「なんでそんなに動じないのか」という話、探検隊のあとのライトの受け渡しがあまくいった話、ちあきの羽がいつのまにかひっかかなくて回れるようになった話、ゆりちゃんの魔法の杖どれくらい練習したのという話など。
19:58	手紙の時間	のぶお「みんなに手紙を書きました」と切り出す。手紙にはイラストがついていて、第1回目に制作した絵が書かれている。 かおり、ゆり、ちあき、たいせい、そら、こがきよ、こうすけ(お母さんに代読)、ちひろ(ちあきに代読)の順番に、のぶおが手紙を読んで渡していく。みんなしっかり、じっくり聞き入っている。はるとかずきのぶんもある、といい、この場にはいないのだけれど読み始める。
		のぶお「今回家族をテーマにしようと思ったときに、ちょっとずつ家族らしいことをやってみようと思った。見学できてくれていたお母さんたちとかも一緒にシーンで喜んでくれたり、どきどきはらはらしながら見てくれた。本当のことじゃないものなのにどきどき、わくわくするいい時間だった。ありがとう。また会いたい」
20:07	劇団名?	名前についてどう思いますか、とのぶおが切り出す。特にアイディアが出ず、持ち越し。のぶお「再会するときの宿題にしよっか」と。
20:09	観察者からの振り返り	記録者から一言感想。そうせき「今日、本番を見るのは当日に続けて2回目だったけど記録をとるのを忘れる瞬間がけっこうあった」たむたむ「ビデオ取りながら、はらはらしながら本番を見ていた。応援するばかりで。今日改めてちゃんと見て、ひとつの作品としてもきれいだった」(途中でビデオテープが止まる)
20:15頃		終了



## 2. アンケート結果と配布したアンケート

### ■アンケート対象者と設問

ワークショップ終了後に、その場にいる全員にアンケートを配布しその場で回収した。  
(ただし、第10回(本番前日)・第12回(最終回)は回収できず、第3回はファシリテーターから回収できなかった)

アンケートの母数は以下の通り。

回数	参加者	ご家族	ファシリ	スタッフ
1	8	3	3	3
2	8	5	3	5
3	6	4	0	3
4	7	2	2	2
5	10	4	2	2
6	7	3	2	2
7	5	3	2	2
8	7	2	2	4
9	7	2	2	2
10	0	0	0	0
11	6	5	2	3
12	0	0	0	0
13	0	0	0	0
14	0	0	0	0

アンケートの設問は、当初構築したロジックモデルに基づいて、参加者とそれ以外に共通の設問として「ワークショップへの安心感」「自由な表現が生まれたか」「参加者同士の関わりの変化」「表現が新鮮なものであったか」という点について伺い、5段階で評価をしてもらった。また、参加者以外には「参加者に合ったプログラムであったか」「参加者の意見に基づいた表現であったか」ということも伺った。それを集計時に点数化した。

### ■アンケート結果と考察

結果の概略は以下の通りである。全期間を通し概して設問項目に関する数値は4.5を超えるものがほとんどであることから、今回立てた目標については高い形で達成されていると

アンケート結果（全体の平均。4.7 以上に下線）

	参加者	家族	ファシリ
ワークショップの安心感	<u>4.85</u>	<u>4.85</u>	4.52
合ったプログラム		<u>4.76</u>	4.69
自由な表現	4.66	4.49	<u>4.74</u>
参加者同士の関わりの変化	4.43	4.49	4.46
意見に基づいた表現		4.52	4.63
表現の新鮮さ	<u>4.84</u>	4.62	4.63

言えるだろう。なかでも、参加者にとっては「ワークショップの安心感」や「表現の新鮮さ」が極めて評価されており、家族にとっても「ワークショップの安心感」が高く評価されている。一方、ファシリテーターにとっては「自由な表現」が高く評価されている。

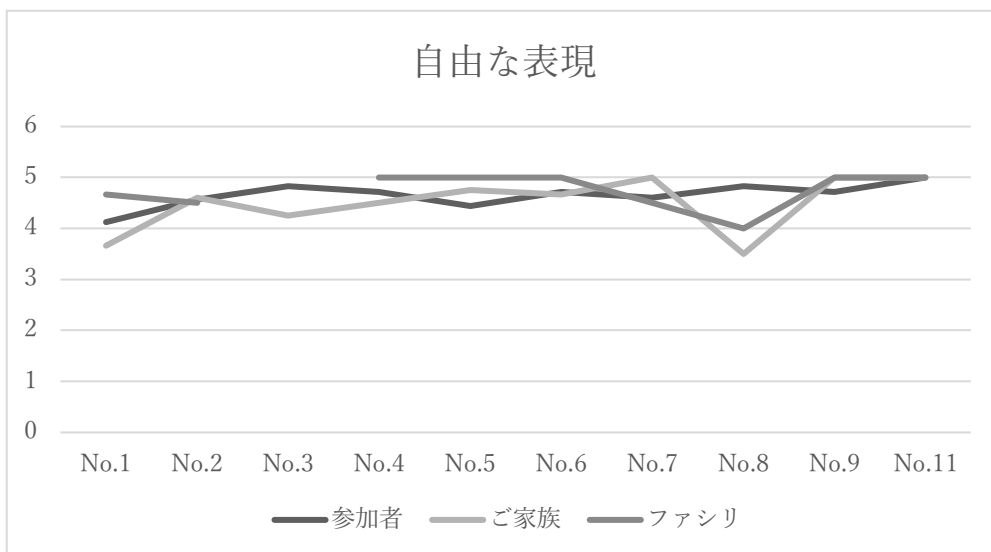
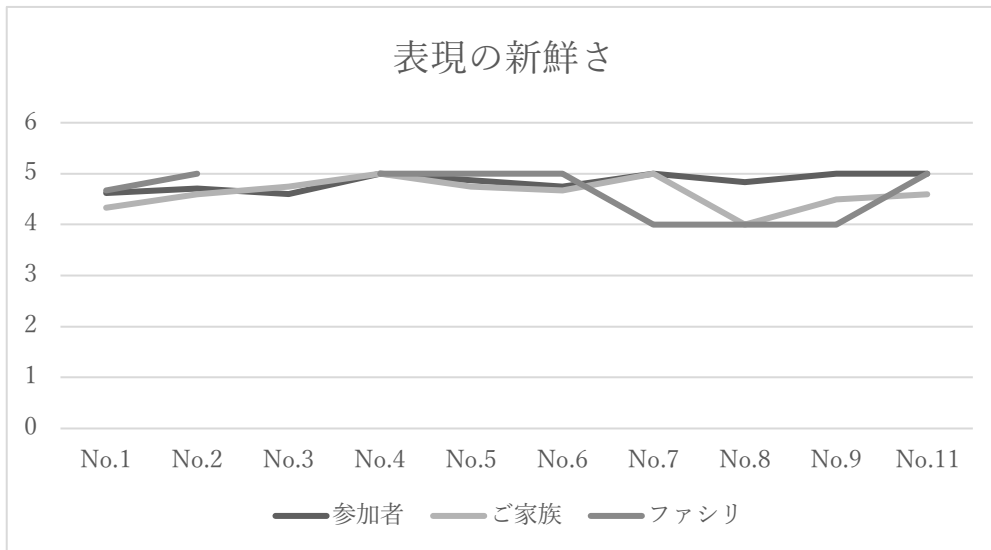
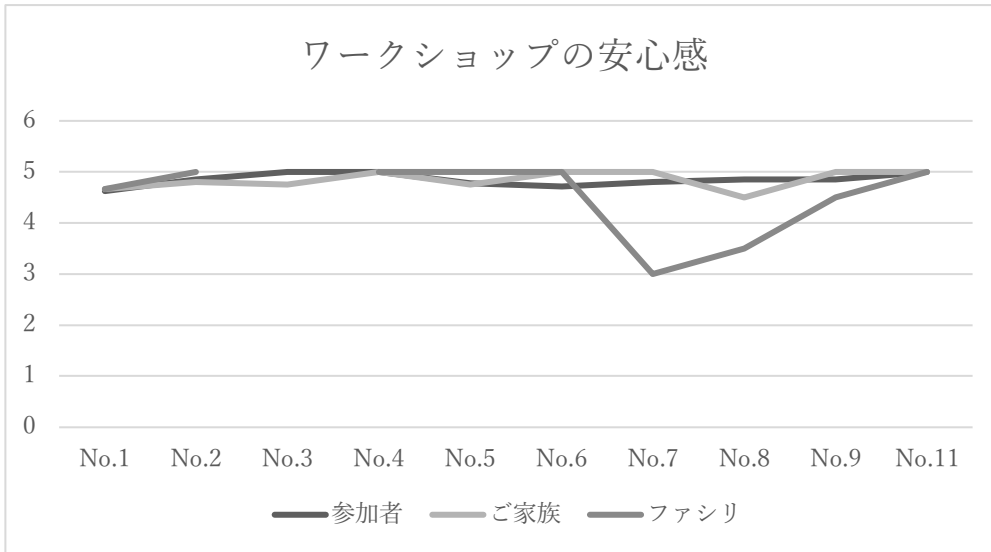
カテゴリごと比較してみると、「ワークショップの安心感」についてファシリテーターは他のカテゴリの人々よりも過小評価している様子、また、「自由な表現」についてはファシリテーターや参加者よりも家族が過小評価している様子、「表現の新鮮さ」は参加者が他のカテゴリの人々よりも過大評価している様子がうかがえる。

また、それぞれの回ごとにどのような変化があったかを表したグラフを次ページ以降に掲載した。ここからは、特に第7回～8回のファシリテーターの「ワークショップの安心感」、第8回のご家族とファシリテーターの「自由な表現」が他と比べて幾分低くなっている。

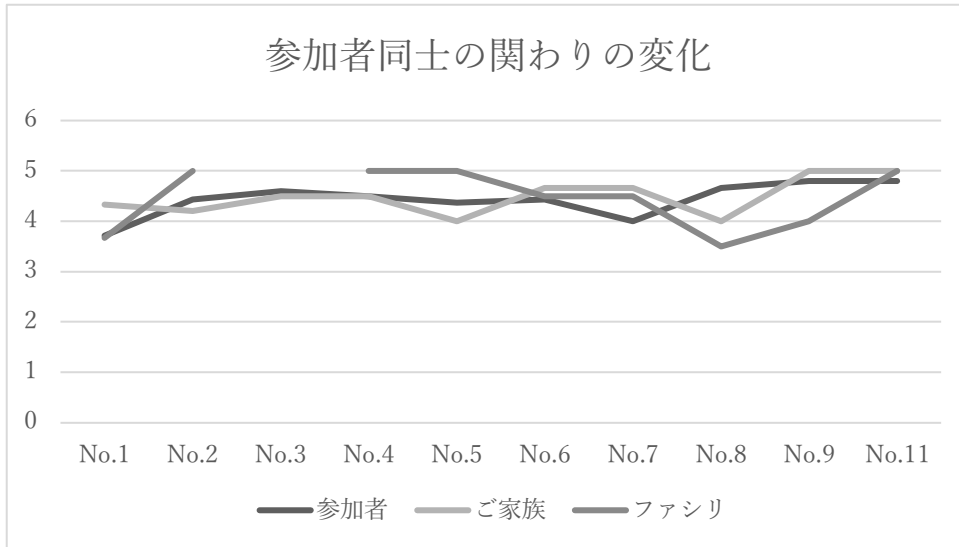
これは、第7回については会場が異なることなどによりいつもと違った環境であったことが要因ではないかと考えられる。（ファシリテーターからは「開始前、新しい場とか準備できない環境。一つの場にふくすうの目的のこんざつきがあると集中できない」「場所が違うのと、まわりの声など、かんきょうがあまり良くなかったところがあり。いつものリラックスの空気はさすがに。」という声があがっていた）。

第8回については、本番が近づくとつれての不安感や焦りが現れていたことが要因ではないかと考えられる。（ファシリテーターからは、「みんなでお話をつくろとはいっていたがやはりファシリテーター主導で進んでいた」という声、家族からは「ステキなお話しは出来たけど、表現とのギャップがあるのでは？もう少しわかりやすくは次回なのでしょうか。」という声があがっていた）

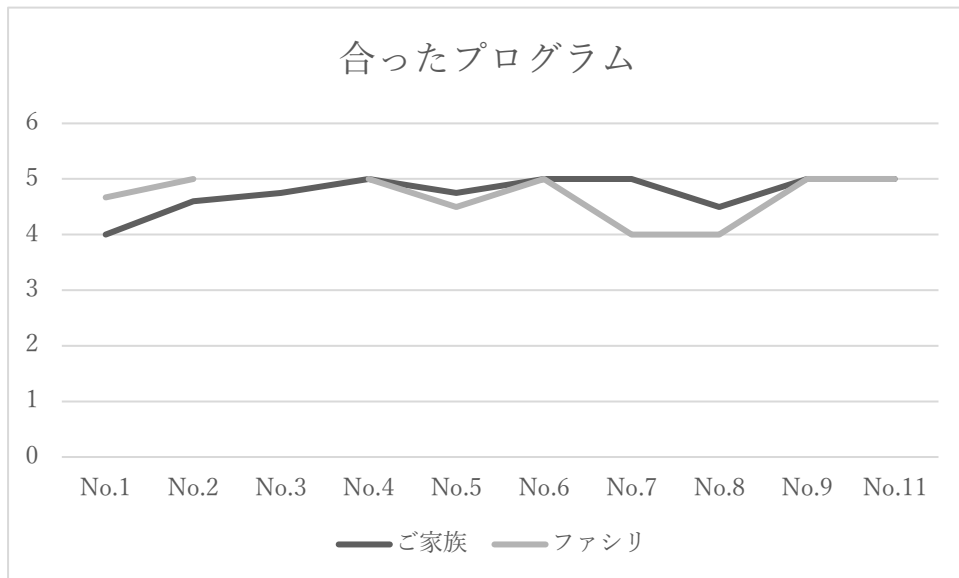
こうしたデータについては今後精査のうえ、次年度の考察につなげていく予定である。



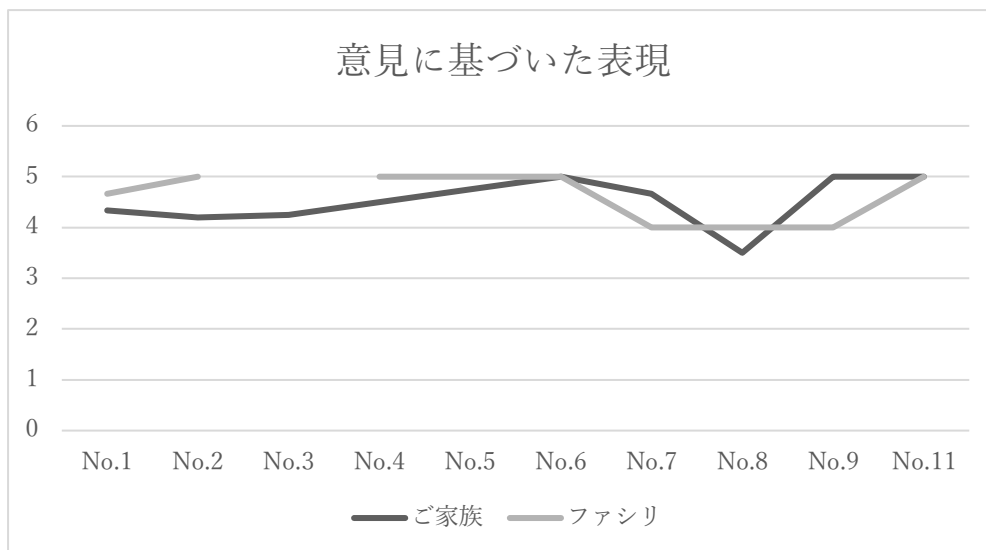
### 参加者同士の関わりの変化



### 合ったプログラム



### 意見に基づいた表現



■ アンケート用紙 (3 種類)

もち文化センター 表現の面白さを体感するワークショップ 参加者アンケート

お名前 \_\_\_\_\_ 日にち \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ( \_\_\_\_\_ )

■あてはまるものに、○をつけてください。

1. ワークショップに、安心して参加することができましたか。

できた ややできた どちらでもない ややできなかった できなかった

そう思った理由や、具体的なエピソードがあれば教えてください

2. ワークショップで、思いついたことを自由に話したり、表現することができましたか。

できた ややできた どちらでもない ややできなかった できなかった

そう思った理由や、具体的なエピソードがあれば教えてください

3. 参加者の中で、新しく仲良くなったり、親しく話すような人はできましたか。

できた ややできた どちらでもない ややできなかった できなかった

そう思った理由や、具体的なエピソードがあれば教えてください

4. 今日ワークショップで体験したことは、あなたにとって新鮮なものでしたか。

できた ややできた どちらでもない ややできなかった できなかった

そう思った理由や、具体的なエピソードがあれば教えてください

5. そのほか、今日の感想を自由に書いてください。裏面を使っても良いです。

\*このアンケートは、主催者からの委託により、九州大学大学院芸術工学研究院長津研究室が行なっています。

もち文化センター 表現の面白さを体感するワークショップ ファシリテーターアンケート

お名前 なまえ \_\_\_\_\_ 日 ひ にち \_\_\_\_\_ 月 がつ \_\_\_\_\_ 日 にち ( )

■あてはまるものに、○をつけてください。

1. ワークショップの最中、参加者が安心して参加できていたと思えますか。

思う やや思う どちらでもない やや思わない 思わない

自由記述欄

2. 参加者に合った声かけやプログラムが実施されていたと思えますか。

思う やや思う どちらでもない やや思わない 思わない

自由記述欄

3. 参加者やファシリテーターが、自由に考えのやりとりができ、自分の想いや考えを表現し合っていたと思えますか。

思う やや思う どちらでもない やや思わない 思わない

自由記述欄

4. 参加者同士の関わりの変化はあったと思えますか。

思う やや思う どちらでもない やや思わない 思わない

自由記述欄

5. 参加者の意見に基づいた表現が生まれていたと思えますか。

思う やや思う どちらでもない やや思わない 思わない

自由記述欄

6. 生まれていた表現が参加者やアーティストにとって新しさがあったと思えますか。

思う やや思う どちらでもない やや思わない 思わない

自由記述欄

\*このアンケートは、主催者からの委託により、九州大学大学院芸術工学研究院長津研究室が行なっています。

ももち文化センター 表現の面白さを体感するワークショップ 見学者などへのアンケート

お名前 なまえ \_\_\_\_\_ 日 ひ にち \_\_\_\_\_ 月 がつ \_\_\_\_\_ 日 にち ( \_\_\_\_\_ )

■あてはまるものに、○をつけてください。

1. ワークショップの最中、参加者が安心して参加できていたように見えましたか。

そう思う ややそう思う どちらでもない ややそう思わない そう思わない

自由記述欄

2. 参加者に合った声かけやプログラムが実施されていたように見えましたか。

そう思う ややそう思う どちらでもない ややそう思わない そう思わない

自由記述欄

3. 参加者やファシリテーターが、自由に考えのやりとりができ、自分の想いや考えを表現し合っていたように見えましたか。

そう思う ややそう思う どちらでもない ややそう思わない そう思わない

自由記述欄

4. 参加者同士の関わりの変化はあったように見えましたか。

そう思う ややそう思う どちらでもない ややそう思わない そう思わない

自由記述欄

5. 参加者の意見に基づいた表現が生まれていたように見えましたか。

そう思う ややそう思う どちらでもない ややそう思わない そう思わない

自由記述欄

6. 生まれていた表現が参加者やアーティストにとって新しさがあったように見えましたか。

そう思う ややそう思う どちらでもない ややそう思わない そう思わない

自由記述欄

\*このアンケートは、主催者からの委託により、九州大学大学院芸術工学研究院長津研究室が行なっています。

## ■アンケート自由記述

(設問は問わず、回ごとにまとめて記載)

### 【第1回】

#### ○参加者

- 余裕を持ってバスに乗ったつもりが遅れてしまい、ドキドキした状態で入ったので、落ち着かないまま終わってしまった。皆さんの関係性の中に入ってゆけるか、ちょっと心配になった。
- 全員の意見を否定せずに取り入れようとしてくれた
- 否定の言葉が出ないこと
- みんなのアイデアの全てを大切に活かそうとするスタイルに安心しています。
- みんながやさしくて、とっても仲が良い仲間なので、楽しく、練習に参加できて、本番を迎えられたらうれしいです。
- 話しやすい環境を作ってくださっていたと思います。
- 言うことや表現することを面白がってくれたり、興味を持ってくれるので、表現する不安が軽くなった。
- 体を扱うことが苦手で体を使った表現をむずかしく感じてしまった。
- 自由にと投げられるより、ある程度テーマがあれば私は楽かもです。
- 新しい表現で、自分の気持ちをちゃんと、形で表すことができたと思う。
- まだ初回なので…
- いつも話さないメンバーと会話ができたこと
- 前回ペアをくんで練習に取り組んだ中で、ちひろさんと仲良くなれたことがうれしかった。また新しい人と仲良くなれたらいいな、はるなさんと初めて話せてうれしかった。
- またむずかしかったです、でも楽しかったです。
- 絵のイメージからお話を作るのがおもしろかった。
- ゴムのやつとか絵を描くのが面白かった
- とにかく否定されない環境というのが最高にありがたいです
- 久しぶりに安心する場所に来たことで体が解放される感覚がありました。
- 否定されないはやっぱり最高！
- 自分が書いたものがインコの後ろ姿かと思ったらサボテンになっていたと思わなかったけどすごくびっくりしました。
- 絵を描きました。
- 最初は久しぶりの練習だったので、きんちょうしましたが、めっちゃ楽しくて笑って、



できて良かったです。やっぱりこの仲間で、練習する時間は、私にとってうれしい、楽しい時間です。次の練習も、頑張って参加します。

#### ○ファシリテーター

- ゆっくりとした時間が安心につながったと思う。それと、前回参加してくれている人たちの力。
- 初めての人はやっぱり少しキンチョーしていたかな。
- 一人の時間のかくほに注意しました。
- 絵がよかった！がっつりと向き合うものでありながら、クッションのある感じ。
- ゴムのワークの縄の方、次のワークへの次方が甘かった、と反省
- つくるところ、Pickup は、ファシリテーター主導の部分がある。
- グループワークの時に、はずれてる人がいなかった。こうすけが嬉しそうだったこと
- かおりさんが、おちついて場にいられたこと
- ハルナさんが表情がどんどんやわらかくなっていました。前回クールからの引き続きのメンバーは変化があった。ちひろの関わり方など特に。あとこうすけの決め台詞とか。
- 前回からの参加者たち同士の Home 感、連帯感が見えた
- けっこう話し合いの中で何パターンも二転三転して
- テーマは与えたものの、生まれたものが個性が出ていた。
- ゆりちゃんの多方向からのかくこと。ゴムのうごきの自由さ。
- ゆりちゃんの絵！みんな色のあたたかさ。人の体を角度をかえてみつめている感じ・・・

#### ○ご家族

- 初回でしたので、緊張しているようです。
- 声かけを小学生がわかるくらいに伝えてほしい
- 第1回目なので、言われるように参加していたと思う
- 楽しそうにしていた
- 前回と同じ場所、見覚えのあるメンバー…安心感があったように思う
- 何をすればいいのか、本人に十分理解できていないのかなと思えた。全体支持だけだと少し時間がかかるかも（周囲の様子見をする）
- まだどこまで表出しているのか、何をすれば OK なのて（NO と言われないか）さぐりながらのような気がした。
- ペアを組む時、自分から近寄って声かけをしていた。意外な一面を見た気がした。
- 第1回目なので、言われるように参加していたと思う

- 楽しそうにしていた

#### ○スタッフ

- たくさん笑顔が見れた。ゆりとかずきの顔が特に印象に残った。素敵だった。
- 初めて参加するハルナさんやカオリさんは緊張した様子にも見えたが、他のメンバーが前年も参加しているということもあり、楽しげに参加していたように思われる。
- 「絵を描く」説明が伝わっているのか不安だったが、周りのファシリテーターや、理解した参加者が、実際にやって見せたことで、プログラムの内容を理解したように思われる。
- 特にお互いの絵を描く時は、それぞれのペアで違った向き合い方があった。
- 一部参加者は、まだ場になじむことができていないようにも見えた。
- 元々、知っているメンバーが大半だったから初めから悪い空気ではなかったので／でもどどんなじんでいった！
- この短時間ではわからなかった
- 物語を考えると、かなりリードしていた気がした。それによって後半の盛り上げを作ってたからいいのかもしれない。
- 参加者が描いた絵やアイデアを軸に、表現（作品）ができていたと思う。
- 色使いなどのリアクション！
- 様々な参加者が表現に関わることで、1人では思いつかない表現が生まれていたように思う。

### 【第2回】

#### ○参加者

- 今日は時間に遅れず参加できたことと、みなさんが優しいので・・・
- プロポーズがおもしろかった
- みんなと仲良くできたから
- 自閉のところがあるので、うまく話せないけれど、ちょっと口にした言葉を拾ってくださったり、助けていただきました。
- おもしろかった
- 4人夜景深してる感じ見たいだった。
- カッコいいのをやれた。プロポーズのやつ。
- 楽しかった
- 仲良くなれたらいいなーと思っています。私は表現が苦手なので、親しくなれるかな？

- 会話ではなく体の表現を通しての交流は安心する。ウソをつかれたりする不安がないので、早く仲良くなれる気がする
- のぶおとこがきょ。最初の頃より仲良くなった。キンチョーしなくなった。
- 楽しかったです
- 全部新しい体験でした。
- 他のメンバーの動きや表現が新鮮で、毎回発見がある
- 思った形で歩く。考えながら。
- みんなでなにかするってたのしいです
- 楽しかったです。
- みんなと友だちしゃべることができたのをたくさんりました。これからもがんばりました。

#### ○ファシリテーター

- ゆっくりと、NO 音楽
- かおりのラムネをみんなでたべたり
- 即興劇の題材が良かった
- 前回「言葉」の分かりやすさについてお母様のアンケートがあり、今回はより、声かけの言葉えらびがていねい。動きでの説明がたくさんあったのもよかった。
- 表の形の千差万別館／中身は思う
- とても
- 全体歩きの時のゆりちゃん
- 前回より近い
- 表現がそのまま出ていたと思う
- 出会だけの生感
- 即興でやると、よりみんなのことがよく見えてたのしかった！

#### ○ご家族

- 御座敷遊びは理解するのがむずかしそうだった。抽象的なことの理解はむずかしいかな？
- 練習の日は、とても楽しみにして参加しています。
- 徐々にできていく、前回より少し早い、短い時間で
- 笑顔がたくさん見れて、皆さんと楽しく参加できた。
- 音声だけでは少しとまどいもありつつ、プログラムとしては面白い。

- 模写しながら、頑張っていたと思います。
- 表現力が、少しずつ、伸びてきた
- 言葉で表現しようとするのが難しいようにみえたが、体や動きで表現するとそれなりに
- 今日の内容が、人と人との関わりを体で表現できた。
- たがいを意識できるようになった
- 表現を言葉付けしてもらって、うれしそうでした。
- 体の一部に意識を集中して、表現する新しい動きにトライしてた。ゆりにとっては、少し難しかったかな？
- どうしていいのかとまどう様子もみられた
- 誘導してもらって楽しそうに参加できていたと思います。
- 説明されている言葉の意味が少し、わからなかった様な気がした。がんばって！人の動きはよく観察できてた様に感じた。
- わかっているのか、わかっていないのか、その解釈の加減が面白い

#### ○スタッフ

- とくにカオリは前回よりリラックスしている印象だった
- WS 始まる前、かおりさんやはるなさんが雑談していたのと、参加者動詞で話す場面が見られたため
- 今回からの参加者は、まだ少しドキドキしてるかな？と思った。
- 前回よりもリラックスしていて、さいごの円も近かった
- プロポーズは始まる前緊張感があったが、参加者もファシリテーターも楽しくできていたように思う。
- すこしおいていっているところがあるようにも（とくに前半）
- 最初のワークを見ていないので、導入部分が不明だが、かなり直球なテーマ（プロポーズ）なので、その概念に考えがおよぶのか心配した
- 声かけも自然で、たのしそう、やわらかい感じ
- 遊び（WS）のルールがわからず、ちょいちょい周りを盗み見て格好を合わせているような場面があった
- 参加者が、自分の言葉で感想を述べていたことが印象的だった
- とまどってしまい、どう動けばいいかわからずマネしたのかな？と思った部分もあった
- プロポーズする劇の反応がすなおですてきだった
- 具体的にはわからないが、最後の集まる時の円の輪が少し小さくなっていたので、参加

者同士の距離が近くなったように感じた。

- こうすけとたいせいがダイナミックだった。プロポーズを通じてすこし関係がかわったように見えました。
- 直球なワークだけに、見えないようで心は動いているように思った。
- プロポーズのシーンは、自分で考え、表現する場面が見られたように思う。
- かなり自由だったが、プロポーズ以外は様子見だったかも。
- 同じ動きでも、その人にしか出せない表現はあったと思う。
- 出会いのあくしゅ→ぐるぐるとか土下座からの派生がよかった
- 頭を下げるプロポーズにも様々なパターンがあった！
- ふだん絶対にやらない表現なので新しいと見えた。
- みんなが「ドキドキ」といっていて、新鮮な時間だったのではないかと思う。

### 【第3回】

#### ○参加者

- グニャグニャ動いて楽しかった
- 自分があやしいところのシーンがありました
- みんなとなかまになるために友たちとする
- 他のところも誰でもおもしろかった
- 前回の帰り道が同じ人がいて少しお話しできて仲良くなれたと思う
- かおりさんと話せてよかった
- 本当に良かった。いろいろな別れや出会いのえんじがあっておもしろかった
- 普段こんな場面ではこうすべき、という自分の思い込みがあったが、メンバーがその常識のようなものを打ち破っていく姿を見て、「これもアリなんだ」と思うことが何度もあった
- おかれてしまった
- 参加して楽しかったです。
- 本当に楽しかったです♡

#### ○ご家族

- 毎回、練習の日を楽しみにしているので、良かったです。
- 今日主人の現場が八女市で、バスで来ました。遅れてきたので、心配しましたが、来てよかったです。
- リラックスして馴染んできたように思える時があった→後半リラックスしすぎてねて

ました・・・

- 一人一人に声かけをしてくださることが、安心感を与えてくださってありがとうございます。
- 遅れてきた時に、みなさんが「あっ、ゆりちゃんきたー！」って言って下さったのが、うれしそうでした。
- 楽しそうに共感していた
- 女性の方とペア組むことが多いので、男性の方とペアになったらとっても照れくさそうですね
- このスベオリへの練習参加は、本当にゆりにとって楽しく、貴重な時間です。
- 指導者の様子をまねて参加していたように思います。
- もう少し自分なりの表現があってもいいのでは？
- 布を使って、自分らしく表現してた
- いろいろな人の動きをよく見れるようになったと思います。
- 自分なりに考えて、できてたように思う
- 最後の別れの表現の時に、今までとはちがった表現に挑戦できていたように思う
- 布にペンライトで光を当てる表現は、今までになく、新しいものだと思います。今日、たいへん遅くなってしまったけど、本当に、来てよかったです。ありがとうございました。

#### ○スタッフ

- かおりの発言が増えた。表情が豊かに
- 声かけでない部分、身体のコミュニケーションもあった
- 別れにくそうなとき、こうすけが引っ張って別れてあげるなど。のぶおの話より集中して聴くようになった。
- 前回よりもより信頼というか、おだやかさが増した感じがした
- ゆりとそらで足を合わせて回転など
- あったかくて、また新しい関係性だと思う。

#### 【第4回】

- みんなで話してワイワイ言って本当に楽しいです
- 時間に余裕をもってたどり着けたので。少し馴れてきた！
- ヲタ芸まさかするとは思わなかったけどとても楽しかった
- ももちパレスしはりたことです。

- 話すのは苦手なので、いつもちょっと緊張している。
- 道具があると表現の幅が広がるから、何も思いつかないことがなくて安心だった
- まゆになった光がとてもきれいだった
- みんなと話ことです。
- みんなと仲良くなってワークショップに行くのが楽しみです
- 皆さん優しい！！
- 来しく仲良ことです。
- どんどん舞台上の演出っぽくなっていっている。私はわからないまま参加しているところがあるけれど、すごいなあと思う
- 布一枚でいろんな表現ができるというのが実感できた。みんなの行動や表現・言葉から学ぶことが多かった
- はじめてのことだったから
- オタ芸、始めて取り組んだ！！皆でやると楽しい。
- 道具を使うのはいつもと違って楽しい
- きてよかったです
- メダルをかけてあげました。

#### ○ファシリテーター

- まつ時間とかっちりしていないプログラム
- 見立てること、とてもたくさんの方の見方を共有できた。かおりが、ぼつぐんに言葉数がふえて、見立てる遊びを自分から発信していた。お茶とか大きな花とか。それを受け渡していく遊びも。
- 親子の関係、「へんか」ゆりちゃんが自分1人ですすんでアンケート書いてた。全体にゆるやかさがあつた。
- こうすけとかずきが別れ際に、次回の時間をカクニンし、うでを組んでいた。はるとかおりがおそらくレンラク先をこうかんしていたようだ。
- スタートから布で遊ぶ時間でいろいろできていた
- 布だで遊ぶということで、人それぞれの広がりがあつた
- ヲタ芸！道具（布や光）を使うこと。想像力で楽しめるようになっていたのかんじた。こうすけは覚えている！！

#### ○スタッフ

- 今日のはじめからみんなとてもワークに興味を持って取り組んでいるように見えた

- くらやみの中で布をつかって楽しんでいた。
- 今日は調子の良さそうな人が多かったので、もっと参加者の考えや発言に委ねてみるのもよかったかもしれない
- 進め方もとっても自然で、無理な流れがなかった
- お互いの行動や展開に興味を持ち、反応していた！
- かずきの意見で、布をつかった別れのシーンが始まった
- 素晴らしかったです！
- 思いもよらない表現が生まれていた

### 【第5回】

#### ○参加者

- 初めてだったので不安でしたが、のぶおさんがていねいに教えてくれたので、安心できました。
- 今日のはかげと光とっても楽しくできました
- 大分馴れてきました
- 安心感のある迎え方をこれた
- 左耳のところライト付けたら探検隊になっていました。
- 思いついたことを言ったときに肯定してくれたり、いけんをきいてくれたりしたので
- 今日はあまり発言出来なかったけど、そういう体調の日もあります。
- 誰も否定しないし、関心をもってきいてくれる
- 誰かドラえもんみてるのかなって感じになっていたのがおもしろかった。
- 少しだけだったけど、新しい人とも話せました。
- ゆり ちあきちゃん
- ちひろちゃんに久しぶりに会えて、同じ班でお話作れて楽しかった。
- みんな表現を取り入れて、1つの発表をすること自体新鮮でした。
- とても楽しい時間でした
- 子も加わって楽しそうにしているよかったです。
- 音をつかった表現など、メンバーのひらめきが新鮮だった。自分ではとても思いつかないようなアイデアに毎回おどろかされる
- 連想することがたくさんあって、新鮮でした。
- 今日のワークショップも楽しかったみんなで笑ったり楽しかったです
- 本番のお話のワクが決まってきたのでワクワクしている
- たのしかったです。



- たまごになりたいです。

#### ○ファシリテーター

- 参加してる人にとって居心地のよさを感じる
- 幕を見たときに「今日は何だー？」といいながらたのしそう。空間が変わっていることにもはやキンチョーなどないほどの当たり前感。
- 「ストーリーをつくる」ということか、構成をつくるということを全体とする困難さ
- つみ重ねた時間が、もう、合わせるとかじゃなく、当たり前のキャッチボールになっている、かんじ。
- こうすけの意思表示が格段にふえた。たまごだと思う。ちひろが得意なこと意外にもしれっとやる気→他の場でも。
- こうすけとたいせいがどっしりと参加できている
- ちひろがネイルサロンのご案内をくれた。と、いうか、変わらずいいかんじ。かずきのセリフ「ぼくのポケットから出してあげるよ」かおり「ぼくドラえもん」←ものまね！など
- 好きな光と陰でやることがベースだった為
- 影絵にとりくむことが目新しさがあったと感じた
- フツーに影絵たのしかった。

#### ○ご家族

- わかっていないかも、出来ないかもと思っていたけど、ちょっと違ったかんじで表現が出来ていて、良かった
- 光と影を使って、自分の考えを話すまで面白い
- 回数がふえるたびに笑顔が自然でいいと思う
- よくわかりません
- 物の見方が遅い、それがとてもいいと思う
- セリフが出てきたのは新しかった
- つえを魔法使いにしたのがロマンと夢があって良かった
- 魔法=変身、心に変わりたいと言う願いがこめられている？

#### ○スタッフ

- 暗かったので表情での判別が難しい。盛り上がってはいたと思う
- 表現に対しての不安はもはやない

- 何をすべきかの反応もはやくなっている
- 今回は「言語化の特異な人」と「あまり得意ではない人」がいたので、関わりにバラつきがあるような気もしたが、あまり発言しない人の参加度が低いというわけでもなかった
- 今まで一番主体性がみえた
- 友人、子どもなど色々な要素が加わっておもしろかった（友達、親子、初見、仲良しとか）
- 子供が入ったことで生まれた関係性でかおりが積極的になった気がした
- 特にカズキの発信が活発だった
- ある程度のアイデア（素材）が用意されていれば、（土台が）表現が出やすそう。

## 【第6回】

### ○参加者

- 自分のカード一枚取れてよかった
- メンバーが笑ってくれるから安心して自由に動けた
- ライト使った夜景とプロポーズするのがいそがしかった。
- 人のカードを取って渡して行ったのがよかった。
- みんなと仲良くなった
- とっても楽しかったです。みんなで表現するって楽しいです
- ランダムに出てきたエピソードをみんなの視点からストーリーを作るのが新鮮だった。人の視点からお話をふくらませられるのは楽しい。
- たのしみしてるよ
- みんなを笑わせたい
- あまり体を動かすのは得意ではないなあと思った。体を使っての表現の難しさを感じる。
- まほうのつえがたのしかったです。
- 仲良く出来ました

### ○ファシリテーター

- 不安を伝えれることも含めて
- スタートにかおりの不安とゆるやかな始まり
- 分かりやすくキャッチーなカード、かるたあそびゲーム性のあるカクニン作業、言葉ではなく体が覚えていることを使って。

- みたことのかんそうをちひろがひっばってくれた
- ゆりちゃんの安心さの変化。みんな安心してそれぞれらしさがでている。場に対してから、対\*\*かにすすむか
- 素材もだけど、見た人の視点でつくってること
- パッと言葉にするのが苦手な人もいたかもしれないけど見る楽しさはあったように思うので。
- ストーリーのつくり方の主体をかえたことがよかった
- かずきの思いだし方が面白かった。言葉でいうより気持ちのことでスイッチが。

#### ○ご家族

- 今日ですんなり入っていていた
- 今日魔法使いの魔法のつえを持っていたので最初からテンションアップで下
- セリフがあるとわかりやすいし、ふしぎな感じで良かった。なんとなく見えてきたけど、本番どうするの??

#### ○スタッフ

- お互いに声をかけ合ったり冗談を言ったりする場面があった
- 今日ファシリテーターの一言で参加者が方針を持って自分の演技(動き)をつかむ様子があった
- 特にかおりとこうすけ
- はずかしさとかほとんどなくなっているように見えた。かおり帰るまえゆりちゃんに今年成人式?来年かあ・・・!という会話
- シーンとシーンを結びつける中でたくさんの新しい解釈がうまれていた
- サザエさん方式であたらしいものがどんどん生まれていた

### 【第7回】

#### ○参加者

- みんなで今までやっとな事をかみに書いて沢山できた
- 久々に皆さんに会えてよかった。
- しゅぎょうところはお茶飲んでいるのおは見えたけどお酒飲んでる見たいでした。
- 手紙みたいに楽しかった
- 大きい白い紙が出てくると、ちょっと頭が真っ白になってしまったけれど、困る状態が長引かず少し言葉を記入できてよかった。

- スタッフの方が積極的に文字を書いたり常識はずれなことをしてくれたので色々書きやすかった
- 手紙ところをかつこよく書いた。
- コミュニケーションが上手く出来ないけど、できていると信じたい
- みんな同じ文章の所つかってても全然ちがう感じになっておもしろかった！
- 手紙（空想）を書けて楽しかった
- 思いついた単語をたくさん書いたあとでつながりもない単語を厳選したことで手紙が難しくなったけど同時にとても面白いストーリーができておどろいた
- 体調管理に気を付けて、参加しています
- たのしみしてる

#### ○ファシリテーター

- 開始前、新しい場とか準備できない環境。
- 一つの場にふくすうの目的のこんざつさがあると集中できない
- 場所が違うのと、まわりの声など、かんきょうがあまり良くなかったところがあり。いつものリラックスの空気はさすがに。
- 前回いた人、いなかった人の差など、埋めることがまずあって。でも手紙で来たし、よかった。
- はじめ方、出し方、絵なども含めて
- 個人作業が大きくしめてたので。みんなでもぞう紙におしゃべりしながら書き込むのは自由でよかった絵とか。
- はるのおちつきかん
- かおりが色々おしえてあげたり
- フォーマットのある進め方だったので
- 言葉とのかくとう、体ほど自由ではないけどリアルなかんじも同時に会って。
- 集団で物語をつくっていた。自分自身にとっても課題をもっている。
- 手紙。聞いてるうちにあたりしさを感じはじめた。

#### ○ご家族

- 今日は練習時間に間に合わなくて申し訳ありませんでした。
- なんとなくまとまってきて良かったです。話ができると、自分の役割とかわかりやすくなると思うので、これからは楽しみです。
- みんなのストーリーに深みが生まれてきて、とっても良かったと思います

○スタッフ

- はるは終盤までかなり不安そうだった
- はるが前回お休みだったがフォローがしっかりされていた
- じっくり考えて1人1人発表する時間があった
- より慣れた感じ、ソワソワしたかんじがなくなったような。
- 新しい物語が生まれていた
- アイデアがどんどんつながっているようにみえた
- そういう感想があった
- 手紙それぞれ個性的なものが生まれていてすてきだった
- はるのお手紙で泣いてしまいました。とっても素敵。欲しいです。

【第8回】

○参加者

- ねころがったところがれい霊車(\*原文ママ/霊柩車? -中山)に載せられたところ見たいだった。
- 今日小声ぎみだったけど話せた。
- タオル巻いたような見たいだった。
- みんな仲良し
- 大分馴染んでこれたきがします。
- お話がつながってきた!!
- 色々あって元気なかったけどここにきて心が少し元気になりました。
- 表現することに緊張してこわばってしまう自分がいてなかなか変化していけてないけれど、気持ちは楽しめている。
- たのしみになってきたよ
- よかったです。
- 仲良く参加出来ました。

○ファシリテーター

- 思い出すことと、次を想像することの2つあったことがむつかしかったかも。
- ゆりちゃんがおうちの事情をおして来てくれたり。
- たいせいや、はるなどの発見がものごたりのヒントになっていた。
- こっからかなー♡

- 物語のとり扱いがムズかしい

#### ○ご家族

- 何をどうすれば良いのか??という感じでした
- ステキなお話しは出来たけど、表現とのギャップがあるのでは?もう少しわかりやすくは次回なのでしょう。

#### ○スタッフ

- 久しぶりに見に来ましたが、カオリが親しげに、古賀さんや他の WS 参加者に話しかけていて驚きました。柔らかな雰囲気
- 参加者が流れを理解（納得）しているのかどうかあいまいなシーンがあった
- 途中、お話づくりになると、ついていけない参加者もいたのかなと感じました。
- 今日は参加者が自分の意見をよく言葉にできていたと思う。
- かずきが「・・粉を入れてた・・」という発言
- かずきがよく話すようになって、とても元気だった。さいごのあいさつも元気に「またねー！」
- 物語をまとめる段階でどうしてもファシリテーターが主導してしまう（特に後半）ところがあったと思う
- たいせいが「こな入れた」って言葉からいいシーンがうまれた
- のぶおがかなり早口で説明していたのにみんな理解していたふしぎ。ゆりちゃんもせつめいなくすぐやっていた。
- みんなでお話をつくろとはいつていたがやはりファシリテーター主導で進んでいた
- 初回に比べたらだんぜんコミュニケーションをとっている

### 【第9回】

#### ○参加者

- みんなで笑ったりして楽しかった
- みんなが作品のために考えたり、動いたり、一体感が出ている。
- 代役なって来た。
- 表現を楽しみたい。けどあんまり動けてなかったかも。挑戦しよう!!明日は。
- 別れ時しゃがんでやれた。
- みんなで楽しくできた
- 話せていると思う。

- ワークショップ参加してとっても楽しかった 後2回で終わると思うときみしいです
- 衣装も作るのだから。何をつくるか、楽しみ。
- また参加したいと思うぐらい楽しかった
- くまになった。祝福のダンスが楽しかった。
- いつもは何か表現するのが怖くて不安になっていたけど、来てみたら、安心して表現できた
- まほつかいをもできてよかったです。
- けんかをしないで楽しく参加しました。

#### ○ファシリテーター

- つなぎのときに説明不足にて
- セリフとか、みんなで出来るシーン、プロポーズの生っぽいシーンで、ここにきて、遊び心がまたふくらんだようだった。
- 判断のよりよくなし
- 他者がになっていた役割をひきついたり・・・
- ベースがそうだったので
- たまごを守る、手紙をシュパッとうけとる・・・いろいろ
- 既にしていただけだったので、全体ストーリーのことがまだ手つけれず
- BGMが入ったり、物語りの語りが入ったり・・・これまでやってきたことに名前がつくようなかんじ。

#### ○ご家族

- 全体のストーリーが見通せて、みんなの動きも自信をもったものになってきたように思う

#### ○スタッフ

- こうすけの反応が良かった（笑顔多し）
- 励まし合い声かけ合いまで
- ちあき「見守ってくれる人がいればいい！」→新しいプランが生まれる
- 今日みんなでどんどんやっていく日だったので、中身はそうでもなかったが、シートをつかってあそぶ姿が独自のうごきたくさん有った。

## 【第11回（本番）】

### ○参加者

- ワークショップ参加して本当に良かった 自分のいばしょができたみたいでした
- 毎回、回を重ねるごとに安心感も増し、楽しめました。
- 舞台でまったく緊張しなくておどろいた。去年は手がふるえたりしたのに今年はセリフまであったのに全く大丈夫だった
- 2人がいるところが暗かったので見えなかった。
- 今日はもうリラックスして、みんなと楽しい時間を過ごそうと決めて、そうできたと思います。
- 突然アドリブを入れても許してもらえるので、その場で思いついたことを取り入れることができました
- スナイパーの最初のところがリハーサルよりおもしろくなった。
- みんなと仲良くなりました
- 参加者のみんなとも、他の出演者の方々ともお話出来てよかった。
- たくさんのいろんなごともできてよかったのです。
- とても楽しかった 表現をするのこんなに楽しいと思われてくれてありがとうございます ました
- 舞台のワクワクする感じを味わえてよかった。参加者皆でハイタッチがうれしかった。
- ワークショップではすごしになりいいと思います。
- きょうは、えんげきをたのしくしていと思うです。
- 今日の舞台ドキドキしたけどみんなとやりとげた感があって良かったです。また、参加したいです。のぶおさんこがきよさんみんなありがとうございます ラスト1回
- 始めはただ楽しいだけではなく、自分で作って緊張の中で参加していましたが、今日、皆で良かったとニコニコ終わったので、やったー！！という気持ちです。こんな体験が出来て幸せです。スタッフの皆様、のぶおさん、こがきよさん、そらさん、かおり、たいせい、ゆりちゃん、ちあき、ちひろ、こうすけ、かずき、皆ありがとうございます ました！！
- 「動きが気持ち悪い」私の頭の中にずっと貼りついて離れない言葉です。高校時代に3年間、一挙一投足にいたるまで監視され、少しでもおかしいことをすればそれをマネして言いふらして笑われる。そんないじめを受けていました。その影響で仕事もままならなくなり10年たってもいまだに苦しんでいます。このワークショップで舞台に立つたびに「本当は気持ち悪くないんじゃないか？」「大丈夫なんじゃないか？」と考えられるようになり、まだ仕事に復帰できてないものの、少しずつ前に進めている気がします。



去年は思われなかったけど、今年は自分も「この舞台上、1人でジャグリングをしてみたい」と思えるようにまで回復しています。ぜひ、なくならないで欲しいワークショップだと思います。

#### ○ファシリテーター

- 本番に向けてのドキドキも楽しむことができてよかった。
- ワクワク感。本番を楽しんでいました。
- ストーリーがきまったことで、自分のやることを自分で練習できるようになった
- じゅうたんの変化に対して、うごけたこと
- かなり。みんなで作ってった本番だった。道具やスタンバイや、移動やはじまるって時の感じなど全部。
- かおりが全員に声かけてくれた。はるがみんな前で少しおどけたり（くま）
- 仲間感。なんかよく分からないマスオさんのやつとか。「ねー」の練習とか。
- ねえー（かおり、かずき）
- 自分の力で1人1人が舞台上にいたって気がした。みんなが自分の表現をしていた。
- プロポーズのアクションをみんな考えてチャレンジしてた
- 観客の反応と共に時間をすごした事。

#### ○ご家族

- 毎回金ようびでつかれてるはずなのに、楽しそうに通ってました。
- はずかしがり屋の友李 chan ですが、みんなと仲良く楽しそうに頑張っていました。
- 控え室での練習風景、リハーサルも見せていただき、どん×2演技が良くなっていくみんなで意見を出しあって、みんなで創りあげた作品だなあ〜って感動しました。
- 私は本番当日しか参加できていませんが、日頃からよく友李 chan からお話を聞いてます。これからもどうぞよろしくお願いします。
- 最後に近くなって、お互いの信頼感、安心感が感じられるようになっている
- それぞれのお手紙、表現の表情など、とても生きいきとして輝いてました☆
- 前回の作品より、ストーリー性があって、とても楽しく観劇させていただきました。
- スタッフの皆様、メンバーの皆様、お世話になりました。本日までの準備・運営おつかれさまでした。ずーっと続けて参加させていただけると嬉しいです。
- 出来よりすばらしかったです。
- 参加者皆さんが生き生きと舞台上で表現できていたことが素晴らしいと思いました。その手腕に脱帽です。

○スタッフ

- オロナミンC 残り水事件など、直前に面白い共通トピックができたことが大きい。
- 本番なので少し緊張感があったような感じがしました。でも、その中でも、ワークショップや、のぶおさん、こがきよさんに対する信頼感はあったような気がします。
- おたがいを信頼しあってチームになっていた
- 参加者が演出にしっかり対応できていた。
- 参加者とファシリテーターが対等に会話を楽しんでいるようなところがあった。
- 自分で考えた動きや表現がでてたと思います。たいせいやはるなど
- (おべんとうの時間なども) 自然なやりとりができていた。
- 参加者同士でフォローし合う場面があった。また男女で喋る場面も増えたと思う。
- かおりが検証チームにも仲良く、話しかけてくれたりした
- 声かけがたすけあっていたり、心配しあったり、舞台に立つことで関係がより深まっていた
- かずきが休憩時間中にちあきに蹴られたら「ぎゃーっ」って言お！と言って、本番にやっていた
- かずきーかおりの本番での「ねえ」×3は面白かった。
- 「ねー」を大きな声でいったり、ちあきの「かっこいい！」のセリフなど、よりよくするための意見が本番でばっちりできていた
- どこにもない演劇がうまれていたと思います。

### 3. 告知関連資料

福岡県立ももち文化センター × スペシャルオリンピックス日本・福岡

**表現の面白さを体感するワークショップ**

ダンスが踊れて、みんなで芝居ができて嬉しかった。自分を表現できる場ができた。



仲間ってすごいんだな、と思った。自分の居場所なので続けて参加したい。

© 2019 福岡県立ももち文化センター

福岡県立ももち文化センターでは、知的障がいのある人たちのための国際的なスポーツ組織・スペシャルオリンピックス日本・福岡と共同で、表現プログラムを実施しています。『演劇』の手法を使って、参加者の好きな言葉やそこから生まれる動きをつむぎ、ひとつの作品を全員で作って舞台上で発表します。

**進行役** 五味伸之 (演出家)  
古賀今日子 (俳優)  
野中香織 (Sora) (ダンサー)

**対象** 表現することに興味のある障がいと共に生きる方  
※中学生以上の方を想定したプログラム

**定員** 20人 (先着順) **参加費** 無料

**日時** 2019年 10/18◎ 11/8◎ 11/22◎  
12/13◎ 12/27◎  
2020年 1/10◎ 1/13◎◎  
1/24◎ 1/31◎

19:00～20:10  
※11/13日 19:00～20:10  
※1/13日 19:00～20:10

2/1◎ リハーサル (午後予定)  
2/2◎ 『PEOPLE ART PERFORMANCE』  
公演内で発表 (公演時間: 19:00～)  
【午前中集合→夕方解散予定】  
2/7◎ 19:00～20:10

**会場** **ももちパレス** 本館2F 小ホール 後  
(福岡市早良区百道 2-3-15 地下鉄南洲駅すぐ)

**応募方法**

メールまたはファックスで、お名前・年齢・住所・電話番号をお知らせください。

メール: info@momochi-palace.net  
FAX: 092-851-4545

※12月末まで受付 (途中参加可)。  
ただし定員になり次第締め切ります。

**お問い合わせ**

**福岡県立ももち文化センター**  
TEL: 092-851-4511

主催: 福岡県立ももち文化センター  
スペシャルオリンピックス日本・福岡

協力: 空間再生事業 劇団 GIGA  
一般社団法人 パラ方ダンス  
九州大学大学院芸術工学研究院長連研究室  
一般社団法人「福岡おやじたい」

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金  
(助成・在来型継続型社会連携事業)  
独立行政法人日本芸術文化振興会 

ワークショップ参加者募集チラシ

社会包摂に取り組むための普及啓発事業

# PEOPLE ART PERFORMANCE 2020

～人とアートを運る  
100通りアートプロジェクト～



日時


2020年 2月 2日 (日)

13:30 開演 13:00 開場 15:30 観覧予定

会場

福岡県立ももち文化センター  
(ももちパレス) 大ホール

主催：福岡県立ももち文化センター、一般社団法人パカダンス

助成：  文化庁文化芸術振興費補助金  
(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)  
大分県 独立行政法人日本芸術文化振興会

後援：福岡市、福岡市教育委員会、福岡県教育委員会

お問合せ

福岡県立ももち文化センター  
TEL：092-851-4511

Illustration by Toshihiko Yamamoto

発表会チラシ (おもて)

東京都に在住の外国人の芸術家たち

# PEOPLE ART PERFORMANCE 2020

一人とアートを語る100通りアートプロジェクト



私生活の中は用もスタックも  
生きている間に何度も感じたい。  
それが明日への力をつくるから。

おしゃんが多大先輩男で！  
パパママも、車椅子だって！  
お笑い芸員舞台が多種多様なから、  
おしゃんがアートとダンス関係。



2020年 2月2日 (日)  
13:30 始演 (15:00 開演)

福井県立ももち文化センター  
(1555-0001) 大ホール  
(福井県福井市西条2-1-1)



福井県福井市西条2-1-1 (福井駅)  
国鉄1号線「福井」駅より徒歩15分

チケット  
一般 2,000円 (税込) 2,500円 (税込)  
学生 1,000円 (税込) 1,500円 (税込)

特別価格 (学生) 1,000円 (税込)  
特別価格 (学生) 1,500円 (税込)

※学生割引は要証明

チケット情報  
ホームページ  
<https://www.paradance.com/>  
電話予約: 0570-054-008 (受付時間)  
チケットセンター: 0570-000-407  
(受付時間)

福井県立ももち文化センター  
窓口案内: 057-821-4211  
電話予約: 0570-054-008  
国鉄1号線「福井」駅より徒歩15分



Perfect Dance

この指とまれ、

SMILE PRESENTS

ブライズマールを

ワレワレワレ

Ruse Ballet 舞付 長瀬あゆみ

コトアルズ 舞付 Sencha

juice planet 舞付 すら

表現の面白さを提供するワークショップ



構成・総合演出: マニシア

## <みんなDEダンスWS>

ダンスの楽しさを伝えるワークショップです。ダンス初心者にも楽しく参加できる内容です。お気軽に参加してください。

## ワークショップ / パフォーマンス&ディスカッション

ワークショップ  
【あそびダンス for Adults】  
〜みんなで楽しむダンス、みんなで楽しむディスカッション〜

パフォーマンス  
【When I draw my last breath】  
舞付: Claire, Shou, Sencha, Mando, すら, マニシア

日時: 2020年 1月31日 (日) 18:30 - 21:00  
料金は 2,000円 (税込、チケット代別注)

申込: <https://www.facebook.com/paradance/>  
お問い合わせ: 0570-054-008  
お問い合わせ: [info@paradance.com](mailto:info@paradance.com) TEL: 0570-054-008  
主催: 一般社団法人パチオダンス



発表会チラシ (うら)



## 執筆者一覧

長津 結一郎（九州大学 大学院芸術工学研究院 コミュニケーションデザイン科学部門 助教）

研究設計、全体監修、執筆（1～4、6）

中山 博晶（九州大学 大学院人間環境学府 教育システム専攻 修士2年）

執筆（5～6）

（肩書きはいずれも2020年3月現在）

### 2019年度 障害のある人を対象とした演劇ワークショップ 検証報告書 ～福岡県立ももち文化センターによる社会包摂事業を対象に～

監 修 長津結一郎

執 筆 中山博晶、長津結一郎

編集協力（当日記録）田村さえ、野中香織、大和真彩子

講座主催 福岡県立ももち文化センター

発行日 2020年3月31日

発行者 九州大学大学院芸術工学研究院長津研究室

〒815-8540 福岡県福岡市南区塩原 4-9-1

Tel: 092-553-4648

Mail: [nagatsu@design.kyushu-u.ac.jp](mailto:nagatsu@design.kyushu-u.ac.jp)

本報告書は、「障がいのある人を対象とした演劇ワークショップの検証方法に関する研究」の成果物です。